東京医師アカデミー

令和５年度　研修概要
各病院研修コースの紹介

本冊子に掲載している研修コースは、新専門医制度の動向により変更する場合があります。

「東京医師アカデミー」で、
総合診療能力と専門能力を兼ね備えた
真の専門医を目指して

平成20年度、 東京都が運営する８つの都立病院と(公財)東京都保健医療公社が運営する６つの病院が一体となった一大メディカルグループを基盤とした、 専門医取得のための後期臨床研修システムが開講しました。

それが「東京医師アカデミー」です。

各病院の特色を活かした専門研修プログラムを用意し、
これまで900名以上の修了生を輩出してきました。

令和4年7月、 都立病院と公社病院は、
地方独立行政法人東京都立病院機構に移行します。
東京医師アカデミーは、 地方独立行政法人のメリットを活かして、
より魅力的な研修環境を整備し、 基幹・連携施設を問わず、
どの施設においても、専門医の取得に向けた十分な研修を行うことができます。

東京医師アカデミーでは、 都民や地域から求められるだけではなく、
将来、 ともに日本の医療界をリードする仲間を募集します。

◆東京医師アカデミーとは
東京医師アカデミーの紹介　p.01

◆研修の特徴
内科　p.14
外科　p.30
産婦人科　p.37
小児科　p.40
精神科　p.48
整形外科　p.52
麻酔科　p.55
皮膚科　p.60
耳鼻咽喉科　p.64
泌尿器科　p.66
病理科　p.68
放射線科　p.70
救急科　p.75
総合診療科　p.78

◆各病院の概要
広尾病院　p.82
大塚病院　p.84
駒込病院　p.86
墨東病院　p.88
多摩総合医療センター　p.90
神経病院　p.92
小児総合医療センター　p.94
松沢病院　p.96
東部地域病院　p.98
多摩南部地域病院　p.100
大久保病院　p.102
多摩北部医療センター　p.104
荏原病院　p.106
豊島病院　p.108

クリニカルフェロー紹介
病院一覧（病院マップ）

「東京医師アカデミー」運営委員長から

東京都病院経営本部医師アカデミー顧問

古賀　信憲

東京医師アカデミー運営委員会委員長

元墨東病院院長

東京医師アカデミーは、「総合診療能力を備え、社会のニーズに応えた質の高い専門医を養成する」ことをコンセプトとして、平成 20 年に開講した自治体が運営する都立病院・公社病院を合わせた組織的な後期研修制度です。以来、毎年全国から 100 名程が入講し、常時 300 余名の若手医師が専門研修に励んでおり、修了後には多くの優秀な専門医が東京都内をはじめ、全国各地で活躍しています。さらにはより高度な専門性を求めて研修や研究が行えるアドバンストレジデント（＊）やクリニカル・フェローの制度も併設し、専門医取得後のキャリアとして人気を集めています。

なお、研修基盤である都立病院・公社病院はこの令和 4 年 7 月に独立行政法人化し、新たに「地方独立行政法人東京都立病院機構」としてスタートします。全 14 病院がさらに強い連携体制を築き、7,000 床を超えるスケールメリットを今まで以上に生かした体制で、専門医取得に向けた研修のレベルアップを目指しています。

日本専門医機構による新専門医制度も 5 年目を迎えます。東京医師アカデミーでも多くの基本領域専門研修プログラムを作成し、あるいは設定困難な研修プログラムにおいては大学等の基幹施設の施設群に加わることによって、連携施設を含めた多くの施設間で連携をとりながら、プログラム整備基準に基づいた各科基本領域専門医を取得できる体制を構築しています。

また、サブスペシャルティ領域の専門医取得にも従前のアドバンストコースに加えて多くのコースが設定されています。日本専門医機構においてもサブスペシャルティ領域の体制整備が進み、専門医の認定も始まろうとしていますが、医師アカデミーでもさらにプログラムの充実と指導体制強化などに努め、日本専門医機構の動向も見据えながら、常に対応できるように準備をしています。

そして医師アカデミーの研修体制には、災害対応や感染症対策ならびに臨床研究に関する集合研修や研究発表会等々が組み込まれており、専攻医はしっかりした運営基盤のもとで安心して幅広く専門研修に励むことができます。

一昨年来の新型コロナ感染症診療の影響は大きく、医師アカデミーでの研修体制も大きく縮小せざるを得ない部分もありましたが、そこは連携の強さが発揮されました。また多くの専攻医が診療に関わりましたが、感染症への対応はまさに医師アカデミーで学ぶべき「総合診療能力」の一つであり、公的病院の責務を理解し、行政的医療に参加できる良い機会との使命感に燃えて活躍する姿は誇らしく、そして感謝に堪えません。

このような中でこそ、患者さん中心の医療を実践し、都民から求められそして社会から認められる専門医を目指す意義があるのではないでしょうか。東京医師アカデミーでは長年培った組織的な体制を盾に、充実した研修と専門医取得に向けて全面的なバックアップをしていくつもりです。

また医療技術の専門性だけではなく、地域医療への関わりをはじめ医療社会環境の変化への対応能力、災害対応能力、さらには国際化社会に向けての視野拡大、さらに医療人・人間として必要な理性や倫理観なども、東京医師アカデミーという組織体制の中でしっかりと学べるでしょう。これらは独法化されたのちでも変わることはありません。

専門医を目指す若手医師の皆さん、首都・東京の先進的「東京医師アカデミー」で真の専門医となるために腕を磨く努力をされてはいかがでしょう。皆さんを心からお待ちしています。

（＊）東京医師アカデミーにおける小児・新生児科を中心としたコース（都独自のプログラム）

東京医師アカデミーの紹介

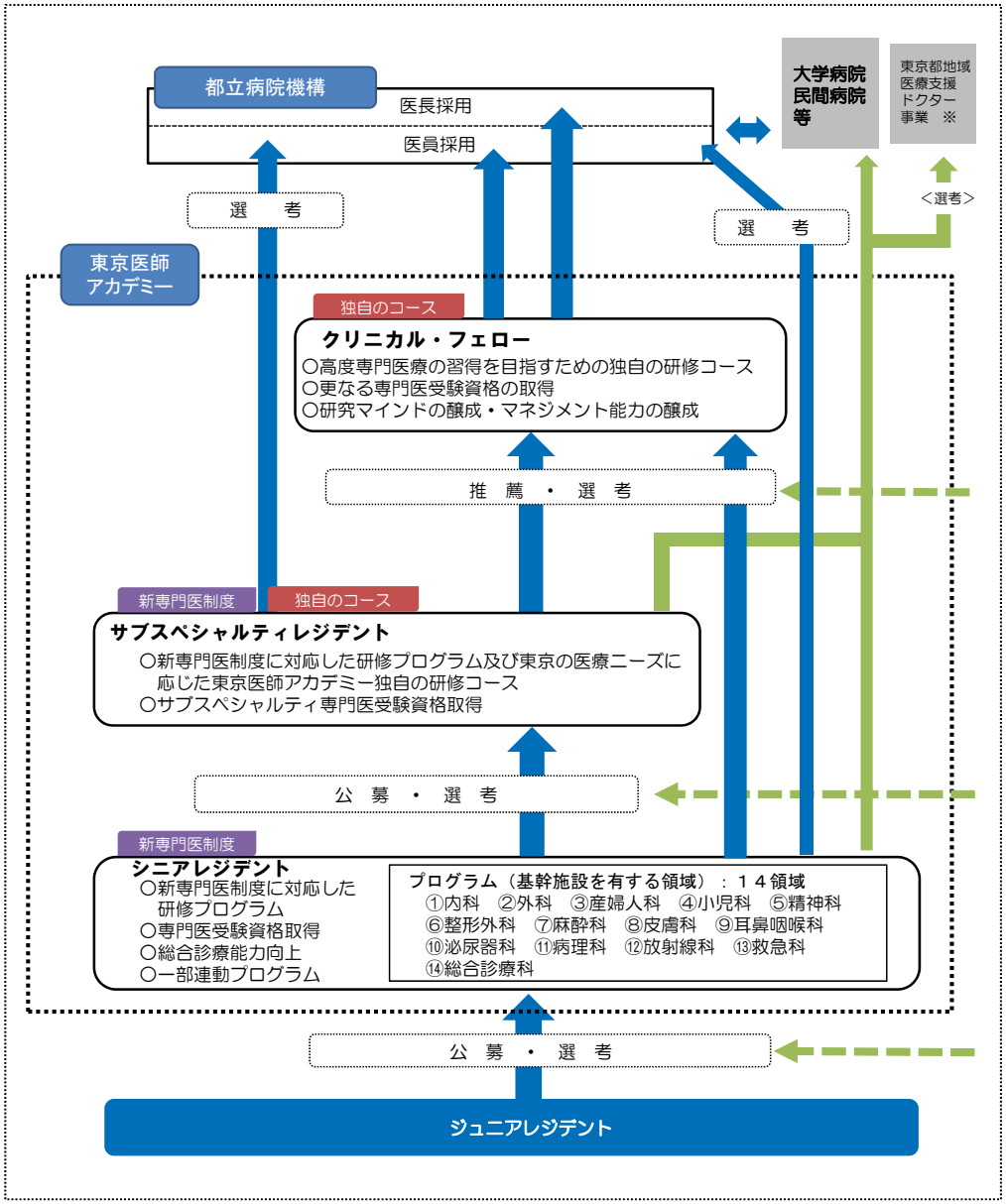
基本理念

- 7200 床のスケールメリットと豊富な症例を活かした総合診療能力を有する専門医を育成する
- 先端医療の修得を視野に入れた医師育成システムを提供する
- 医師キャリアパスの構築を可能とする充実した指導体制を提供する

到達目標

- 高度・専門領域の豊富な症例と優秀な指導スタッフにより各分野の専門医資格を取得する
- ER 診療等において多様な症例を経験することで総合診療能力を身につける
- 国内外派遣による先端医療技術の修得や臨床研究などにより専門性をさらに高めることができる
- 臨床研修指導医層になることで教育指導力等を身につける

地方独立行政法人後の東京医師アカデミーの体系



※　東京都地域医療支援ドクターとは、東京都（福祉保健局）が地域医療の支援に意欲を持つ医師を採用し、医師不足が深刻な市町村公立病院等に一定期間派遣する事業

東京医師アカデミー　共通目標

各病院が運営するプログラムでは、すべてのプログラムに共通する、東京医師アカデミーとしての目標を設定しています。

1 【医療倫理・職業倫理の涵養】医の職業倫理を理解し、医師として相応しい品性を陶冶する。	
1	修練した医術を誠心誠意実施し、いかなる患者も差別せず、患者の秘密を厳守して医療を実践するという「ヒポクラテスの誓い」の精神に配慮した態度で医療を実践することができる。
2	生命に関わる職業人としてふさわしい身だしなみ、言動、態度で患者に接することができる。
3	全人的医療を実践するために、患者や家族のニーズを身体的・精神的・社会的側面から把握することができる。
4	生命の尊さを認識し、不妊治療・周産期医療や終末期医療・脳死・尊厳死などに関わる倫理的問題に配慮して行動することができる。

2 【コミュニケーション能力の醸成】安全で質の高い医療を提供するため、患者・家族・医療者ときめ細やかなコミュニケーションをとり情報の共有化を図る。	
1	患者の訴えや話しに対して、患者の目線で真摯な対応・言動ができる。
2	患者に対して疾病に関する可能な限りの情報を提供することができる。
3	医師と患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントができる。
4	「患者権利章典」を患者や家族に説明することができる。
5	患者を含め、上司、同僚、後輩、他職種などと適切にコミュニケーションを図ることができる。
6	治療に際して患者の意思を尊重した（自己決定権に配慮した）医療を行うことができる。
7	患者・家族との良好な信頼関係を築き、死亡された時には必要に応じて病理解剖の承諾を得ることができる。

3 【チーム医療の実践】患者中心の医療を実践するため、医師として医療の中核を担う役割や責任を自覚し、多職種のチームとの適切な連携を図る。	
1	独断的な診療は行わず、指導医に対して適切なタイミングで報告、連絡、相談をすることができる。
2	治療法等の選択肢が多くある場合には、当該の関係診療科によるボード等を活用するとともに、常に患者・家族の意思を尊重して治療法を決定することができる。
3	チームカンファレンスへの出席の重要性を認識し、医師が指導的役割を果たしつつ、各コメディカルや事務職などの専門職と協調することができる。
4	ICT、NST、褥瘡対策チームなど院内各チームの意義を理解し、これらチームと適切に連携することができる。
5	チーム医療におけるリーダーとして、看護師など他職種への医療上の指示を適切に行うことができる。
6	院内外を問わず患者情報を共有する重要性を理解し、日頃から他科依頼や診療情報提供書作成を適時的確に行うことができる。

4 【後輩指導とリーダーシップの発揮】後輩指導などを通して、医師としてのリーダーシップを発揮する。	
1	後輩レジデントについて、コースの到達目標・行動目標を念頭に置いた教育予定を立案することができる。
2	後輩レジデントに対して、教育計画に基づく計画的な教育・指導をすることができる。
3	後輩レジデントに対して、医の職業倫理の範を示し、指導することができる。
4	後輩レジデントの状況（精神状況も含め）を把握し親身に相談に乗るとともに、必要に応じて上司と連携して対処することができる（メンタルヘルスのサポートができる）。
5	他職種の役割や業務の流れを理解し、医師としてのリーダーシップを発揮しながら他職種の専門性を引き出すことができる。
6	上級医師に対しても率直な意見を述べることができる。
7	院内カンファレンスや CPC に積極的に参加し、司会などを通じてリーダーシップを発揮することができる。
8	必要とされる teaching skill を身につけるために、院内外の指導医養成講習会等に積極的に参加し、その運営に協力することができる。

5 【医療安全の確保】リスクマネジメント活動、医療事故防止、院内感染対策の必要性を理解し安全管理の方策を身につけ、危機管理に積極的に参画する。	
1	患者および医療者の双方にとって安全な医療を遂行することができる。
2	医療安全に関するルールを遵守し、薬剤の疑義照会など軽微なものであってもインシデント・アクシデントレポートを率先して提出することができる。
3	医療事故に関する法的な側面や異状死等の発生時における報告体制を理解し、適切に対処することができる。
4	院内で発生し得る事故について、組織的な予防策を提言することができる。
5	ICT の必要性を十分理解し、院内感染の評価、予防、対策を適切に行うことができる。
6	感染防御について、患者や医療スタッフの安全確保に必要な知識をもち、実践することができる。

6 【適切な診療・治療の実施】Evidence based Medicine（EBM）や標準的治療に心がけ、質の高い医療を実践する。	
1	検査・処置・手術の意義、適応などを理解し、個々の症例の病態に合わせた適切な検査・治療計画を立て、遂行することができる。
2	診療ガイドラインの内容を理解し、当該ガイドラインに沿った標準的治療を行うことができる。
3	収集した EBM の患者への適応を的確に判断することができる。
4	クリニカルパスを理解・活用し、安全確実な診療を行うことができる。
5	クリニカルパスのバリアンスについて、要因分析しパスを修正することができる。
6	患者が求めるときは、積極的にセカンドオピニオンを勧めることができる。
7	臨床データの整理・解析を行い、治療計画に活用することができる。
8	立案した治療計画を評価し、必要に応じて計画修正の提案を行うことができる。

7 【臨床能力の向上】専門家（Professional）としての自覚を持ち、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、先端医療などの研鑽を積極的に行う。	
1	専門医療技術の習得のため、自ら積極的に多数の患者の診療経験を積むことができる。
2	専門医受験資格取得のための修練だけでなく、資格取得に直接関係のない診療に際しても区別なく意欲的に取り組むことができる。
3	学会等に参加して先端医療を積極的に学び、知識・技術等の向上に努めることができる。
4	「二次救命処置ができ一次救命処置を指導できる」という到達目標に向けて研修中のジュニアレジデントの off the job training に、定期的に上級医として参加することができる。
5	大規模災害時の救急医療体制を理解し応急処置の技術を身に付け、自己の役割を把握するために院内等で開催される災害訓練に積極的に関与することができる。

8 【臨床研究・学会活動への参加】臨床研究・学会活動に積極的に参加し、医学の発展に貢献する。	
1	「ヘルシンキ宣言」を遵守し、厚生労働省の「臨床研究の倫理指針」に沿った臨床研究を推進することができる。
2	臨床研究勉強会（研究デザイン・文献の検索方法・統計解析の基礎など）に参加することができる。
3	臨床研究の意義や方法論を理解し、臨床研究の実施計画の立案を適切に行うことができる。
4	積極的に臨床研究やトランスレーショナル・リサーチに参加し、医学の進歩に寄与することができる。
5	臨床研究の成果について、学会発表だけではなく、論文発表（できれば英文論文）を行うことができる。
6	自身の診療能力の向上や医学発展に貢献するためのモチベーションをさらに高めるために、積極的に最新の学会報告や医学論文に接することができる。

9 【医療制度・医療経営の理解等】医療制度や医療経営、医療連携推進の重要性などについて理解を深める。	
1	医師法、医療法、保険医療機関及び保険医療養担当規則などを理解し、法律に則った医療を実践することができる。
2	公的病院の使命・役割を理解し、日頃から行政的医療に積極的に協力することができる。
3	「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン」等の内容を十分理解し、患者の個人情報を適切に取り扱うことができる。
4	日常の病歴作成を迅速かつ適切に行うとともに、退院時要約を早期に完成することができる。
5	受持ち患者について、在院日数や病床利用率を念頭に置いた病床管理に努めることができる。
6	薬剤、診療材料費などについて、費用対効果を考えた治療を行うことができる。
7	医療保険制度を理解し、診療報酬請求や再審査請求を適切に行うことができる。
8	紹介患者の受入れを円滑に行い、紹介病院に対して速やかに経過報告書を書くことができる。
9	医療連携の意義を理解し、返送・逆紹介を積極的に行うなど関係医療機関との適切なコミュニケーションを図ることができる。
10	専門性の追求のみにとどまらず、医療を取り巻く社会情勢などにも興味を持ち、広い見地から医療を実践することができる。

地方独立行政法人 東京都立病院機構 について

令和４年７月、都立病院と公社病院が一体となって「地方独立行政法人東京都立病院機構」に移行します。

東京都立病院（８病院）	＋	東京都保健医療公社（6病院・1検診センター）
広尾病院		東部地域病院
大塚病院		多摩南部地域病院
駒込病院		大久保病院
墨東病院		多摩北部医療センター
多摩総合医療センター		荏原病院
神経病院		豊島病院
小児総合医療センター		東京都がん検診センター
松沢病院		

令和4年7月 誕生

“地方独立行政法人
東京都立病院機構”

全 14 病院・1 検診センターの、新しい名称はこのようになります。

新 名 称	
東京都立広尾病院	東京都立多摩北部医療センター
東京都立大久保病院	東京都立東部地域病院
東京都立大塚病院	東京都立多摩南部地域病院
東京都立駒込病院	東京都立神経病院
東京都立豊島病院	東京都立小児総合医療センター
東京都立荏原病院	東京都立松沢病院
東京都立墨東病院	東京都立がん検診センター
東京都立多摩総合医療センター	

※ P.14 からの「研修の特徴」に掲載されているプログラム名は、独立行政法人化後に変更になる可能性があります。

都立病院機構の目指す方向性

高齢化や医療の高度化など医療環境の変化のスピードが加速する中でも独法化のメリットをいかして、柔軟な人材確保や迅速な経営判断などにより都民ニーズに機動的に対応

行政的医療等の一層の充実
- 行政的医療等の充実・強化
- 災害・感染症等への着実な対応

地域医療の充実への貢献
- 地域包括ケアシステム構築への貢献
- 地域とともに人材を確保・育成・活用

将来にわたって、都民の誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる東京を実現

行政的医療とは

項目及び考え方		医療課題
ア　法令等に基づき対応が求められる医療	法令上又は歴史的経過から、行政の積極的な関与が期待され、都が主体となって担うべき医療	●精神科救急医療 ●医療観察法医療 ●結核医療 ●感染症医療（主に一類・二類） ●災害医療
イ　社会的要請から特に対策を講じなければならない医療	都民ニーズ、患者ニーズと比較して、一般医療機関等のサービス提供が質的・量的に不足する医療分野について、都の医療政策を推進する上で担うべき医療	
㈠　一般の医療機関での対応が困難な医療	多様なマンパワーの確保や特別な対応が必要で採算の確保が難しいことなどから、民間の取組が困難な医療	●小児専門医療（心臓病、腎臓病等） ●難病医療 ●アレルギー疾患医療（重症、難治性） ●精神科身体合併症医療 ●精神科専門医療（アルコール、薬物依存等） ●造血幹細胞移植医療 ●エイズ医療 ●救急医療（熱傷等） ●障害者合併症医療 ●障害者歯科医療 ●島しょ医療
㈡　都民ニーズが高く高度な医療水準とそれを支える総合診療基盤により対応する医療	都民ニーズが高く、総合診療基盤に支えられたより高度な医療や、合併症等への対応等、他の医療機関を補完するために担うべき医療	●周産期医療（MFICU、NICU 対応等） ●がん医療（難治性、合併症併発等） ●救急医療（三次、CCU、SCU、二次（休日・全夜間））
ウ　新たな医療課題に対して先導的に取り組む必要がある医療	時代に応じた新たな医療課題に対して、一般医療機関の医療提供体制が確立するまでの間対応する医療	●小児がん医療 ●児童・思春期精神科医療 ●移行期医療 ●外国人患者への医療

東京医師アカデミーとしての研修

■各病院内研修

各病院ごとに、特色と専門性を活かした院内研修を実施しています。興味があれば、所属病院以外の研修を受講することもできます。

■集合研修

東京医師アカデミーではレジデントに対して、様々な集合研修を実施しています。いずれも日常における診療にも役立つ、スキル・判断力が身に付く研修内容となっています。

災害医療研修（全員）

●トリアージ訓練、机上訓練等を通じて、災害時に適切な行動がとれるように、災害医療の特殊性など独自の概念を理解し、必要となる診療手技を身につけます。

（トリアージ訓練実施の様子/R2年度）

（救急科の講師による災害医療についての講義 /R2年度）

災害実践研修（希望制）

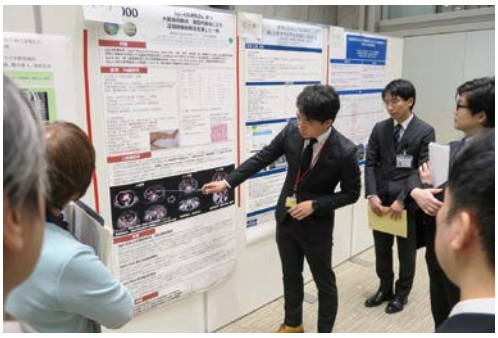
●医療資源の乏しい災害時を想定し、「気道緊急」や「骨折・脱臼」等の具体的処置を通じてケーススタディを行い、専門領域を問わない災害時の医師としての対応を身に付けます。また、エマルゴシミュレーションを実施し、限られた時間内に的確な判断を行い、限りある人的・物的資源を最大限に有効利用する能力を身に付けます。　※研修内容は年度によって変更となる場合があります。

（気道確保処置の実践 /R1年度）

（エマルゴシミュレーションによる患者フローの理解 /R1年度）

研究発表会（全員）

●日常診療で経験した症例や臨床研修・研究成果を発表します。令和３年度は、オンデマンド形式で開催しました。



（ポスター展示と発表の様子 /R1年度）

（特別講演の様子 /R1年度）

アカデミー語学研修（希望制）

●今後増加が見込まれる外国人患者に対して、医師として安心・安全な医療を提供するため、医療系英語を中心とした研修を実施することにより、円滑な外国人対応を目指します。

（語学研修の様子① /R1年度）

（語学研修の様子② /R1年度）

感染症対応能力向上研修（希望制）

●感染症の症候別講義や症例シナリオに沿ったディスカッションやプレゼンテーションを通じて、感染症に関しての初期対応、感染対策及び必要となる処置や判断について学びます。

（グループワーク結果のプレゼンテーション /R1年度）

（感染症科の講師による研修フィードバック /R1年度）

※研修内容は変更となる可能性があります。

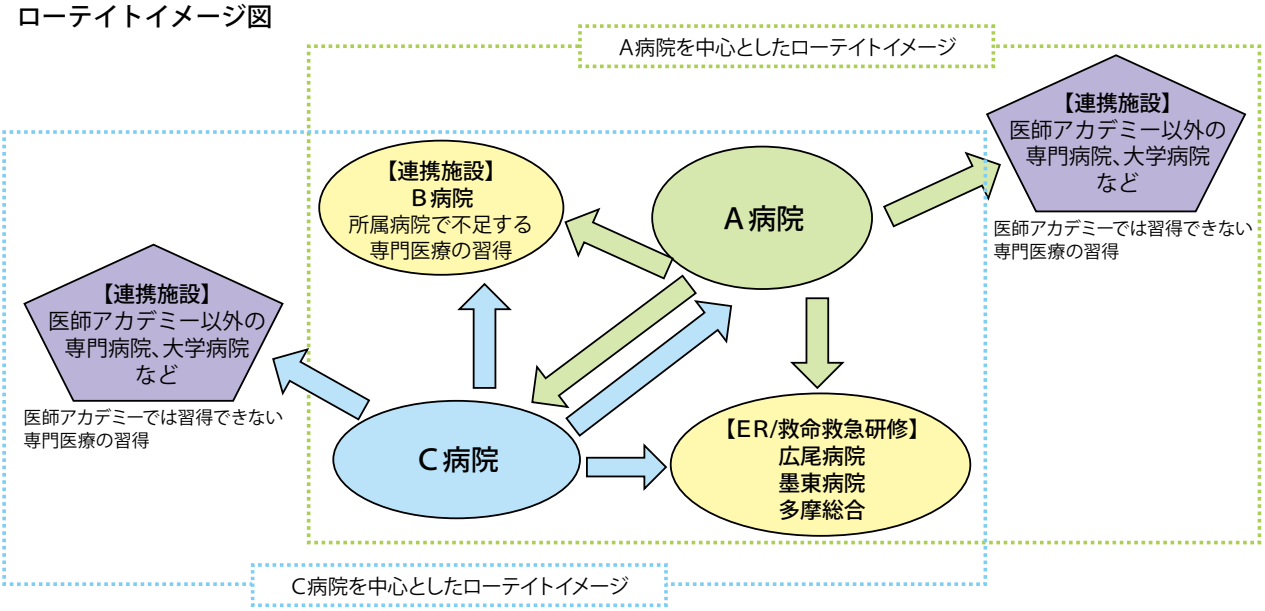
臨床研究研修（希望制）

●臨床研究の基本概念や実施の際に必要となる知識等について演習を交えて学びます。

■病院間連携（ローテイト）

各病院の総病床数は約 7,200 床。このスケールメリットをフル活用するため、病院間の連携を拡大・強化しています。所属病院での研修で不足する症例や、経験できない症例がある場合は、各病院の連携により補うことができます。医師アカデミー以外の連携施設での研修も可能です。新型コロナウイルス感染症への対応にあたっても、病院間連携を行うことで、円滑に研修ができています。

ローテイトイメージ図



※各病院が複数の病院と連携しています。研修施設群一覧はP.12をご覧ください。

■ ER ／救命救急短期研修

内科系コース及び外科系コースの一部のシニアレジデントは、ER/ 救命救急における３ヶ月の短期ＥＲ研修を必修としています。（広尾、墨東、多摩総合のいずれかで研修）その他のコースにおいても、同研修の受講を推奨しています。

一般目標　GIO

1　生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対する適切な診断・初期治療能力を身につける。
2　救急患者およびその家族に対する、診療態度と接遇を身につける。
3　救急医療システムを理解する。
4　災害医療の基本を理解する。

行動目標　SBOs

1　救急診療の基本事項
(1)　救急患者の身体所見を的確にとり、適切な鑑別診断を挙げることができる。
(2)　基本的な救急処置、検査や治療手技を安全で確実に行えるスキルを身につける。
(3)　救急患者および家族の不安に配慮した対応と説明ができるようになる。
(4)　コメディカルと協力して診療をスムーズに行えるような態度を身につける。
(5)　専門医への適切なコンサルテーションができるようになる。
(6)　頻度の高い救急疾患･外傷の初期治療ができる。
(7)　二次救命処置（ACLS）ができ、一次救命処置（BLS）を指導できる。

2　救急診療に必要な検査
(1)　必要な検査（検体､画像､心電図）が指示できる。
(2)　緊急性の高い異常検査所見を指摘できる。

3　経験しなければならない手技
(1)　気道確保を実施できる。
(2)　気管挿管を実施できる。
(3)　人工呼吸を実施できる。
(4)　心マッサージを実施できる。
(5)　除細動を実施できる。
(6)　注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈路確保、中心静脈路確保）を実施できる。
(7)　緊急薬剤（心血管作動薬、抗不整脈薬、抗けいれん薬など）が使用できる。
(8)　採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。
(9)　導尿法を実施できる。
(10)　穿刺法（腰椎、胸腔、腹腔）を実施できる。
(11)　胃管の挿入と管理ができる。
(12)　圧迫止血法を実施できる。
(13)　局所麻酔法を実施できる。
(14)　簡単な切開・排膿を実施できる。
(15)　皮膚縫合法を実施できる。
(16)　創部消毒とガーゼ交換を実施できる。
(17)　軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。
(18)　包帯法を実施できる。
(19)　ドレーン・チューブ類の管理ができる。
(20)　緊急輸血が実施できる。

4　経験しなければならない症状・病態・疾患
A　頻度の高い症状
＊「経験」とは、自ら診療し、鑑別診断を行うこと
(1)　発疹
(2)　発熱
(3)　頭痛
(4)　めまい
(5)　失神
(6)　けいれん発作
(7)　視力障害、視野狭窄
(8)　鼻出血
(9)　胸痛
(10)　動悸
(11)　呼吸困難
(12)　咳・痰
(13)　嘔気・嘔吐
(14)　吐血・下血
(15)　腹痛
(16)　便通異常（下痢、便秘）
(17)　腰痛
(18)　歩行障害
(19)　四肢のしびれ
(20)　血尿
(21)　排尿障害（尿失禁・排尿困難）
B　緊急を要する症状・病態
＊「経験」とは、初期治療に参加すること
(1)　心肺停止
(2)　ショック
(3)　意識障害
(4)　脳血管障害
(5)　急性呼吸不全
(6)　急性心不全
(7)　急性冠症候群
(8)　急性腹症
(9)　急性消化管出血
(10)　急性腎不全
(11)　急性感染症
(12)　外傷
(13)　急性中毒
(14)　誤飲、誤嚥
(15)　熱傷
(16)　流・早産および満期産
（当該科研修で経験してもよい）
(17)　精神科領域の救急
（当該科研修で経験してもよい）

5　救急医療システム
(1)　救急医療体制を説明できる。
(2)　地域のメディカルコントロール体制を把握している。

6　災害時医療
(1)　トリアージの概念を説明できる。
(2)　災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握している。

学習環境・臨床研究

東京医師アカデミーの研修病院では、レジデントが充実した研修や臨床研究に取り組むことができるように、下記の取組を行っています。

■学習環境を整備しています

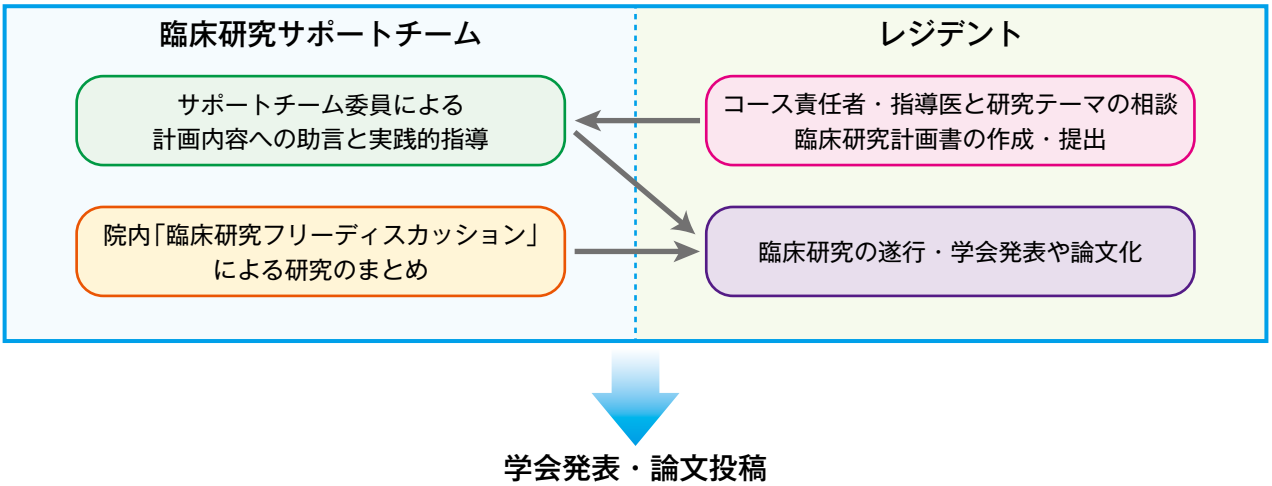
●全病院で院内の各自のパソコンから UpToDate が使用できます。
●オンラインジャーナルは、各病院の専門性や特色に合わせて病院ごとに整備されています。
●図書室が整備されています。
●コースによりシミュレータを使用した研修を実施しています。
●学会参加費、旅費や学会加入費など、専門医の取得に必要な費用を支援します。

〔シミュレータ〕

■臨床研究・学位取得をサポートしています

●東京医師アカデミーではレジデントの臨床研究を支援しており、各病院で学会発表、論文投稿をサポートしています。

例：広尾病院での臨床研究サポート体制



●東京医師アカデミーでは、研究に関心のあるレジデントが、東京都医学総合研究所で行われる研究に参加できるよう支援しています。

（公財）東京都医学総合研究所で取り組んでいる研究課題				
がんと感染症	脳の疾患と障害	精神の障害	療養者・障害者のケア	先端的基礎研究

研究所が行う研究に参加し、研究員の指導の下に臨床研究を行うことができます（研究所による審査があります）。
研究所の連携大学院に社会人大学院生として入学することにより、学位取得を目指した研究を行うこともできます。
研究所が構築している脳病理標本データベースを、自己学習のために利用できます。

●他大学院で学位取得を目指した研究を行うこともできます。

東京医師アカデミー　シニアレジデントの応募資格

応募資格	令和5年3月に初期臨床研修修了予定の方、又はそれと同程度の臨床経験を有する方
募集人員	全体で 100 名程度（令和４年度採用実績）
採用選考方法	口頭試問、面接試験など ・研修コースにより異なりますので、各病院のホームページを参照ください。
出願方法及び時期	後日、ホームページで公開します。
採用選考日程	後日、ホームページで公開します。
採用予定日	令和５年４月１日
処遇	（令和５年度）

身　　分：東京都立病院機構　任期付病院職員
雇用期間：各研修プログラムで定める年限
勤務形態：週５日以内（宿直あり）（原則）。１日７時間 45 分（原則）
始業及び終業の時刻、休憩時間は、所属長の定めによる。
有給休暇等：１年目 10 日。２年目以降は任用年数に応じて付与。他に夏季休暇等あり
報　　酬：採用前に改定があった場合は、その定めによる。
日給 20,000 円
月額 400,000 円（月 20 日勤務、宿直なしで勤務した場合の例）
他に賞与、宿日直手当（20,000 円 / 回）、超過勤務手当、救急医療業務手当あり
保　　険：健康保険、厚生年金保険あり
宿　　舎：あり（単身のみ）
そ の 他：研究研修費支給

東京医師アカデミー　サブスペシャルティレジデントの応募資格

応募資格	令和５年３月に基本領域研修修了予定の方、又はそれと同程度の臨床経験を有する方
募集人員	各病院へお問い合わせください。
採用選考方法	口頭試問、面接試験など ・研修コースにより異なりますので、各病院のホームページを参照ください。
出願方法及び時期	後日、ホームページで公開します。
採用選考日程	後日、ホームページで公開します。
採用予定日	令和５年４月１日
処遇	（令和５年度）

身　　分：東京都立病院機構　任期付病院職員
雇用期間：各研修プログラムで定める年限
勤務形態：週５日以内（宿直あり）（原則）。１日７時間 45 分（原則）
始業及び終業の時刻、休憩時間は、所属長の定めによる。
有給休暇等：１年目 10 日。２年目以降は任用年数に応じて付与。他に夏季休暇等あり
報　　酬：採用前に改定があった場合は、その定めによる。
日給 25,400 円
月額 508,000 円（月 20 日勤務、宿直なしで勤務した場合の例）
他に賞与、宿日直手当（25,400 円 / 回）、超過勤務手当、救急医療業務手当等あり
保　　険：健康保険、厚生年金保険あり
宿　　舎：あり（単身のみ）
そ の 他：研究研修費支給

基本領域設置プログラム一覧

東京医師アカデミーでは、次のとおり 14 領域 47 プログラムを申請しています。

※令和 4 年 5 月末現在。申請中及び申請予定のプログラムを含みます。

病院名	主な重点医療等	病床数	医師アカデミーで研修を行うことのできる基本領域（新専門医制度）													
			内科	外科	産婦人科	小児科	精神科	整形外科	麻酔科	皮膚科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	病理科	放射線科	救急科	総合診療
広尾病院	救急医療（三次、熱傷等）、災害医療、島しょ医療、小児医療、精神科身体合併症医療、障害者歯科医療	426	◎	○		○	○	○	◎	○			○		◎	◎
大塚病院	周産期医療、小児医療、児童精神科医療、救急医療（二次、脳卒中）、障害者（児）医療、災害医療	498	◎	○	○	◎			◎	○		○		○		
駒込病院	がん医療（ゲノム、難治性、合併症併発等）、造血幹細胞移植医療、感染症医療（主に一類・二類）、救急医療（二次）、災害医療	815	◎	○	○		○	○	◎	○	○	◎	◎	◎		◎
墨東病院	救急医療（三次、熱傷等）、周産期医療、小児医療、感染症医療（主に一類・二類）、がん医療（合併症併発等）、精神科救急医療、精神科身体合併症医療、障害者歯科医療、災害医療	765	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎		○	○	○	◎	◎
多摩総合医療センター	救急医療（三次、熱傷等）、周産期医療、がん医療（合併症併発等）、精神科救急医療、精神科身体合併症医療、感染症医療、難病医療、障害者歯科医療、移行期医療、災害医療	789	◎	◎	◎		◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎
神経病院	難病医療（神経、筋疾患）、災害医療	304	○						○		○		○	○		○
小児総合医療センター	小児救急医療（三次）、小児がん医療、周産期医療、小児専門医療（心臓病、腎臓病等）、児童・思春期精神科医療、小児結核医療、小児難病医療、アレルギー疾患医療、障害児歯科医療、移行期医療、災害医療	561		○		◎	◎	○	○		○	○	○	○	○	○
松沢病院	精神科救急医療、精神科身体合併症医療、精神科専門医療（アルコール、薬物依存等）、医療観察法医療、精神障害者歯科医療、災害医療	898	○	○			◎									
東部地域病院	救急医療（二次、脳卒中、急性心筋梗塞）、がん医療、小児医療、災害医療	314	○	○					◎							
多摩南部地域病院	救急医療（二次、脳卒中、急性心筋梗塞）、がん医療、小児医療、災害医療	287	◎	○					○			○				
大久保病院	救急医療（二次、脳卒中）、腎医療、災害医療	304	◎	○					○				○			
多摩北部医療センター	救急医療（二次、脳卒中、急性心筋梗塞）、がん医療、小児医療、障害者歯科医療、災害医療	337	◎	○	○	○			○			○	○		○	◎
荏原病院	救急医療（二次、脳卒中）、感染症医療（主に一類・二類）、がん医療、精神科身体合併症医療、小児医療、障害者歯科医療、災害医療	461	◎	○		○	◎		◎					○		
豊島病院	救急医療（二次、脳卒中、急性心筋梗塞）、がん医療、周産期医療、小児医療、精神科救急医療、精神科身体合併症医療、感染症医療（主に二類）、障害者歯科医療、災害医療	438	◎	○		○	◎		◎			○	○			

（注 1）　◎…基幹施設
（注 2）　○…連携施設
（注 3）研修コースの詳細は、P14 ～をご覧ください。所属するコース以外での研修を希望する場合等は適時相談に応じます。
（注 4）内科系コース、外科系コースの一部については、総合診療能力の醸成・向上のため、広尾病院、墨東病院又は多摩総合医療センターにおける 3 か月程度の ER/ 救命救急短期研修を必ず受講していただきます。その他のコースについても、同研修を受講することを推奨しています。

研修施設群一覧

連携施設＼基幹施設	内科												外科		産婦人科		小児科			精神科			
	広尾	大塚	駒込	墨東	多摩総合			多摩南	大久保	多摩北	荏原	豊島	墨東	多摩総合	墨東	多摩総合	大塚	墨東	小児総合	墨東	多摩総合	小児総合	松沢
広尾病院		○		○	○				○			○	○	○					○		○		○
大塚病院	○		○	○	○				○		○	○	○			○			○				
駒込病院	○	○		○	○				○	○	○	○	○	○		○							○
墨東病院	○	○	○						○		○	○											○
多摩総合医療センター	○	○	○	○				○	○	○	○	○										○	○
神経病院	○	○	○	○	○			○	○	○	○							○					
小児総合医療センター													○	○			○	○		○	○		○
松沢病院	○		○	○	○				○	○	○			○						○	○	○	
東部地域病院				○					○				○										
多摩南部地域病院					○				○	○				○									
大久保病院	○	○	○	○	○					○	○	○		○									
多摩北部医療センター			○		○			○						○		○			○				
荏原病院			○	○					○				○						○		○		○
豊島病院	○	○	○	○	○				○				○						○				○
東京医師アカデミー以外の病院	東京共済病院	東京医科歯科大学病院	NTT東日本関東病院	東京医科歯科大学病院	帯広第一病院	国立病院機構東京病院	聖隷浜松病院	北里大学病院	東京女子医科大学	公立昭和病院	東邦大学医療センター大森病院	東京都健康長寿医療センター	島しょ等	島しょ等	東京大学医学部附属病院	東京医科歯科大学病院	日本大学医学部附属板橋病院	聖路加国際病院	立川相互病院	東京医科歯科大学病院	東京都健康長寿医療センター	多摩あおば病院	東京医科歯科大学病院
	日本大学医学部附属板橋病院	東邦大学医療センター大森病院	新渡戸記念中野総合病院	筑波大学附属病院	秋田赤十字病院	日野市立病院	沼津市立病院	浦添総合病院	東京医科大学	複十字病院	昭和大学病院	東京医科歯科大学病院			聖路加国際病院	杏林大学医学部付属病院	慶應義塾大学病院	東京大学医学部附属病院	松戸市立総合医療センター	東京足立病院	青梅市立総合病院		東京大学医学部附属病院
	東京医科歯科大学病院	草加市立病院	湘南鎌倉総合病院	筑波記念病院	山形県立中央病院	青梅市立総合病院	神戸市立医療センター中央市民病院	中頭病院	戸田中央総合病院	榊原記念病院	昭和大学藤が丘病院	日本大学医学部附属板橋病院			順天堂大学医学部附属順天堂医院	青梅市立総合病院	島しょ等	島しょ等	山梨大学連携病院	成増厚生病院	成増厚生病院		慶應義塾大学病院
	公立昭和病院	東京都済生会中央病院	国立がん研究センター中央病院	同愛記念病院	白河厚生総合病院	公立昭和病院	島根大学医学部附属病院	友愛医療センター	島しょ等	国立病院機構東京病院	昭和大学横浜市北部病院	青梅市立総合病院			焼津市立総合病院	立川相互病院				国立精神・神経医療研究センター病院	高月病院		昭和大学附属烏山病院
	国立循環器病研究センター病院	JAとりで総合センター	東京医科歯科大学病院	東京ベイ・浦安市川医療センター	福島県立医科大学会津医療センター附属病院	東京医科歯科大学病院	飯塚病院	聖マリアンナ医科大学		日本医科大学付属病院	昭和大学江東豊洲病院	JCHO 東京山手メディカルセンター				田園都市レディースクリニック				精神保健福祉センター	多摩総合精神保健福祉センター		国立国際医療研究センター病院
	日本医科大学付属病院	慶應義塾大学病院	東京大学医学部附属病院	国立循環器病研究センター	竹田綜合病院	東京都健康長寿医療センター	今村総合病院	川崎市立多摩病院		東京ベイ・浦安市川医療センター	蒲田クリニック	新渡戸記念中野総合病院								埼玉県立精神医療センター	針生ケ丘病院		東京都健康長寿医療センター
	JCHO 東京山手メディカルセンター	東京歯科大学市川総合病院	東京健生病院	静岡がんセンター	水戸協同病院	東京大学医科学研究所附属病院	沖縄県立宮古病院	立川相互病院		杏林大学医学部付属病院	東京医科大学病院	国立病院機構災害医療センター								大宮厚生病院	東京医科歯科大学病院		中部総合精神保健福祉センター
	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	大泉生協病院	国立国際医療研究センター国府台病院	土浦協同病院	東京大学医学部附属病院	浦添総合病院	島しょ等		東京医科歯科大学病院	島しょ等	武蔵野赤十字病院								国立国際医療研究センター国府台病院	横浜みなと赤十字病院		北海道大学病院
	島しょ等	川崎市立井田病院	東京大学医科学研究所附属病院	東京大学医学部附属病院	JAとりで総合医療センター	国立病院機構災害医療センター	島しょ等			島しょ等		横須賀共済病院								初石病院	恩田第二病院		函館渡辺病院
		横須賀共済病院	複十字病院	千葉大学医学部附属病院	国立病院機構栃木医療センター	武蔵野赤十字病院						横浜南共済病院									茨城県立こころの医療センター		埼玉医科大学病院
		平塚共済病院	青森県立中央病院	日本医科大学千葉北総病院	済生会加須病院	横浜市立みなと赤十字病院						横浜市立みなと赤十字病院											千葉県精神科医療センター
		土浦協同病院	岩手県立中央病院	JAとりで総合医療センター	埼玉石心会病院	川崎市立多摩病院						平塚共済病院											聖マリアンナ医科大学病院
		東京女子医科大学病院	山形県立中央病院	静岡てんかん・神経医療センター	さいたま市立病院	横須賀共済病院						土浦協同病院											神奈川県立精神医療センター
		島しょ等	魚沼基幹病院	榊原記念病院	草加市立病院	長岡赤十字病院						JAとりで総合医療センター											大阪精神医療センター
			国立がん研究センター東病院	大森赤十字病院	帝京大学ちば総合医療センター	新潟市民病院						柏市立柏病院											岡山県精神科医療センター
			東京ベイ・浦安市川医療センター	東京北医療センター	国保旭中央病院	山梨県立中央病院						草加市立病院											山口県立こころの医療センター
			飯塚病院	東京大学医科学研究所附属病院	船橋市立医療センター	安曇野赤十字病院						秀和総合病院											済生会横浜市東部病院
			静岡県立静岡がんセンター	哲西町診療所（岡山）	東京ベイ浦安市川医療センター	諏訪中央病院						さいたま赤十字病院											埼玉県立精神医療センター
			東京山手メディカルセンター	島しょ等	亀田総合病院	西伊豆健育会病院						島しょ等											東京医科大学病院
			大森赤十字病院																				
			島しょ等																				

島しょ等：利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、青ヶ島、小笠原、檜原村、奥多摩町などの 11 施設
島しょ研修の状況については、各病院へお問合せください。

		整形外科	麻　酔　科								皮膚科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	病理科		放射線科		救急科			総合診療科				
荏原	豊島	多摩総合	広尾	大塚	駒込	墨東	多摩総合	東部	荏原	豊島	墨東	多摩総合	駒込	駒込	多摩総合	駒込	多摩総合	広尾	墨東	多摩総合	広尾	駒込	墨東	多摩総合	多摩北
		○	＼	○	○	○	○	○	○	○	○			○				＼			＼	○			
			○	＼	○	○	○	○	○	○	○		○			○	○								
		○	○	○	＼	○	○	○	○	○	○	○	＼	＼		＼	○					＼			○
		○	○	○	○	＼	○	○	○	○	＼		○	○		○	○		＼				＼		
○		＼	○	○	○	○	＼	○	○	○	○	＼	○		＼	○	＼			＼				＼	○
			○	○	○	○	○	○	○	○		○			○	○								○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○		○	○		○		○	
	○																								
			○	○	○	○	○	＼	○	○															
							○						○												
			○	○	○	○	○	○	○	○				○											
			○	○	○	○	○	○	○	○			○		○					○					＼
＼			○	○	○	○	○	○	＼	○						○	○								
	＼		○	○	○	○	○	○	○	＼			○	○											
中部総合精神保健センター	東京都健康長寿医療センター	東京大学医学部附属病院	草加市立病院	慶應義塾大学病院	順天堂大学医学部附属順天堂医院	順天堂大学医学部附属順天堂医院	東京医科歯科大学病院	順天堂大学医学部附属順天堂医院	昭和大学病院	順天堂大学医学部附属順天堂医院	防衛医科大学校病院	虎の門病院	国立がん研究センター東病院	東京医科歯科大学病院	公立昭和病院	鳥取大学医学部附属病院		杏林大学医学部付属病院	東京大学医学部附属病院	帝京大学病院（東京都）	大島医療センター	東京健生病院	聖母病院	西多摩医療圏医療機関	東京女子医科大学病院
栗田病院	国立精神・神経医療研究センター病院	自治医科大学附属病院	春日部中央総合病院	さいたま市立病院	越谷市立病院	かわぐち心臓呼吸器病院	国立成育医療研究センター	かわぐち心臓呼吸器病院	昭和大学藤が丘病院	日本大学医学部附属板橋病院		NTT東日本関東病院	がん研有明病院		東京都がん検診センター	筑波大学附属病院		大分県立病院	東京ベイ・浦安市川医療センター	佐久総合病院（長野県）	神津島診療所	大泉生協病院	篠崎駅前クリニック	北海道家庭医療学センター	奥多摩病院
横浜市立みなと赤十字病院	成増厚生病院	西島病院（静岡県）			かわぐち心臓呼吸器病院	越谷市立病院	聖路加国際病院	越谷市立病院	昭和大学横浜市北部病院	東京女子医科大学病院			青梅市立総合病院		川崎幸病院	横浜市立大学附属病院		島しょ等	帝京大学ちば総合医療センター	日本赤十字社医療センター（東京都）	三宅島中央診療所	島しょ等	クリニック川越	西伊豆病院	常陸大宮済生会病院
東京医科歯科大学病院	陽和病院						静岡県立こども病院		昭和大学江東豊洲病院	越谷市立病院			東京北医療センター		東京西徳州会病院	国際医療福祉大学成田病院			前橋赤十字病院	浦添総合病院（沖縄県）	町立八丈病院		揚石医院	島しょ等	石橋クリニック
医療法人社団 柏水会 初石病院	東京足立病院						東京ベイ・浦安市川医療センター		静岡済生会総合病院				細部医院						島根県立中央病院	秋田赤十字病院（秋田県）	小笠原村診療所		岩手県立千厩病院		公立置賜総合病院
	恩田第二病院						埼玉医科大学病院		かわぐち心臓呼吸器病院				島しょ等						島しょ等	西南医療センター（茨城県）			岩手県立高田病院		
	がん研有明病院						埼玉医科大学国際医療センター													NTT関東病院（東京都）			一関市国保藤沢病院		
	精神保健福祉センター						埼玉医科大学総合医療センター													昭和大学病院（東京都）			岩手県立大東病院		
	東京医科歯科大学病院						TMGあさか医療センター													埼玉医科大学総合医療センター（埼玉県）			島しょ等		
	小山富士見台病院																			千葉大学病院（千葉県）					
	平川病院																								
	大宮厚生病院																								
	青梅成木台病院																								

内科

採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎広尾病院
◎大塚病院
◎駒込病院
◎墨東病院
◎多摩総合医療センター

〇神経病院
〇松沢病院

◎多摩南部地域病院
◎大久保病院
◎多摩北部医療センター
◎荏原病院
◎豊島病院

〇東部地域病院

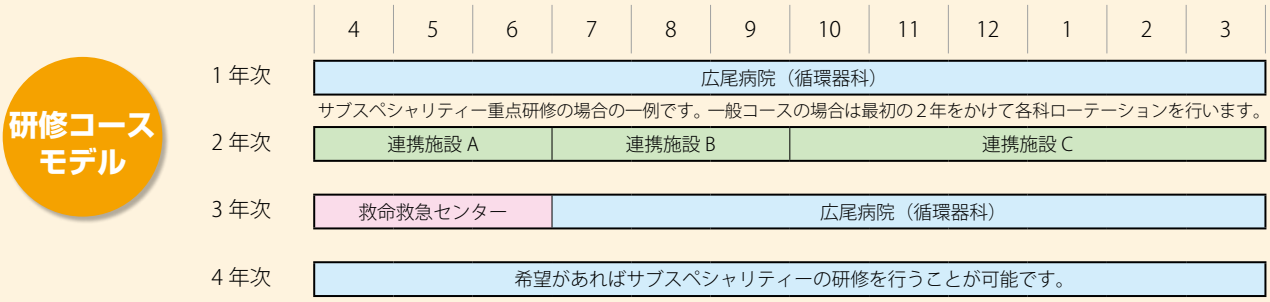
研修プログラムの特徴

● 広尾病院（基幹施設）
東京都立広尾病院内科専門研修プログラム

プログラム責任者：腎臓内科　田島　真人　　プログラム研修期間：４年

連携施設病院：大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 松沢 / 大久保 / 豊島
東京共済病院 / 日本大学医学部附属板橋病院 / 東京医科歯科大学病院 / 公立昭和病院 /
国立循環器病研究センター病院 / 日本医科大学付属病院 / JCHO 東京山手メディカルセンター /
横須賀共済病院 / 島しょ等

広尾病院は、東京都区西南部（渋谷区、目黒区、世田谷区）に位置し、救急医療・災害医療・島しょ医療を重点医療とした病院です。内科診療科として、循環器科・呼吸器科・消化器科・神経内科・腎臓内科・内分泌 / 代謝科・血液内科を有します。そのなかでも救急医療に深く関わる循環器科は都内でも有数の規模を誇ります。当院は約４２０床の中規模病院ですが、三次救急を扱う救命救急センターがあったり、東京都島しょ部（大島、三宅島、八丈島など）よりヘリ搬送の大半を引き受けていたりと様々な特色を有します。レジデントの皆さんがヘリに搭乗し、患者さんをお迎えに行くこともあります。また、東京都に二つある基幹災害拠点病院の一つでもあり災害医療に関する勉強も可能です。伝統的に各科の垣根が低いのが特色で、コンサルテーションや複数科での併診がしやすく、皆さんの研修のし易い環境と言えます。そのような当院の内科専門研修プログラムは、内科としての総合的な素養を磨くだけでなく、よりレジデントの皆さんの志望するサブスペシャリティー研修を重視することを目標としています。始まったばかりの新専門医制度ですので、レジデントの皆さんとディスカッションを重ね、意見を取り入れ、より良い研修ができるよう柔軟性のあるプログラムにしていきたいと考えております。



○ 広尾病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
循環器

プログラム責任者：循環器科　深水　誠二　　プログラム研修期間：２年

広尾病院は心臓病医療を重点医療の一つとしており、循環器科は日本循環器学会・日本不整脈心電学会・日本心血管インターベンション治療学会の認定研修施設です。不整脈疾患・虚血性心疾患・心不全などの症例のバランスが良いことが当科の特徴であり、これらの診療に必要な最先端の設備も多数備わっているため高度な水準の研修が可能です。当院では血管内治療センター（心臓血管外科・脳神経外科・腎臓内科・放射線科）や救命救急センター・総合診

療科との連携も良好なためさらに幅広い臨床経験が可能です。

本コースの目標とする専門医資格は日本循環器学会循環器専門医です。

また学術活動においても研修期間を通して、興味のある分野の臨床研究を行い、学会・研究会での発表や英文含む論文執筆を行うことを目標としています。

● 大塚病院（基幹施設）
東京都立大塚病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　藤江　俊秀　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

連携施設病院：広尾 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 大久保 / 豊島
東京医科歯科大学病院 / 東邦大学医療センター大森病院 / 草加市立病院 / 東京都済生会中央病院 /
JA とりで総合医療センター / 慶應義塾大学病院 / 東京歯科大学市川総合病院 / 横浜市立みなと赤十字病院 /
川崎市立井田病院 / 横須賀共済病院 / 平塚共済病院 / 土浦協同病院 / 東京女子医科大学病院 / 島しょ等

当院内科は統合されており消化器、呼吸器、循環器、腎臓、内分泌・代謝、神経、血液の専門医が垣根なく指導にあたります。また、リウマチ・膠原病科は重点医療として独立しているため、膠原病系難病の症例も豊富です。基本コース 3 年間またはサブスペシャリティコース 4 年間で、最初の 1 ヶ月はオリエンテーションも含め、将来サブスペシャリティに希望する科を選択します。必修の救急 /ER 研修は、墨東病院・広尾病院・多摩総合医療センターのいずれかで経験を積みます。当院では、多臓器疾患の合併症を持つ高齢者を輪番制で受け持ち、総合内科初診外来を担当することで、オールラウンドな内科研修が可能です。

なお、各科ローテーションは履修状況で省略 / 延長可能（希望科として調整）となっているほか、希望科は場合によりサブスペ科も可能です。また、両コースともに新内科専門医のプログラムと連動しており専門医の取得が可能です。習熟度に応じて早期にサブスペシャリティ研修を開始し、スムースに移行できるよう配慮しています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	希望科	神経	アレルギー	血液	膠原病	代謝	救急・ＥＲ			内分泌	循環器	消化器
2 年次	呼吸器	腎	希望科	サブスペシャリティ								
3 年次	サブスペシャリティ											
4 年次	サブスペシャリティ											

○ 大塚病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
糖尿病

プログラム責任者：内科（糖尿病）　中村　佳子　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

内科基本領域研修を終了後、内分泌代謝・糖尿病領域から糖尿病内科研修を学会の研修カリキュラムを基に行い、日本糖尿病学会専門医受験資格を得ることを目標とします。糖尿病合併症に関連した専門科領域のローテーションを必要に応じて行います。病棟では教育・血糖コントロール入院、糖尿病患者の周術期・入院中の血糖管理、耐糖能異常妊婦管理を経験し、急性合併症の救急対応も学び、外来では、初診から診断、評価、治療方針決定などマネージメント能力を身につけます。研修指導医、専門医にいつでも相談できる体制とします。患者教育活動・指導として、糖尿病教室、糖尿病週間イベント、医師会主催のウォークラリーに参加します。連携医療機関での半年から 1 年間の糖尿病研修も可能です。研修終了時にはチーム医療の主軸となり活動できることを目指します。

● 駒込病院（基幹施設）
東京都立駒込病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：血液内科　岡本　朋　　プログラム研修期間：3～4年

連携施設病院：大塚 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 松沢 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島
ＮＴＴ東日本関東病院 / 新渡戸記念中野総合病院 / 湘南鎌倉総合病院 / 国立がん研究センター中央病院 / 東京医科歯科大学病院 / 東京大学医学部附属病院 / 東京健生病院 / 大泉生協病院 / 東京大学医科学研究所附属病院 / 複十字病院 / 青森県立中央病院 / 岩手県立中央病院 / 山形県立中央病院 / 魚沼基幹病院 / 国立がん研究センター東病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター / 飯塚病院 / 静岡県立静岡がんセンター / 東京山手メディカルセンター / 大森赤十字病院 / 島しょ等

本プログラムは、各診療科の総合基盤を備えた、がんと感染症を重視した病院であると同時に、東京都区中央部医療圏の２次救急病院である駒込病院を基幹施設として、東京都内にある連携施設・特別連携施設において施行されます。３年コース（内科専門研修コース）および４年コース（内科・サブスペシャルティ混合コース）が設置されています。いずれのコースも東京医師アカデミーとしてサブスペシャルティ領域を見据えたプログラムと連動しており、３年コースでは専攻医３年目からサブスペシャルティ研修を開始できます。４年コースでは、内科領域全般の研修を４年間かけて行うと同時に専攻医１年目から６か月のサブスペシャルティ専門研修を開始するコースです。令和４年度採用の専攻医は血液内科コース２名、呼吸器内科コース２名、腫瘍内科コース２名、感染症コース１名でした。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	呼吸器内科						他の内科			ＥＲ（墨東病院）		
	内科・サブスペシャルティー混合コースの例で、１年目から呼吸器内科を６か月研修する。東京医師アカデミーではＥＲ研修が必須である。											
2年次	呼吸器内科						他の内科					
	内科領域全 70 疾患群、200 症例以上の登録のために不足している科の研修も可能。											
3年次	呼吸器内科						放射線診断部			呼吸器内科（多摩総合医療センター）		
	連携施設では当院呼吸器内科で経験できない肺結核等の診療を学ぶことができる。											
4年次	呼吸器内科						緩和ケア科			呼吸器内科		
	4年間の研修終了後に内科専門医試験に合格し、その後に日本呼吸器学会専門医試験に合格することを目標とする。											

○ 駒込病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度 呼吸器　プログラム責任者：呼吸器内科　細見　幸生　　プログラム研修期間：3 / 4年

本プログラムは、各診療科の総合基盤を備えた、がんと感染症を重視した病院であると同時に、東京都区中央部医療圏の２次救急病院である駒込病院を基幹施設として、連携施設・特別連携施設において施行されます。

３年コース（内科専門研修コース）および４年コース（内科･サブスペシャルティ混合コース）が設置されています。

呼吸器専門研修で必要な疾患群と症例数を経験し、臨床研究の立案、論文発表および国内外の学会での発表を行います。

新専門医制度 感染症　プログラム責任者：感染症科　今村　顕史　　プログラム研修期間：3年

当院は、「第一種感染症指定医療機関」に指定されており、エボラ出血熱などの「一類感染症」に対応できる病床を有し、有事の際に対応できる人材の育成を行っています。また、「エイズ診療拠点病院」にも指定されており、多くのHIV 感染者の診療を行っています。さらに、「感染制御科」と協働し、院内感染対策や感染症コンサルテーション業務を行っており、医療関連感染症や免疫不全患者の感染症 (特にがん・造血幹細胞移植) のトレーニングも十分行うことができます。その他､「渡航前ワクチン外来」や「輸入感染症」の診療など､「トラベルクリニック」としての活動も行っています｡当院での感染症サブスペシャルティ研修修了後には､病院や地域における感染症のスペシャリスト･リーダーとして独り立ちできることを目標としています。

新専門医制度
消化器内視鏡　プログラム責任者：消化器内科　飯塚　敏郎　　プログラム研修期間：3 年

本研修カリキュラムは、内視鏡治療に関する高度な知識や技術のみならず、通常の検査、治療方針を決定するための精密検査、治療内視鏡の適応判断、内視鏡中の鎮静、偶発症への対応等に関する専門的知識の習得を目標とします。また他領域との連携や知見の共有、チーム医療の実現の必要性を踏まえ、咽頭・食道・胃・小腸・大腸・肝胆膵におよぶ幅広い知識と技術を有することを目標とします。

技術的側面として、通常の上下部内視鏡検査が一人でできるところまで完成することを目指します。同時に内視鏡治療の介助の経験を踏まえ、治療手技の取得を図ります。学術的側面として、カンファランスを通して、診断能力の向上を図ります。また症例報告の学会での報告・発表や臨床研究を企画しその成果を発表する能力をつけます。

新専門医制度
がん薬物療法　プログラム責任者：腫瘍内科　下山　達　　プログラム研修期間：2 ～ 5 年

臨床腫瘍学を修得し、最終年度には腫瘍内科専門医の試験を受け合格する

担当臓器は他施設研修も含め、消化管、肝･胆･膵、造血器、呼吸器、乳房、婦人科、泌尿器、頭頸部、骨軟部、皮膚、中枢神経、胚細胞、小児、内分泌、原発不明の腫瘍 15 領域の薬物療法、緩和医療学を習得する。

当科においては、固形癌や悪性リンパ腫の薬物療法、細胞免疫療法（CAR-T 治療）、ゲノム診療（オンコパネル）について習得。外来診療では副作用外来も従事する。

がんの基礎的知識、薬物治療の原則、トランスレーショナル / 臨床研究の適切な実施法とその解釈について理解するために、最低 1 つ臨床研究プロトコールを作成、実施する。研修期間中の臨床研究の成果を論文および学会（臨床腫瘍学会、ASCO 等）にて発表をおこなう。

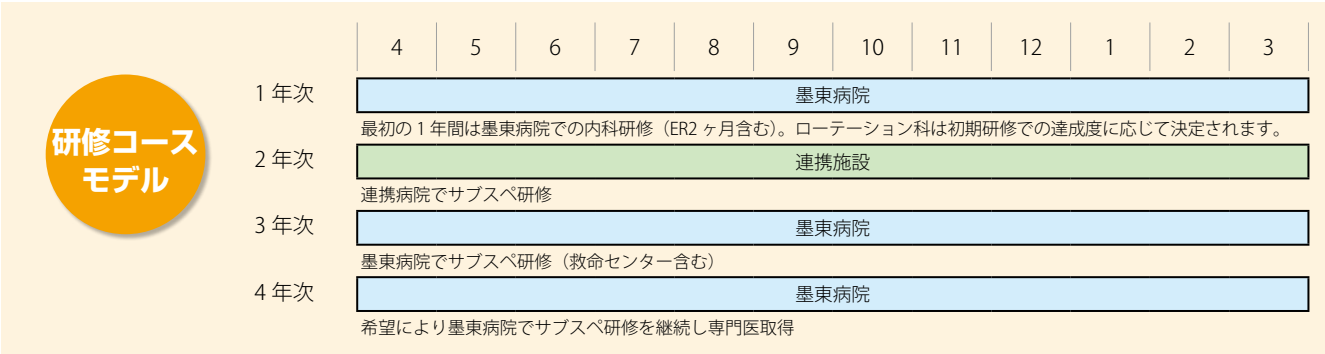
● 墨東病院（基幹施設）
東京都立墨東病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：神経内科　藤ヶ﨑 浩人　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 多摩総合 / 神経 / 松沢 / 東部 / 大久保 / 荏原 / 豊島
東京医科歯科大学病院 / 筑波大学附属病院 / 筑波記念病院 / 同愛記念病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター / 国立循環器病研究センター / 静岡がんセンター / 国立国際医療研究センター国府台病院 / 東京大学医学部附属病院 / 千葉大学医学部附属病院 / 日本医科大学千葉北総病院 / ＪＡとりで総合医療センター / 静岡てんかん・神経医療センター / 榊原記念病院 / 大森赤十字病院 / 東京北医療センター / 東京大学医科学研究所附属病院 / 哲西町診療所（岡山）/ 島しょ等

本プログラムは、区東部医療圏の中心的急性期病院である墨東病院を基幹施設とし、都区東部医療圏、近隣医療圏、都島しょにある連携・特別連携施設での専門研修を経て、超高齢社会、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるよう訓練されます。研修プログラムとして日本内科学会の提示する 4 つのタイプ、すなわち内科標準タイプ、サブスペシャリティ重点研修 1 年タイプ、サブスペシャリティ重点研修 2 年タイプ、内科・サブスペシャリティ混合タイプのいずれも選択可能です。当プログラムの専攻医は基幹施設である墨東病院内科で 2 年間 (混合タイプは 3 年間) を、連携施設･特別連携施設で 1 年間の研修を行い、選択すべき施設と期間は専攻医の希望の他、達成度、進捗度を合わせてプログラム管理委員会で検討し決定します。4 年次は原則サブスペシャリティ専門医取得に向けた研修を継続しますが、内科専門医を取得した場合には計 3 年間でのプログラムの修了も可能とします。当研修では、主担当医として、入院から退院までの診断・治療を通じ、患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整の全人的医療を実践し、個々の患者に適切な医療の提供、計画を立て実行する能力の修得をもって目標の達成とします。当院は急性期病院かつ地域の病診・病病連携の中核病院であるため、高度な急性期医療のみならず、コモンディジーズ、また超高齢社会特有の複数病態を持った患者の診療、さらには必要に応じて診療所 (在宅訪問診療施設等含む) との連携等の経験も可能です。専攻医 3 年修了時には「研修手帳」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験し、内科専門医取得を目指します。

内科



○ 墨東病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度 消化器病　プログラム責任者：消化器内科　東　正新　　プログラム研修期間：3 年

消化器内科医として必要な消化器領域（消化管・肝胆膵領域）の知識及び技術を習得することを目的とし、主治医（主担当医）として「消化器病専門医研修カリキュラム評価表」に掲載された全 107 疾患のうち症例経験の到達目標が 2 または 3 に該当する疾患を中心として 58 疾患以上を、消化管・肝・胆膵・腹腔・腹壁疾患のそれぞれに偏りのないように経験し、150 症例以上の症例数を確保します。領域の基本検査として、上下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査を単独で行え、必要に応じ他の医師の介助のもとで内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下剥離術（ESD）、逆行性胆管膵管造影検査（ERCP）及び内視鏡的胆管ドレナージ、経皮経肝胆管ドレナージ、超音波ガイド下肝生検、ラジオ波焼灼術（RFA）を完遂できるよう技術を習得します。

新専門医制度 循環器　プログラム責任者：循環器科　安倍　大輔　　プログラム研修期間：3 年

- 臨床：経皮的冠動脈形成術 (PCI)・末梢動脈形成術 (EVT) について適応・ストラテジー・エンドポイント等を学び、指導医管理のもと手技の完結を目指す。時間外の急性冠症候群は自身で診断・患者説明・手技・急性期合併症管理・心臓リハビリ・慢性期二次予防まで完結する。日本心血管インターベンション治療学会の認定医、できれば専門医の取得を目標とする。
- 学会発表：稀有な病態、治療合併症とベイルアウトなど症例報告を毎年行い、統計解析を指導のもと行うことができ、臨床研究の成果を発表する。
- 臨床研究：PCI 年間約 400 例、EVT 年間約 100 例、心不全入院年間 350 例のデータが蓄積されており、前向き、後向きにテーマを決定し、実践していく。
- 論文投稿：学会発表、臨床研究、最先端研究を積極的に論文化する。

新専門医制度 呼吸器　プログラム責任者：呼吸器内科　小林　正芳　　プログラム研修期間：3 年

呼吸器学会が示す概念図のうち【連動研修タイプ】を想定し、墨東病院呼吸器内科及び連携施設 / 特別連携施設で、それぞれ 1 年以上の研修を行い、選択すべき施設と期間は専攻医の希望の他、達成度、進捗度を合わせてプログラム管理委員会で決定します。4 年次はサブスペシャリティ専門医取得にむけた研修を継続します。主担当医として、入院から退院までの診断・治療を通じ、患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整の全人的医療を実践し、個々の患者に適切な医療の提供、計画を立て実行する能力の習得をもって目標の達成とします。呼吸器専門研修で呼吸器専門医取得に必要な 12 疾患群、150 症例以上の経験し、所定の呼吸器病学関連の論文及び呼吸器関連学会での発表を行います。

新専門医制度 血液　プログラム責任者：血液内科　小杉　信晴　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった造血器腫瘍をはじめ、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、免疫性血小板減少性紫斑病、溶血性貧血などの血液疾患全般に対し、迅速に診断・鑑別診断を行い、最適な治療を行っています。化学療法の副作用管理や、骨髄抑制時の適正輸血、感染症に対する診断、抗生剤の選択を学ぶ事ができます。自己末梢血幹細胞移植を行っており、幹細胞採取や前処置、移植後の管理を行います。同種移植については連携病院

にて経験していただきます。手技としては、骨髄穿刺・生検、髄注、中心静脈ルート確保は必須であり、多くの経験を積む事ができます。血液疾患患者は病態、治療による合併症などにより、総合的な全身管理が求められ、ジェネラリストとしてのスキルを延ばす事もできると考えます。

新専門医制度
腎臓

プログラム責任者：腎臓内科　井下　聖司　　プログラム研修期間：3 年

腎臓専門医としての能力を高いレベルで習得することを目標とし、腎臓・透析専門医の取得を目指します。

ネフローゼ症候群や急性腎臓病、電解質異常などの症例が豊富で、病棟患者さんをチーム制、シャントアクセス・腹膜透析・療法選択外来等専門外来も担当し、診断や治療を行います。

腎センターも運営しており、維持透析患者さんはほとんどおらず、入院透析や急性期の血液浄化を中心に行っています。

集中治療室や感染症科病棟での出張透析も多数行い、持続血液透析は集中治療科と協力して行っています。

腎生検だけでなく、内シャント造設術、動脈表在化術、長期カテーテル留置術、バスキュラーアクセスインターベンション、腹膜透析カテーテル挿入術などの手技を自立して行えることを目標にします。

新専門医制度
肝臓

プログラム責任者：消化器内科　東　正新　　プログラム研修期間：3 年

消化器病専攻カリキュラムを修了後に「肝臓専門医研修カリキュラム」に定める症候群・聴講群、検査、処置などを経験し、肝臓専門医に必要な基本的知識として肝臓の生理・代謝・解剖、肝臓病の病態・病理、臨床腫瘍学、法規（肝炎対策基本法、医療費助成、改正臓器移植法、身体障害者福祉法）を理解し、肝疾患全般に関連する知識の習得に努めます。血液検査、腹部超音波検査を含む画像検査、薬物治療、栄養療法、経皮的治療、経血管的治療、経内視鏡的治療、関連する症状・救急病態への対応、超音波ガイド下肝腫瘍生検、ラジオ波焼灼術（RFA）を完遂できるよう技術習得を行います。カリキュラムに定めた 34 疾患（目標症例数 102）、12 症状・徴候（目標症例数 36）の 7 割以上を主治医（主担当医）として経験します。

新専門医制度
感染症

プログラム責任者：感染症科　中村　ふくみ　　プログラム研修期間：3 年

感染症科医が関わる業務は多岐にわたり、知識、診療技術が幅広く求められます。また輸入感染症に対応できる医師の需要が高まり、高度な知識を持つ感染症科医の育成が喫緊の課題になっています。当院では、入院・外来診療のみならず、院内コンサルテーション、院内感染対策、行政医療（第一種感染症指定医療機関）のすべてを行っている数少ない施設のひとつです。通常の感染症の診療、院内コンサルテーション、院内感染対策、行政医療、病院感染症疫学などについて研修、実践し、アウトブレイク時のリスクコミュニケーションも研鑽することで感染症科医としての能力を育成し、日本感染症学会が定めるカリキュラムに基づいての研修・論文発表 1 篇、学会発表 2 篇、計 3 篇を行い、感染症専門医取得を目標とします。

新専門医制度
神経内科

プログラム責任者：脳神経内科　藤ヶ﨑　浩人　　プログラム研修期間：2 年

内科専門医コース修了後に神経内科専門医取得を目指す医師、並びに神経内科専門医を取得後に更なる研修の継続を希望する医師を対象とします。研修年限に関してはレジデントの希望に応じるが、原則 2 年とします。

当プログラムにおいて重点的に経験すべきは、脳卒中、けいれん発作、ギラン・バレ症候群や多発性硬化症などの自己免疫疾患等、神経救急疾患の診療です。必要に応じ、東京医科歯科大学で神経生理、神経病理の研修を行います。希望があれば、集中治療室や救命センターでの研修もみとめます。また脳神経外科の協力の下、脳卒中学会専門医取得のための研修を行うこともできます。

研修期間中、毎年 2 回以上の学会発表を行います。

新専門医制度
リウマチ

プログラム責任者：リウマチ膠原病科　島根　謙一　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

目標は、専門医の取得はもとより、専門医として個々の患者さんに適切な診療を行えるようになることです。

①自己免疫・炎症性疾患

発熱疾患全般、基礎においては免疫学と遺伝医学に精通している。

②病変が多臓器
　臓器ごとの解剖や病態生理を理解している。
③敢えて臓器別に言えば筋骨格系を専門
　リウマチ性疾患には様々な病因が含まれているが、それらを広く理解することが重要。
④病因・病態・病理を踏まえて診断し治療方針を決める
　各疾患について基礎と臨床の両面から精通している。
上記①～④を病棟研修、外来研修、各種勉強会を通じて診療能力を高めていく。
＜当院の特徴＞①救急・重症・難治性患者さんの診療、②専門性の高い医療の提供、③重症を中心とした妊娠合併膠原病患者さんの診療。

新専門医制度
消化器内視鏡　プログラム責任者：消化器内科　古本　洋平　　プログラム研修期間：3 年

以下に示す消化器内視鏡専門医受験資格を完了することを目標とします。
①領域経験症例数として規定されている上部消化管内視鏡検査（EGD）・治療 1000 例、下部消化管内視鏡検査（CS）・治療 300 例を経験する。
②可能な限り研修手帳に定めた疾患を経験する。研修終了時点でその 80%を経験し JED に登録する。
③領域全般について診断と治療に必要な検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得する。

多摩総合医療センター（基幹施設）
東京都立多摩総合医療センター内科専門研修プログラム

プログラム責任者：リウマチ膠原病科　島田　浩太
プログラム研修期間：3 ～ 4 年（内科専門研修としては最短 3 年。一部サブスペシャリティ連動研修も可能。）
連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 神経 / 松沢 / 多摩南 / 大久保 / 多摩北 / 豊島
帯広第一病院 / 秋田赤十字病院 / 山形県立中央病院 / 白河厚生総合病院 / 福島県立医科大学会津医療センター附属病院 / 竹田綜合病院 / 水戸協同病院 / 土浦協同病院 / JA とりで総合医療センター / 国立病院機構栃木医療センター / 済生会加須病院 / 埼玉石心会病院 / さいたま市立病院 / 草加市立病院 / 帝京大学ちば総合医療センター / 国保旭中央病院 / 船橋市立医療センター / 東京ベイ浦安市川医療センター / 亀田総合病院 / 国立病院機構東京病院 / 日野市立病院 / 青梅市立総合病院 / 公立昭和病院 / 東京医科歯科大学病院 / 東京都健康長寿医療センター / 東京大学医科学研究所附属病院 / 東京大学医学部附属病院 / 国立病院機構災害医療センター / 武蔵野赤十字病院 / 横浜市立みなと赤十字病院 / 川崎市立多摩病院 / 横須賀共済病院 / 長岡赤十字病院 / 新潟市民病院 / 山梨県立中央病院 / 安曇野赤十字病院 / 諏訪中央病院 / 西伊豆健育会病院 / 聖隷浜松病院 / 沼津市立病院 / 神戸市立医療センター中央市民病院 / 島根大学医学部附属病院 / 飯塚病院 / 今村総合病院 / 沖縄県立宮古病院 / 浦添総合病院 / 島しょ等

当院では、過去 10 年間に 100 名を超える内科系シニアレジデントの後期研修を担ってきた実績と経験があります。ローテーションを通じて、専門医取得に必要な疾患群と症例が確実に研修できます。
カリキュラムは，1 年目は各診療科のローテーション研修（原則 3 か月毎）、2 年目を中心に主に他県の連携施設等での研修、3 年目以降は専門診療科での研修を基本とします。各自の経験や指向に応じて，カリキュラムのカスタマイズが可能であり，希望があれば 3 年目以降もローテーション研修や連携施設での短期派遣研修も可能です。
連携施設等での研修は、原則として 1 年～ 1 年半は行います。北海道から沖縄まで全国に連携施設があります。多摩総合でのプラクティスを外から客観視する期間をもつことで、普遍的な事柄とローカルな事柄を見分ける力を養い、また病院によって工夫が凝らされている様々な環境を経験することにより、将来マネジメント業務に携わった際にも役立つ貴重な研修となります。3 年目に多摩総合に戻ってきたときに、入職時とは違ったものが見えるでしょう。
内科専攻医としては 3 年間のコースですが、各専門領域の専門医取得の希望者には 4 年目の在籍が可能です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	内科1			救急部門			内科2			内科3		

2か月と3か月の選択は本人の希望に応じる。2年目までで救急外来・救命の3か月は必修。当直は救急外来当直を月4回程度。集合研修年間計画による講習及びＪＭＥＣＣを受講。

2年次	連携施設

外来診療も施設によっては行う。集合研修年間計画による講習。病歴提出準備

3年次	専攻内科

3年目以降は専門診療科での研修を基本とし、週1回の外来診療にも従事する。ただしローテーション研修の継続も可能。基幹施設の内科系専門診療科：総合内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、内分泌代謝内科、腎臓内科、リウマチ膠原病科、血液内科、感染症科、緩和ケア科。神経内科には多摩総合医療センター神経脳血管内科（急性期脳血管障害が中心）と基幹施設に隣接する連携施設の神経病院脳神経内科（神経難病が中心）がある。

○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度 消化器病　プログラム責任者：消化器内科　並木　伸　　プログラム研修期間：3年以上

消化器病学会専門医制度（消化器病学会版 J-OSLER）に即した研修の提供を目的とします。内科専門医を基本領域とする消化器病専門医研修期間としては専門研修2年次以降の連動研修が認められており、消化器病学会専攻医としては3年間の研修が必要であるため希望時4年次以降まで研修の延長を可能とします。当院を基幹施設とし消化器病急性疾患（消化管出血、急性胆道炎、肝膿瘍、重症膵炎、劇症肝炎など）、消化器癌診療（内視鏡治療や経皮的インターベンション、がん化学療法）まで幅広く研修を行います。

（備考）消化器内視鏡専門医コースについて：専門研修2年次以降の連動研修が認められている。規定の内視鏡件数および治療内視鏡件数を経験する必要があるため、希望時4年次以降まで研修延長を可能とする。

新専門医制度 循環器　プログラム責任者：循環器内科　田中　博之　　プログラム研修期間：3年以上

本コースは日本循環器学会専門医制度（循環器 J-OSLER）に則した研修の提供を目的とする。

３年間の研修期間を基本として、循環器学会が規定する症例３６例以上（心不全４例、ショック１例、不整脈６例、心臓突然死１例、血圧異常３例、虚血性心疾患６例、弁膜疾患３例、心筋疾患３例、感染性心内膜炎１例、肺血管疾患１例、先天性心血管疾患１例、全身疾患に伴う心血管異常２例、大動脈疾患１例、末梢動脈疾患１例、静脈・リンパ管疾患１例、心臓神経症・神経循環無力症１例）を経験することができる。

また技術・技能（循環器 J-OSLER の修了要件は３９３例以上）については指導医の元で、心臓カテーテル検査・治療やカテーテルアブレーション、ペースメーカー植え込み術、血液循環補助装置（IABP、インペラ、ECMO）、TAVI 等を経験することができる。

希望があれば一定期間の連携施設での研修や心臓外科での研修等も可能。

新専門医制度 呼吸器　プログラム責任者：呼吸器内科　高森　幹雄　　プログラム研修期間：3年以上

本コースは、呼吸器専門医制度に則った研修の提供を目的とし、コースは基幹施設1年以上＋連携施設で合計3年以上としています。豊富な当センターの症例経験、連携施設との共同の研修により呼吸器全領域における呼吸器専門医の育成が可能です。

【当センター（基幹施設）】年間1000名以上の入退院、肺癌含めた各種腫瘍・結核・肺炎（COVID-19 含む）等の感染症対応・喘息等のアレルギー・慢性呼吸器疾患・睡眠時無呼吸まで幅広く全領域に対応しています。本コースは呼吸器専門医に加えて呼吸器内視鏡専門医も目指し、更には感染症・アレルギー・がん薬物療法まで更なる専門研修にも連動可能です。

【連携施設】互いに基幹施設もあれば当院の連携施設もあります。救急・慢性呼吸器疾患・抗酸菌専門研修など幅広く連携にて対応しています。

新専門医制度 血液　プログラム責任者：血液内科　山田　一成　　プログラム研修期間：3年以上

血液専門医は基本領域である内科専門医の総合的知識を礎に血液学領域の専門的診断力と治療技術を体得した専門

医です。多摩総合医療センターでの血液専門医研修では、再生不良性貧血や自己免疫性溶血性貧血などの「赤血球系疾患」、急性白血病や慢性白血病などの「白血球系疾患」、悪性リンパ腫や骨髄腫などの「リンパ系疾患」、後天性血友病などの「血栓止血系疾患」など、良性疾患から悪性疾患まであらゆる領域の症例の経験が可能です。また血液悪性疾患に対しては標準とされている化学療法を中心に治療を行い、再発時には造血幹細胞移植も施行しています。さらに今後 CAR-T 療法など細胞免疫治療も行えるように準備しています。

新専門医制度 内分泌代謝　プログラム責任者：内分泌代謝内科　辻野　元祥　　プログラム研修期間：3 年

当科は日本糖尿病学会、日本内分泌学会の認定教育施設であり、糖尿病専門医（6 名）、内分泌代謝科専門医（5 名）と充実した指導層を擁します。糖尿病は、1 型糖尿病をはじめ様々な合併症症例など、あらゆるケースを経験することができます。SAP 療法、リアルタイム CGM をはじめ保険診療下での最先端の診療技術を絶えず臨床に活かしています。内分泌疾患については、甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎、低血糖疾患など、盤石な病診連携体制を背景に豊富な症例数を有しています。当院の大きな特徴として、消化器外科と連携し、高度肥満症に対する減量・代謝手術の術前術後の管理も経験できます。また、臨床研究指導や症例報告指導にも力を入れており、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本肥満学会、日本肥満症治療学会等への発表を義務づけています。

新専門医制度 腎臓　プログラム責任者：腎臓内科　羽田　学　　プログラム研修期間：3 年以上

本コースは、腎臓領域専門医制度に則した研修の提供を目的とします。

ベースとなる基本領域は内科の他、小児科 , 泌尿器科 , 外科です。初期臨床研修を終了し、専門医機構が認定する基本領域の専門医を取得している者、又は、取得見込みの者が腎臓領域専門研修を開始できます。但し、腎臓領域専門研修修了時には、基本領域の専門医を取得できていることが必須です。尚、内科専門医を基本領域とする腎臓専攻医の研修期間は、内科専門研修との 2 年間の連動研修が認められています。連動研修において経験症例として認められるのは、腎臓指導医の指導のもとで経験した症例に限ります。研修終了時には入院症例 140 例以上、外来症例 60 例以上の経験と病歴要約計 22 編の記載を目標にします。

新専門医制度 アレルギー（基幹）　プログラム責任者：呼吸器科　村田　研吾　　プログラム研修期間：2 年

東京都アレルギー疾患医療専門病院の 1 つである多摩総合医療センターで診療科横断的に研修を行い、高い水準のアレルギー診療を実践できる能力を養成することを目標とします。専門医機構の認める範囲で他のサブスペシャリティーと並行研修でき、研修年限はそれに応じて短縮が可能です。

当院の救急・総合診療センター、呼吸器内科の研修を中心に、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、眼科でもの実習・研修を行うことで、プリックテスト、皮内反応、負荷試験、分子標的薬、生物製剤や気管支サーモプラスティなど、アレルギー専門医の受験資格を得るのに十分な症例、手技を経験することができます。

また小児アレルギー拠点病院である小児総合医療センターアレルギー科で、最高水準の小児アレルギー研修も一定期間選択可能です。

新専門医制度 アレルギー（連携）　プログラム責任者：呼吸器科　村田　研吾　　プログラム研修期間：2 年

本プログラムは大学医局派遣など特定の診療科に採用される医師のための内科系 3 科（救急・総合診療センター、リウマチ膠原病科、呼吸器内科）、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、眼科の合同プログラムです。

内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、眼科の内、いずれかの専門医を取得している医師が、その基盤領域の診療科に所属しながらアレルギー診療を実践できる能力を養成することを目標とします。

専門医機構の認める範囲で他のサブスペシャリティーと並行研修でき、研修年限はそれに応じて短縮が可能です。いずれの診療科に所属していても、所属長が許可する範囲で上述の診療科内での実習・研修が可能で、アレルギー専門医の受験資格を得るのに十分な症例、手技を経験することができます。

新専門医制度 感染症　プログラム責任者：感染症科　本田　仁　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

感染症専攻研修においては包括的な研修が必要です。研修は一般感染症における臨床研修、HIV 感染症における臨

床研修、医療関連感染症対策、抗菌薬適正使用に大別されます。その研修を三年間で包括的に行うことで、その能力を獲得します。また最終学年時には海外研修も視野に入れた形での研修体制を敷いています。

新専門医制度 リウマチ　プログラム責任者：リウマチ膠原病科　島田　浩太　　プログラム研修期間：1 ～ 3 年

基幹施設〈多摩総合〉では、指導医 10 名が指導に当たります。ほぼすべてのリウマチ膠原病患者さん約 3500 人が通院されています。また、例年約 600 人が入院され、各種リウマチ外科手術（各種人工関節置換術、関節形成術ほか）や最重症 / 治療困難病態への内科的対応等を受けます。連携施設〈多摩北〉は北多摩北部保健医療圏のリウマチ膠原病診療の拠点で、外来・病棟のほか、リハビリテーションに取り組みやすく、基礎医学にも明るい指導医が指導に当たります。連携施設〈多摩南〉は、内科領域で医師少数地域とされる南多摩保健医療圏のリウマチ膠原病診療の拠点です。外来･病棟のほか、ハイドロリリースを含めた筋骨格超音波検査やリウマチ外来における看護･リハビリテーション外来など、先進的なチーム医療を経験することができます。

新専門医制度 消化器内視鏡　プログラム責任者：消化器内科　並木　伸　　プログラム研修期間：3 年以上

ベースとなる基本領域は内科の他、外科があります。本コースは日本消化器内視鏡学会 専攻医研修カリキュラムに即した研修の提供を目的とします。内科専門医を基本領域とする消化器内視鏡専門医研修期間としては専門研修 2 年次以降の連動研修が認められています。規定の内視鏡件数および治療内視鏡件数を経験する必要があるため、希望時 4 年次以降まで研修の延長を可能とします。多摩総合医療センターを基幹施設とし消化器内視鏡全般（消化管出血、急性胆道炎などの緊急内視鏡）、消化器癌内視鏡治療まで幅広く研修を行います。

新専門医制度 がん薬物療法　プログラム責任者：呼吸器・腫瘍内科　北園　美弥子　　プログラム研修期間：2 年以上、5 年以内

治療効果の高いがん薬物療法が臨床導入されるに伴い、臓器横断的な視点を持ち、その適応と実施を判断することができる「腫瘍内科専門医」の果たすべき役割は大きいと考えられています。臨床腫瘍学会では専門医取得にあたり、全領域を 15 領域に分類し、造血器、呼吸器、消化管、乳房の 4 領域を必修、婦人科、泌尿器、頭頸部の 3 領域は研修に含めることが望ましいとし、総計 90 症例以上の化学療法症例の受持ち、及び外来診療の経験が必要であるとされています。当院では、上記領域におけるがん治療を経験するため、がん診療を行う院内の各科をローテートすることで、各種がんに対するがん薬物療法を幅広く経験し、基本領域で習得した基礎的診療を土台とした、がん薬物療法に関する深い学識と高い臨床技能を修得することが可能です。

● 多摩南部地域病院（基幹施設）
多摩南部地域病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　本城　聡　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

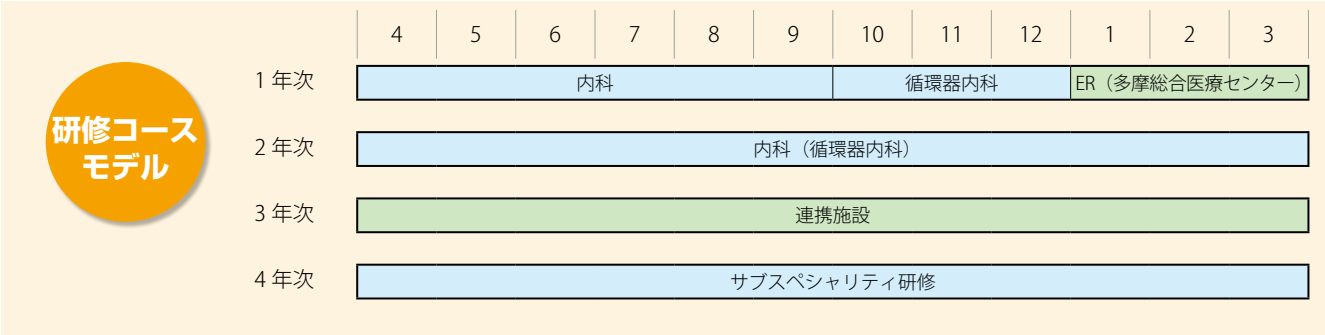
連携施設病院：多摩総合 / 神経 / 多摩北
北里大学病院 / 浦添総合病院（沖縄県）/ 中頭病院（沖縄県）/ 友愛医療センター（沖縄県）/
聖マリアンナ医科大学 / 川崎市立多摩病院 / 立川相互病院 / 島しょ等

内科専門プログラム（4 年コース）の研修で、連携施設である多摩総合医療センターあるいは多摩北部医療センターなどでの研修を含みます。また、内科専門医取得を目指しながら、多摩南部地域病院において希望する内科サブスペシャリティ分野の研修を並行して行うことも可能です。

多摩南部地域病院では、内科専門医取得のための症例経験を積むことが出来る他、循環器、呼吸器、消化器、糖尿病、リウマチ膠原病の内科系サブスペシャリティ研修に対応します。当院は、東京都 CCU ネットワーク加盟病院、消化器領域では病棟回診・カンファレンス・内視鏡検査など外科との一体的診療体制、緩和ケア病棟併設、多摩市周辺地域でリウマチ膠原病内科病棟を有する唯一の施設、などの特徴を有しております。また、多摩総合医療センターとは、指導医クラスの人材交流、患者の紹介・逆紹介、施設間カンファレンス開催など、近年、連携を強化していますので、当院のような中規模病院との組み合わせ研修により幅の広い診療経験を積むことができます。

多摩市周辺は、都心と異なり人口規模に比して急性期病院が多くありません。このため、内科急性期医療のニーズが

とても大きく、豊富な症例に恵まれた研修環境です。しかも中規模病院のため内科の各分野間においてシームレスな連携をとっています。マルチプロブレムを抱える高齢者医療の必要性が高まる中、個々の患者さんに全人的・包括的視点で取り組む中で、内科専門医としての総合力を高めることができます。



○ 多摩南部地域病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
内分泌代謝

プログラム責任者：内科　本城　聡　　プログラム研修期間：3 年

当院は 300 床クラスの地域の基幹病院であり、内科では特に総合診療の素養をベースとした糖尿病診療を学べる環境が整っています。糖尿病専門医として、糖尿病専門外来、入院患者対応、フットケア外来・糖尿病透析予防外来におけるチームカンファレンスに参加し、チーム医療の実践を経験します。糖尿病指導医を有する他、看護師にも糖尿病療養指導士の資格を有した看護師がおり、レベルの高い診療を経験できます。また院内他科からのコンサルテーションについて、病棟に往診、各科主治医とディスカッションしながらの治療を経験します。また糖尿病を背景とした疾患についても理解を深め、糖尿病をベースにした感染症診療などについても十分な経験を積みます。全身疾患としても糖尿病の加療について、十分な理解と経験を得ることを最終目標とします。

新専門医制度
リウマチ

プログラム責任者：内科　知念　直史　　プログラム研修期間：3 年

内科専門研修終了後あるいは連動研修として 3 年間、リウマチ専門研修を行います。多摩南部地域病院を基幹病院として 2 ～ 1 年の研修を行います。当院は南多摩地域の第一線に立つ中核的な医療機関であり、比較的頻度の高いリウマチ性疾患を中心に、急性期および慢性期医療を経験してもらいます。関節超音波検査、各種組織生検、整形外科との連携で手術症例の経験も積みます。臨床研究や症例報告などの学術活動の素養も身につけます。連携施設では 1 ～ 2 年の研修を行います。多摩総合医療センターでは、重症例、難治例、複数の診療科にまたがる症例の研修が可能です。多摩北部医療センターでは当院とは異なる地域医療の研修が可能です。東京医師アカデミーのスケールメリットを生かし、全人的医療が実践できるリウマチ専門医の育成を行います。

● 大久保病院（基幹施設）
東京都保健医療公社大久保病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：脳神経内科　原　由紀子
プログラム研修期間：3 ～ 4 年（内科標準コース）、4 年（内科サブスペ混合コース）、2 ～ 3 年（サブスペコース）
連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 松沢 / 東部 / 多摩南 / 荏原 / 豊島
東京女子医科大学 / 東京医科大学 / 戸田中央総合病院 / 島しょ等

本プログラムでは、特定診療科に偏らず、満遍なく内科研修を行う「内科標準コース（研修期間 3 ～ 4 年）」、内科研修と専門研修を並行して行う「内科・サブスペシャルティ混合コース（研修期間 4 年）」そして 2021 年度から新たに「サブスペシャルティコース（研修期間 2 ～ 3 年）」を設け、専攻医の多様な要望に対応しております。

「内科標準コース」では、基幹施設である当院及び連携施設での研修により、専攻医 3 年終了時に「研修手帳」に定められた 56 疾患群、160 症例以上の診療経験を達成します。規定の経験目標達成後は大久保病院で内科領域全般または希望する専門領域の研修を行えます。専門領域から common disease の経験をはじめ、複数の病態を持った患者の診療経験の他、高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験もでき、多彩な研修が可能です。「内科・サブスペシャルティ

混合コース」では、専攻医１年目から内科領域全般の研修と並行して専門研修を開始できます。内科系各診療科は教育施設・研修施設の認定を受けており、専門領域について十分な指導体制を整えています。当院では研修困難な診療科（血液内科、アレルギー・膠原病内科、感染症科、ER《必修》等）や、他院での専門科目の研修を希望する場合は、２年次に連携施設で６～ 12 ヶ月の院外研修で行います。

個々の希望・将来像に対応できるよう相談しながら研修プログラムを考えていきます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
１年次	サブスペシャルティあるいは内科各科ローテーション											
	内科標準コースでは内科系７科から選択しローテーションします。内科・サブスペ混合コースではサブスペを中心とし、症例登録に不足している科を追加研修します。											
２年次	連携施設（サブスペシャルティコースを除き ER3 ヶ月は必修）											
	両コース共に２年次に連携施設で６ヶ月～１年間の研修を行います。研修施設は当院では研修困難な診療科を中心に専攻医との相談の上選択します。											
３年次	サブスペシャルティあるいは内科各科ローテーション											
	内科標準コースにおいても規定の経験目標を達成後は３年次途中から希望するサブスペシャリティ研修に移行することができます。											
４年次	サブスペシャルティあるいは内科各科ローテーション											
	希望により１年間サブスペシャルティ研修を行うことができます。											

○ 大久保病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
循環器

プログラム責任者：循環器内科　岡野　喜史　　プログラム研修期間：４年

内科総合専門医を取得後、循環器内科専門医、不整脈専門医の取得を目指します。J-OSLER にリンクした形式で日本循環器学会、日本不整脈心電学会等が提示する症例登録を行います。並行して心臓超音波検査などの生理機能検査、画像診断、および心不全治療、心臓カテーテル検査、アブレーション治療、デバイス移植術などの必要症例の経験と学会発表の指導を行います。臨床業務においては、循環器内科診療のスキルアップができる（二次）救急科を兼務します。また連携病院循環器内科での３次救急診療、心臓血管外科でのローテーション研修も可能です。

新専門医制度
腎臓

プログラム責任者：腎臓内科　小川　俊江　　プログラム研修期間：４年

内科総合専門医を取得後、腎臓専門医、透析専門医、移植認定医の取得を目指します。J-OSLER にリンクした形式で腎臓学会が提示する症例登録を行います。並行して、透析専門医、移植認定医取得に必要症例の経験と学会発表の指導を行います。臨床業務においては、透析を含む腎内科、腎移植外科、一般診療のスキルアップができる（二次）救急科を兼務します。連携病院の腎内科（病院により特徴がある）、腎内科関連科（膠原病・感染症・循環器科・血液内科など）、国内第一の腎移植ハイボリュームセンターである東京女子医科大学などへのローテーションが可能です。

● 多摩北部医療センター（基幹施設）
多摩北部医療センター施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：副院長　小泉　浩一　　プログラム研修期間：３年

連携施設病院：駒込 / 多摩総合 / 神経 / 松沢 / 多摩南 / 大久保
公立昭和病院 / 公益財団法人結核予防会　複十字病院 / 公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院 /
独立行政法人国立病院機構　東京病院 / 日本医科大学付属病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター /
杏林大学医学部付属病院 / 東京医科歯科大学病院 / 島しょ等

多摩北部医療センターを基幹施設とする、東京都北多摩北部医療圏 (人口約 74 万人) 中心の総合内科専門医育成を目的とした内科標準タイプ研修プログラムです。当院は医療圏の中心的な急性期病院であり、北多摩北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とともに研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指せます。

上記の様に多くの施設と連携を組んでおり、基幹施設である多摩北部医療センターでの２年間と連携施設群での１年間で、内科専攻研修において求められる「疾患群数」、「症例数」、「病歴提出数」を充分に得ることができます。さらに

内科

サブスペシャリティを中心とした専門研修プログラム構築にも柔軟に対応しており、専攻医の希望に沿った研修も行っています。また、当院のみでもカリキュラムに示す内科領域 15 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療していますが、連携病院とともにさらなる研修のレベルアップを図っていきます。

症例をある時点で経験するということだけではなく、主治医として、初診、入院から退院、外来通院まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。研修達成度によっては 4 年目に subspecialty 研修を行い専門医を目指すことも可能です。

当院は病床数 337 で、うち内科病床数 174 の初期臨床研修制度基幹型教育特殊病院（研修医 5 名 / 年）でもあり、研修に必要な医学教育アメニティを整備しています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	希望科（院内）						多摩総合医療センターＥＲ			希望科（院内）		
	総合内科外来（初再診）、内科系、循環器系もしくは地域医療当直研修、ＪＭＥＣＣ受講											
2 年次	腎臓内科（多摩総合）						腎臓内科（院内）					
	総合内科外来（初再診）、内科系もしくは地域医療当直研修、内科専門医取得のための病歴提出準備											
3 年次	腎臓内科（院内）											
	救急医療・領域で症例経験の足りないところを地域医療で重点研修、病歴作成完成、サブスペシャリティを見据えた研修											
4 年次	サブスペ科											
	各サブスペシャリティの専門医を目指す専門研修											

荏原病院（基幹施設）
東京都保健医療公社荏原病院内科専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　水谷　勝　　プログラム研修期間：3 年

連携施設病院：大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩 / 神経 / 松沢 / 大久保
東邦大学医療センター大森病院 / 東京医科大学病院 / 昭和大学病院 / 昭和大学藤が丘病院 /
昭和大学横浜市北部病院 / 昭和大学江東豊洲病院 / 医療法人社団永高会 蒲田クリニック / 島しょ等

当院は、区南部に位置し、地域連携に重きを置いた急性期医療に取り組む地域密着型の病院です。救急医療、脳血管疾患医療、集学的がん医療を重点医療に掲げています。本プログラムでは、東京都区南部二次医療圏の中核的な急性期病院である当院を基幹施設として、東京医師アカデミーの連携施設、大学病院および地域特別連携施設と連携することによって各領域を網羅しています。本プログラムの理念は「心温まる医療を提供できる内科専門医を育成する」ことです。そのためには患者―医師信頼関係の構築、スタッフ間の調和、外部組織との連携協力関係の実践、専門知識・技術の習得、クリニカルクエスチョンの追求、医療環境の理解等、多岐にわたる視点が必要で、それらの問題意識を持って医療を行える内科専門医の育成を行います。本プログラムでの研修期間は、基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間の計 3 年間であり、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得することを目指します。各自の希望や経験に合わせてローテートを組むことができ、また習熟度に応じて将来のサブスペシャリティも見据えた研修が可能です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	診療科①			診療科②			診療科③			診療科④		
	一般内科（予約外受診）の外来を週 1 回、月 3 回（平日 2 回、土日祝日 1 回）程度の内科当直を行う。											
2 年次	診療科⑤			診療科⑥			診療科⑦			ER（墨東病院）		
	一般内科（予約外受診）の外来を週 1 回、月 4 回（平日 2 回、土日祝日 2 回）程度の内科当直を行う。											
3 年次	連携施設・特別連携施設									希望診療科		
	3 年次では連携施設での研修を行い、専門性のより高い研修を行う。											
	診療科①～⑦：消化器、呼吸器、循環器、神経、内分泌、感染症、ER をローテート											

● 豊島病院（基幹施設）
東京都保健医療公社豊島病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　大岡　真也　　プログラム研修期間：3～4年

連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 大久保
東京都健康長寿医療センター / 東京医科歯科大学病院 / 日本大学医学部附属板橋病院 / 青梅市立総合病院 / JCHO 東京山手メディカルセンター / 新渡戸記念中野総合病院 / 国立病院機構災害医療センター / 武蔵野赤十字病院 / 横須賀共済病院 / 横浜南共済病院 / 横浜市立みなと赤十字病院 / 平塚共済病院 / 土浦協同病院 / JA とりで総合医療センター / 柏市立柏病院 / 草加市立病院 / 秀和総合病院 / さいたま赤十字病院 / 島しょ等

本プログラムは、東京都区西北部医療圏の中心的な急性期病院である、豊島病院を基幹施設として、東京都区西北部医療圏、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで構成されます。内科専門研修を経て、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療が行えます。研修期間は基幹施設 2 年間 + 連携施設・特別連携施設 1 年間の計 3 年間です。本研修では、症例をある時点で経験するということだけでなく、主担当医として入院から退院<初診・入院～退院・通院>まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景･療養環境調整をも包括する、全人的医療を実践します。そして、個々の患者に適切な医療を提供する計画を立て、実行する能力の修得をもって目標の達成とします。当院は急性期病院の一つであるとともに、地域の病診･病病連携の中核の一つです。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。本プログラムでは、専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 3 つのコース、①内科標準コース、②サブスペシャルティ重点研修コース、③内科･サブスペシャルティ混合コースを準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	内科①		内科②		内科③		内科④		内科⑤		内科⑥⑦	
	1～2 回 / 月の内科当直研修、1 年目に JMECC を受講											
2 年次	内科⑧（連携施設）		ER 研修（連携施設）			内科サブスペシャリティ研修（連携施設）						
	連携・特別連携施設での研修。適宜希望内科及び島しょ医療研修。2～4 回 / 月の内科当直。											
3 年次	内科サブスペシャリティ研修											
	基幹 / 連携施設での研修。初診＋再診外来。2～4 回 / 月の内科当直。											

○ 豊島病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
循環器

プログラム責任者：循環器内科　中島　淳　　プログラム研修期間：2 年

当科は日本循環器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本不整脈心電学会の認定研修施設です。当院は救急医療を重点医療に挙げており、東京都 CCU ネットワークに加入し循環器救急の受け入れも積極的に行っています。虚血性心疾患、不整脈疾患、心不全等の循環器疾患をバランスよく研修することができる環境です。

常勤医師が 7 名のため、冠動脈形成術や末梢血管治療、カテーテルアブレーション等の侵襲的治療については早い段階から術者や主治医として経験することが可能です。

本コースは循環器専門医の取得を目標としますが、日本心血管インターベンション治療学会や日本不整脈心電学会の専門医取得のための研修も兼ねています。

また研修中には関連学会での発表を積極的に行い、症例報告や臨床研究での論文発表を目指します。

● 神経病院　（連携施設）

指導医責任者：脳神経内科　蕨　陽子
連携をしている基幹施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 多摩南 / 大久保 / 多摩北 / 荏原

当院の脳神経内科コースは、広く東京医師アカデミーの各病院の脳神経内科医療を担う神経内科専門医、またリサーチマインドを持った専門医の育成を目的としています。

(1) 全国最大規模の脳神経内科の病床数（218 床）と指導医数（24 名の各科指導医）により、あらゆる神経疾患に関する知識や診療技術を身につけることができます。スタッフには神経生理、神経病理、神経放射線、高次機能、認知症、筋疾患、免疫性疾患、臨床遺伝学などの専門家がおり、サブスペシャルティ研修を行うことができます。

(2) 症例検討会、Journal Club、CPC をはじめとした各種カンファレンスは充実しており、また医師アカデミー生対象の講義が年 24 回と電気生理学に特化した講義が年 7 回組まれています。

(3) 地域療養支援、訪問診療の研修も行っており、疾患の進行期・終末期に至るまでの患者サポートを学ぶことができます。また神経疾患における終末期緩和ケアのスキルや多職種連携、地域連携の研修も行います。

(4) 臨床研究や学会発表、論文執筆にも力を入れていて、症例報告を始めとして、院内の様々な臨床研究グループに参加し、研究成果を発表することを推奨しています。また、東京都医学総合研究所との連携により学位取得も可能です。

(5) 日本神経学会の教育施設であり、当院は神経内科専門医試験の高い合格率を誇ります。

(6) なお、当院は連携施設であり、当院での研修は、基幹施設のプログラムにおける連携研修の一部として行われます。そのため、下図のコースは一例であり、多様性があることをご理解ください。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	内科各科ローテーション（基幹施設）									ER 研修（基幹施設等）		
	説明：基幹施設での勤務を主体として、必修の救命救急短期研修と、専門医取得のために必要な内科症例や脳血管疾患の研修を行う。											
2 年次	連携研修（神経病院、または当院以外の連携病院）											
	説明：基幹施設の連携研修として、基幹施設の連携施設である神経病院、または他の連携病院で内科および脳神経内科の研修を行う。											
3 年次	脳神経内科病棟 1，高次機能			脳神経内科病棟 2，神経放射線			脳神経内科病棟 3，神経生理			脳神経内科病棟 4，神経病理		
	説明：神経病院での勤務を主体として、脳神経内科の各病棟医長の指導を受けながら，サブスペシャリティ研修も並行して行う。											
4 年次	脳神経内科病棟 5，リハビリテーション			院内他科研修			脳神経内科病棟 6，神経耳科・神経眼科			脳神経内科病棟 7，神経精神科		
	説明：神経病院に勤務し、脳神経内科病棟研修とサブスペシャリティ研修に加え、脳外科、小児科、放射線科などの院内他科研修も選択できる。											

○ 神経病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
神経内科

プログラム責任者：脳神経内科　蕨　陽子
プログラム研修期間：1 ～ 3 年（専門医試験受験資格取得まで）

1）当院の脳神経内科は 7 病棟（218 床）あり、専門性の異なる 8 名の医長で統括運営されています。それぞれ特色ある病棟をローテートし臨床医としての研鑽を積みます。専門性をより深めるため、自らに適した病棟を選択する事も出来ます。さらに、神経に関する各診療科（神経生理・神経放射線・神経病理・高次脳機能・リハビリテーション・精神・神経耳科・神経眼科の 8 部門）の研修も並行して行います。研修の成果として専門医試験は一回での合格を目指します。2）研究テーマを共有する部・医長から直接的な指導を受け、臨床研究を行い、論文執筆や学会発表を行いながら、コース修了後の博士研究テーマを見出します。3）神経病院の将来を支える人材としての自覚を持ち、若手医師の教育や多職種連携チーム活動、病院運営などに積極的に関わります。

● 東部地域病院　（連携施設）

指導医責任者：内科　鈴木　聡子
連携をしている基幹施設病院：墨東 / 大久保

研修は、東部地域病院と基幹施設病院の研修に加えて、他の連携施設等をローテーションして、内科全般の診療、技量の能力を身に付けた後、消化器、呼吸器、循環器いずれかの専門科の研修を進めていきます。

内視鏡検査（上部、下部、気管支鏡）、心臓カテーテル検査、超音波検査など幅広い技術を習得できます。各種内科学会への参加、発表を行います。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	消化器内科・呼吸器内科・循環器内科									ER（連携施設）		
2 年次	腎臓内科（連携施設）			神経内科（連携施設）			血液内科（連携施設）			内分泌代謝内科・膠原病内科（連携施設）		
3 年次	基幹施設											
4 年次	消化器内科・呼吸器内科・循環器内科											

（広尾病院 研修風景（心臓カテーテル））

（大塚病院 内科研修風景 (内視鏡)）

（大久保病院 院内研修風景）

（多摩北部医療センター 研修風景）

外科

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎墨東病院

○広尾病院
○大塚病院
○駒込病院
○小児総合医療センター
○松沢病院

◎多摩総合医療センター

○東部地域病院
○多摩南部地域病院
○大久保病院
○多摩北部医療センター
○荏原病院
○豊島病院

研修プログラムの特徴

● 墨東病院（基幹施設）
東京都立墨東病院施設群外科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：外科　髙橋　道郎　　プログラム研修期間：3 年
連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 小児総合 / 東部 / 荏原 / 豊島 / 島しょ等

基幹施設は墨東病院で、東京医師アカデミーの 7 病院と連携しています。外科研修で必要な領域すべてを網羅し、東京都の色々なエリアを含んでいます。本プログラムの目的は以下の通りです。

(1)　手術ができる外科医を育てる

外科専門研修の時期に一番大事なことは、とにかく手術を多くすることです。本プログラムでは、3 年間で術者を少なくとも 200 例以上経験することができます。外科専門医の最低必要経験症例 350 例、術者経験数 120 症例が、短期間のうちに経験できます。

2019 年卒業の外科専修医：経験症例 550 例、術者経験 277 例／ 3 年間

(2)　研究発表、論文発表も積極的に指導

学術活動は、手術と同様に臨床医として必要不可欠なものであり、外科専門研修の時期に学んでおくべきものです。本プログラムでは、研究発表、論文発表のスキルを経験豊富な指導医が、積極的に指導し、研修に必要な 20 単位を大きく上回る業績を達成します。

2019 年卒業の外科専修医：研究発表 9 件、論文発表 2 件、合計 126 単位／ 3 年間

(3)　サブスペシャリティーに繋がる研修

基幹病院、連携病院を含めて、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科に加え、内視鏡外科、肝胆膵外科、乳腺外科などすべての領域で最前線の医療を行っているため、外科専門医を取得の上、希望のサブスペシャリティー領域に繋がる研修をすることができます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	下部消化管外科			上部消化管外科			救命／ ER 研修			肝胆膵外科		
	3 ヶ月毎にすべての専門領域を研修します。											
2 年次	乳腺外科			下部消化管外科			胸部外科研修			上部消化管外科		
	2 年次で必要経験症例数達成を目指します。											
3 年次	駒込病院						肝胆膵外科			乳腺外科		
	がん専門病院研修やサブスペシャリティーに繋がる研修を意識します。											

○ 墨東病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
消化器外科

プログラム責任者：外科　真栄城　剛　　プログラム研修期間：3 年

外科専門医を既修得の者がサブスペシャリティーとして消化器外科専門医を取得するための研修プログラ ムです。がん診療を主に研修するコースですが救急や良性疾患を含めた消化器外科領域の全域を幅広く研修できるコースです。

専門研修期間は 3 年で基本的に 6 か月ごとの単位で上部、下部、肝胆膵をローテイトし消化器外科専門医取得に必要な手術症例を経験します。研修状況や希望に応じてアレンジは可能です。

近年、がん手術の多くは鏡視下に行われていますが、鏡視下手術練習のための共用のドライボックスもあり、随時使用が可能です。手術支援ロボットダヴィンチが導入され、外科では胃癌、直腸癌手術が施行されております。膵手術でも施行準備を進めています。

新専門医制度
呼吸器外科

プログラム責任者：呼吸器外科　江花　弘基　　プログラム研修期間：2 年

墨東病院呼吸器外科における豊富な呼吸器外科手術症例（年間 200 例以上、肺癌だけでなく、気胸などの嚢胞性肺疾患、肺感染症に対する手術、外傷など）を用い、呼吸器外科専門医取得の修練を行う。修練機関は 2 年間とし、墨東病院 1 年、連携施設 1 年 (2 か所もしくは 3 か所) での呼吸器外科研修を予定している。平行して学位 (医学) 取得も視野に入れ、大学との連携 (大学院入学、共同研究など) を行っていく予定である。

新専門医制度
心臓血管外科

プログラム責任者：心臓血管外科　由利　康一　　プログラム研修期間：3 年

心臓血管外科専門医取得に必要な知識の取得、術者・助手の手術経験、学術活動を目標とする。①基本的な疾患の診断と病態評価を行い、治療の適応・方針について正確な判断力を身に付ける。②基本的手技 (大腿動脈の露出等) に習熟し、高度な手技 (やや複雑な弁膜症や腹部・胸部大動脈瘤等、心停止下冠動脈バイパス等の助手、単弁置換術等比較的単純な開心術の術者、技量に応じ急性大動脈解離手術等の術者) を段階的に習得する。③救命救急センターとの連携で心臓大血管緊急症例への治療プロセスを身に付ける。④上級医の指導の元、年 1 回以上の学会発表を必須とし、論文作成も行う。⑤患者及び患者家族への接遇および他職種とのコミュニケーションの重要性を理解し、実臨床で対応力を身に付ける。

新専門医制度
乳腺外科

プログラム責任者：外科　髙濵　佑己子　　プログラム研修期間：3 ～ 5 年

乳腺外科専門医とは乳癌の診断と手術を含めた治療を専門とし、資格認定試験を経て認定されるサブスペシャルティです。外科専門医プログラムの基幹病院は墨東病院であり各外科分野のほとんどを有しているため、院内で豊富な症例を短期間で経験でき、速やかに外科専門医を取得し乳腺外科専門医研修に移行することが可能です。当院乳腺外科では乳癌だけでなく乳腺炎や良性腫瘍など幅広い乳腺疾患を取り扱っており、豊富な手術を経験することが可能です（年間約 200 件）。サブスペシャリティ領域の基幹病院となる駒込病院と連携し、幅広い経験を積みながら乳腺外科専門医カリキュラムを 3-5 年で行います。

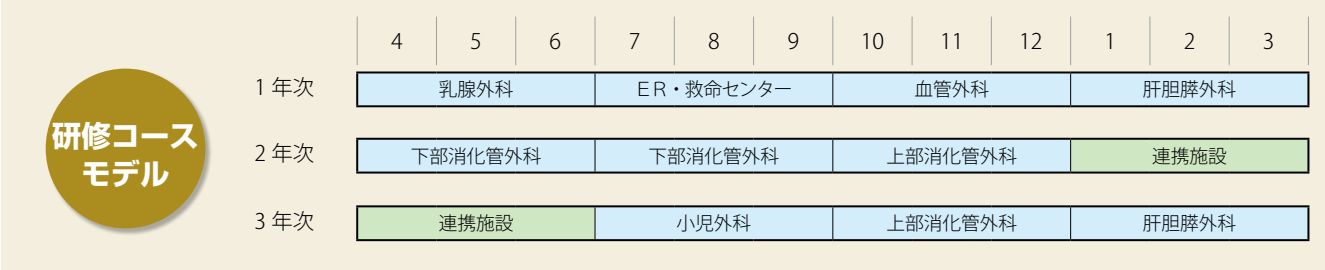
● 多摩総合医療センター（基幹施設）
都立多摩総合医療センター施設群外科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：外科　森田　泰弘　　プログラム研修期間：3 年

連携施設病院：広尾 / 駒込 / 小児総合 / 松沢 / 多摩南 / 大久保 / 多摩北 / 島しょ等

外科専門医を取得するための研修プログラムが主体です。がん診療を重点的に研修するために、駒込病院を長期にローテーションすることも可能です。また心臓血管外科を目指すために、心血管外科の研修期間を長くするなど、目的に応じて研修内容を調整することができます。専門研修期間は 3 年で、基幹病院または連携施設群のいずれかに所属し研修を行います。（どちらも最低 6 か月ローテーションすることが規則になっています。）3 年間で一般外科 / 救急 / 消化器 / 呼吸器 / 乳腺・内分泌 / 心・血管 / 小児などの分野を原則 3 ケ月を単位としてローテートし、分野毎に集中的に研修を行います。旧制度ですが、令和 3 年度修了者は術者 257 例（膵頭十二指腸切除含む）、助手 333 例の経験をしています。多摩総合医療センターでは、手術動画を院内 LAN から視聴でき、手術の予習・復習が可能です。また内視鏡手術練習のための共用のドライボックスもあり、随時使用が可能です。また平成 30 年より手術支援ロボットダヴィンチが導入され、外科では胃癌、直腸癌、膵腫瘍手術が施行されております。希望があればシミュレーターなどで練習することができます。

外科



○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度 消化器外科　プログラム責任者：消化器・一般外科　森田　泰弘　　プログラム研修期間：2 年

消化器外科専門医は、基本領域である外科専門医に直結する 6 つのサブスペシャリティ領域の一つで、消化器外科領域の診断、手術、周術期管理などにおいて標準的外科診療を担える医師と定義されています。専門医獲得の要件としては、外科専門医修練開始より 300 例の手術件数と中・高難度手術の術者 50 例となっているが、当院では年間 1000 例以上の消化器外科関連手術を施行し、消化器外科学会指導医 4 名、専門医 5 人の指導体制をとっており、十分な研修を受けることができます。研修は上部消化管、下部消化管、肝胆膵の 3 つの診療班をローテーションする形で行われます。

新専門医制度 呼吸器外科　プログラム責任者：呼吸器外科　小原　徹也　　プログラム研修期間：5 年

呼吸器外科専門医は外科専門医からつながるサブスペシャリティ領域の一つで、最短卒後 8 年目までに呼吸器外科手術の術者 60 例および助手 120 例の経験を積み重ねて専門医取得を目標とします。当院における年間 150 余例の手術症例および研修基幹施設である東京女子医科大学病院との連携により幅広い呼吸器外科修練を行うことが可能です。

新専門医制度 心臓血管外科　プログラム責任者：心臓血管外科　久木　基至
プログラム研修期間：3(〜5)年(非連動研修者)、2(〜5)年(連動研修 1 年修了後)、1(〜5)年(連動研修 2 年修了後)

本コースは新専門医制度に則り、心臓血管外科専門医認定機構で認められた修練施設群での研修を提供するものです。多摩地区を中心とした東京都内の 8 施設で構成された杏林大学心臓血管外科グループに所属し、グループ全体で修練医 22 名、心臓血管外科専門医 41 名で構成される修練施設群を形成しています。科の特性上 1 施設で心臓血管外科全分野を経験することが難しい為グループ内の連携施設全体での研修プログラムとし、規定期間内に専門医試験資格及び必要な経験を習得します。

単独型は卒後 6 年目より 3 年間の研修の後、最短で卒後 9 年目で心臓血管外科専門医試験の受験資格を獲得します。また、基本領域である外科からの連動研修も認められているため卒後 4 年目からの 3 年間の研修となった場合は、最短で卒後 7 年目に受験資格を獲得することとなります。

● 広尾病院　(連携施設)

指導医責任者：外科　井石　秀明
連携をしている基幹施設病院：墨東 / 多摩総合

当科では、後期研修医が身につけるべき急性虫垂炎や鼡径ヘルニア、胆石症・急性胆嚢炎などの症例が豊富です。基本的にこれらの疾患は、すべて後期研修医が執刀医として手術を担当することになります。また、食道癌・胃癌・大腸癌・肝胆膵悪性疾患についても、各領域の専門医が担当していますので、すべての臓器をローテーションし、様々な手術手技を学ぶことが可能です。3 年のプログラムの中で、各臓器チームを 2-3 回ローテートすることになりますので、step by step で指導を受け、スムーズな skill up が可能なプログラムとなっています。当院には ER が併設されており、外科でも 1 次から 3 次救急まで対応しています。急性腹症、外傷、自然気胸などを中心に様々な救急疾患を受け入れていますので、緊急手術ならびにその周術期管理も習得できます。担当した救急患者については、主治医として緊急手術から術後管理まで担当することで、多くのことを学べます。また、3 か月程度 ER に出向し、集中的に救急治療を学んでも

らうことが可能です。外科専門医取得に必要となる心臓・大血管や呼吸器外科手術も症例豊富ですので、当院での研修だけで必要な症例数を経験することが可能となっているのも特徴です。当科では、手術手技や周術期管理のみならず、診断にも力を入れていますので、後期研修医には内視鏡検査も指導しています。以上のように 3 年間の研修で、診断・手術・周術期管理につき大きく skill up できる研修プログラムを組んでいます。また、専門医取得も最短期間で可能です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	上部消化管			下部消化管			肝胆膵			呼吸器・乳腺		
2 年次	墨東病院						上部消化管			下部消化管		
3 年次	ER			肝胆膵			呼吸器・乳腺			上部消化管		

● 大塚病院　（連携施設）

指導医責任者：外科　吉村　哲規　　プログラム研修期間：3 年
連携をしている基幹施設病院：墨東

大塚病院外科では、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科という 4 つの分野で、良性疾患から悪性疾患の手術までを研修していただけます。

胸腔鏡・腹腔鏡手術の普及に伴い、大塚病院外科では、多くの手術が鏡視下手術で行われております。呼吸器外科手術は、ほぼ全例で胸腔鏡下手術を行っております。消化器外科では、虫垂炎、鼠径ヘルニア、胆石症といった良性疾患から、胃癌、大腸癌といった悪性疾患まで、ほとんど全ての症例で腹腔鏡下手術を行っております。後期研修医の方にも、術前に十分な指導・シミュレーションを行い、初めて経験する手術からでも腹腔鏡・胸腔鏡手術を執刀していただきます。習熟度に応じて、腹腔鏡下虫垂切除術など低難易度手術から、腹腔鏡下胃切除術・大腸切除術など難易度の高い手術へ進みます。術後はビデオカンファレンスで指導医から次回に改善する点を共有します。乳腺外科では、マンモグラフィーの読影、エコー・生検の手技、そして手術、さらには抗がん剤治療までの全てを外科だけで学ぶことができます。小児医療にも重点を置いており、新生児から小児まで多くの手術を経験できます。このように一人ひとりの後期研修医に幅広い分野で手厚い指導ができるのが、大塚病院外科の最大の特徴です。基幹施設での修練では、当院で十分な経験が難しい心臓血管外科・外傷外科などを経験することが可能です。当院のプログラム修了後は、東京医科歯科大学、日本大学、東京医科大学、埼玉医科大学など東京近辺の大学の外科医局への入局の推薦も可能です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	消化器外科			小児外科			呼吸器外科			乳腺外科		
	4 つの分野を適宜ローテートしチームの一員となり、各分野の周術期管理と手術全体の流れを習得。低難易度手術は全例後期研修医が執刀。											
2 年次	墨東病院						消化器外科			小児外科		
	基幹施設の 6 か月間で、当院で経験不可の心臓血管外科などを経験。2 年目のローテートでは中難易度手術の執刀まで進み、専門分野の選択に入る。											
3 年次	呼吸器外科			乳腺外科			自由選択			自由選択		
	3 年次の後半では自身で決めた専門分野を自由選択し、より難易度の高い手術へ進みます。											

● 駒込病院　（連携施設）

指導医責任者：外科　脊山　泰治
連携をしている基幹施設病院：墨東 / 多摩総合

がん専門病院で最先端の癌治療を学びながら、外科専門医を取得することができます。駒込病院は山の手の静かなエリアである文京区に位置します。良い環境で落ち着いて外科医としての基本を身につけませんか？

・外科専門医を取得できます（積極的に術者経験を！）

全 6 領域を 3 ヶ月毎にローテートする中で、専修医ができる症例は積極的に術者経験をしてもらっています。本年卒業の専修医も 3 年間で症例経験 500 例、術者経験 200 例と外科専門医の必修条件を十分クリアしています。

・がん専門病院における研修のメリット

食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、乳腺外科の 6 領域が専門領域の治療に専念しており、ロボット支援手術、内視鏡外科手術など各領域の最先端手技を学べます。遺伝子診断、免疫チェックポイント治療薬も積極的に導入しており、最先端医療を学べます。

・プログラム制の活用

当院で経験し難い腹部救急症例、心臓血管外科症例、小児外科症例は墨東病院、多摩総合医療センターなど基幹病院のローテートや、プログラム内の専門病院で経験してもらいます。自由選択枠が 9 ヶ月あるため、3 年目は興味のある診療科、サブスペシャリティーに繋がる研修など自らプログラムをデザインできます。

・学術活動指導体制

学会発表、症例報告、論文執筆など経験豊富な指導医が多く在籍しており、学術活動の機会は多くあります。研修中に英文報告の執筆指導も行います。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	食道外科			胃外科			救急（基幹病院）			乳腺外科		
	1 年次に救急をローテートします。											
2 年次	呼吸器外科			一般外科（基幹病院）			肝胆膵外科			大腸外科		
	2 年次までに基本 6 領域をローテートします。基幹病院で一般外科研修をします。											
3 年次	心臓・血管外科（基幹病院）			自由選択枠								

自由選択枠は、サブスペシャリティーを見据えた研修デザインが可能です。
小児外科など症例の偏りがある場合はプログラム内で経験してもらいます。

○ 駒込病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度 消化器外科　プログラム責任者：肝胆膵外科　脊山　泰治　　プログラム研修期間：3 年

【理念】消化器外科領域診療に関わる最新の知識・診療技術を習得し，実践できる能力を養いつつ，この領域の学問的発展によって社会に貢献すること。

【目標】日本消化器外科学会専門医取得

【当院の環境】消化器外科 4 領域（食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科）が、がん診療として最先端の医療を提供しており指導医数も充実しているため、外科専攻医からの研修先として評価が高い。

【研修内容】食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科を 2 年間ローテートしながら、各領域の専門的な手術を経験します。開腹手術に加え、高難度腹腔鏡手術やロボット手術のトレーニングなど最先端の消化器外科手術を習得します。

【学術活度】学会発表、論文執筆の指導も積極的に行い、消化器外科専門医申請に必要条件をクリアします。

新専門医制度 乳腺外科　プログラム責任者：外科（乳腺）　有賀　智之　　プログラム研修期間：3 年

当科は新臨床専門医制度乳腺外科専門医カリキュラムの基幹施設です。診断：日本乳がん検診精度管理中央機構主催の講師が読影指導。手技：手術症例数は原発性乳癌の手術が年間 500 例超、生検数も 400 件以上の十分な症例数があり、また 10 名の乳腺専門医が診療、教育を担当しています。薬物療法：自診療科内ですべてを扱っており、数多く

の治験・臨床試験の参加実績を有しています。遺伝子診療：カウンセリング、遺伝学的検査、サーベイランス、リスク低減手術からガイドラインの作成に至るまで全般の診療と教育を診療科内の４名の遺伝性腫瘍専門医が担当しています。形成外科・病理科とは定期的なカンファレンスを行い、短期間のローテートをさせていただき専門医教育課程に不可欠な要素と考えています。

● 東部地域病院　（連携施設）

指導医責任者：外科　北島　政幸
連携をしている基幹施設病院：墨東

医の倫理を体得し、かつ、診断と技術並びに手術前後の管理など、一般外科診療に関する標準的総合的な知識と技量を修得した医師を育成し、地域医療の向上に貢献することを大きな目標としています。これら研修の成果を学会で発表するとともに、日本外科学会専門医受験資格取得も目標のひとつとします。社会人大学院生として、順天堂大学大学院にて学位取得のプログラムがあります。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	消化器外科・一般外科（乳腺外科含む）・小児外科											
2年次	ER/ 救命救急研修（基幹施設）			基幹施設			呼吸器外科			心臓血管外科（連携施設）		
3年次	消化器外科・一般外科（乳腺外科含む）											

● 荏原病院　（連携施設）

指導医責任者：外科　吉利　賢治
連携をしている基幹施設病院：墨東

外科研修プログラムは、墨東病院を基幹とし、当院は連携施設としてプログラムに参加します。しかし連携施設の採用でも、当院で研修できない領域を基幹施設での研修で補う形で、専門医の取得が可能となります（基幹病院での研修は最低６か月は必要です）。当院の外科には、消化器・一般外科、呼吸器外科、乳腺外科があります。消化器・一般外科は年間手術数約 400 例、地域医療の中核病院として急性虫垂炎、痔核、各種ヘルニア、胆石症などの外科研修の初期に経験すべき低難度手術症例から、消化管穿孔、急性胆のう炎などの緊急手術、胃癌、大腸癌といった消化管悪性腫瘍の手術、更には肝胆膵癌などの高難度手術に対しても積極的に取り組んでいます。呼吸器外科は年間約 40 例で胸部外傷、血気胸などから転移性、原発性肺がんなど、乳腺外科は年間約 60 例、乳腺腫瘍を中心に手術を行っています。当院はあまり専門に特化した病院ではなく、多くの症例を扱う市中病院であり、そのため若手医師が外科研修を始める病院としては最適の施設ではないかと自負しています。当院での手術の半数以上は外科経験４年以下の若手医師が術者として行っており、多くの手術を経験することができます。大人数の外科ではないですがスタッフは皆、各分野の指導医、専門医資格を有し、外科の基礎からマンツーマンで指導する体制をとっています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	消化器・一般外科											
	虫垂炎、ヘルニア、痔核、胆石などの低難度手術を対象に術者として多数の症例を執刀し、外科の手術手技の基礎を学ぶ。症例報告などの学会発表も経験する。											
2年次	乳腺外科			呼吸器外科			墨東病院					
	外科専門医取得に必要な様々な分野の症例を経験する。当院では経験できない疾患は基幹病院ローテートで経験してもらう。											
3年次	消化器・一般外科			呼吸器外科						消化器・一般外科		
	外科専門医取得に必要な症例数を確保していることを再確認する。外科専門医に続くサブスペシャルティの希望にも配慮してローテートさせる。											

外科

豊島病院　（連携施設）

指導医責任者：外科　飯田　聡
連携をしている基幹施設病院：墨東

※プログラム内容、詳細は東京医師アカデミー　墨東病院外科　専門研修プログラムを参照

豊島病院外科は東京医師アカデミーの外科基幹病院・墨東病院外科プログラムの連携施設となっています。

呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科医はおりませんが、消化管（食道、胃、大腸）、肝胆膵、乳腺外科の各専門医が在籍しており、専門的な診療を行っています。

外科手術件数は年間約 800 ～ 900 例で、初期研修医、外科専攻医の皆さんも能力に応じて多数例の手術の執刀や処置を経験することができます。手術以外にも内視鏡検査や PEG、EMR、ESD、EST などの内視鏡的治療、PTCD、CT 下ドレナージや神経ブロック等の IVR 、DMAT チームを中心に医療救護班活動や大規模災害訓練などの災害医療にも外科医が積極的に取り組んでいます。当院では " 断らない救急 " をモットーに、二次救急指定病院として救急医療にも積極的に取り組んでいます。若い医師には忙しくはありますが、多数例の手術症例を経験することができ大変勉強になると思います。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	外科									救命センター /ER 研修		
2 年次	外科									胸部外科		
3 年次	外科						外科（駒込病院）			外科		

4 月 -12 月では自院での一般消化器外科・乳腺外科の一般的な基礎研修を行う。自院では初診 + 再診外来を週に 1 回担当。3 か月救命センター /ER の研修を行う。

豊島病院での一般消化器外科・乳腺外科の一般的な研修を行う。3 か月の胸部外科研修、小児外科研修を行う。

3 年次では自院と連携施設での研修を行い、サブスペシャリティに関連した専門性のより高い研修を行う。

（駒込病院外科 消化管吻合実習）

（豊島病院 外科手術の様子）

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎墨東病院

○大塚病院
○駒込病院

◎多摩総合医療センター

○多摩北部医療センター

研修プログラムの特徴

● 墨東病院（基幹施設）
東京都立墨東病院施設群産婦人科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：産婦人科　久具　宏司　　プログラム研修期間：3 年

連携施設病院：東京大学医学部附属病院 / 聖路加国際病院 / 順天堂大学医学部附属順天堂医院 / 焼津市立総合病院

当院産婦人科は、東京都区東部唯一の総合周産期センターを新生児科とともに運営する周産期医療の要としての役割と、国の定める地域がん拠点病院における婦人科癌診療の中心施設としての側面で成り立っています。周産期部門では、年間約 1000 件の分娩を取扱い、とくにきわめて早い時期の早産や、ハイリスク妊娠、さまざまな合併症妊娠に対応し、広範囲から送られる母体搬送の件数は年間 200 件を超え、都内随一です。当院の研修では、正常分娩から鉗子分娩などの産科手術、帝王切開手術に数多く臨むことができます。婦人科部門では、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌をはじめあらゆる婦人科悪性腫瘍に対し、手術療法、放射線療法、抗癌剤による化学療法を数多く行っています。研修では多くの手術を経験し、さまざまな治療法を組み合わせた治療の計画に参画し、術前術後管理など、外科的治療の基本を学ぶことができます。良性疾患に対して、可能なものは腹腔鏡手術を行っています。開腹手術を含め、手術の執刀まで研修期間中に行うことが可能となります。当院産婦人科は、日本産科婦人科学会の専攻医指導施設であるばかりでなく、日本周産期・新生児医学会の周産期専門医（母体・胎児）認定基幹施設に、また日本婦人科腫瘍学会の婦人科腫瘍専門医指定修練施設に指定されており、それぞれの複数の専門医が研修指導にあたります。また、当院が 1 次・2 次および 3 次救急施設、精神科救急施設であることから、産科救急、婦人科救急の症例にも多く接する研修が可能です。第一目標は産婦人科専門医資格の取得です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	周産期研修			周産期研修			周産期研修			婦人科研修		
	周産期医療の基礎を学び、基本的な診療手技を身につけることが第一に必要である。産婦人科医療に対する基本を習得した段階で、婦人科手術に臨む基本的態度を身につける。											
2 年次	地域医療（焼津市立総合病院）			地域医療（焼津市立総合病院）			生殖医療（聖路加国際病院）			生殖医療（聖路加国際病院）		
	地域医療に接することにより、産婦人科医療の現状に対する視野を広める。焼津市立総合病院は、生殖医療も行っているので、生殖医療に接することも可能である。さらに、都市部における産婦人科医療に接するために、聖路加国際病院の勤務も可能である。また、東京大学医学部附属病院を選択することも可能である。											
3 年次	婦人科研修			NICU 研修			周産期研修			周産期研修		
	悪性腫瘍診療における病棟業務を学びとる。再び周産期医療を行う前に NICU 研修を受け、新生児側の視点を身につけた後に、帝王切開の術者が可能となる。											

● 多摩総合医療センター（基幹施設）
東京都立多摩総合医療センター産婦人科研修プログラム（東京医師アカデミー専門研修プログラム）

プログラム責任者：産婦人科　谷口　義実　　プログラム研修期間：3 年

連携施設病院：大塚 / 駒込 / 多摩北
東京医科歯科大学病院 / 杏林大学医学部付属病院 / 青梅市立総合病院 / 立川相互病院 /
田園都市レディースクリニック

多摩総合医療センター産婦人科研修プログラムは、東京都が運営する専門医養成組織である東京医師アカデミーの専門研修プログラムの一つです。本プログラムの基幹施設である多摩総合医療センターは、地域がん診療拠点病院であり、また一体として開設されている小児総合医療センターと連携して、総合周産期母子医療センターでもあります。当院産婦人科は、全国的にも上位に位置する年間 150 件以上の婦人科悪性腫瘍手術件数を有し、また総合周産期母子

産婦人科

医療センターの産婦人科として年間 150 件以上の母体搬送を受け入れ、同時にスーパー母体救命対応施設（都内 6 施設）としての救急診療も実践しています。研修は 2 年間を基幹施設である当院産婦人科、1 年間を東京都内もしくは神奈川県内の連携施設で行います。当院産婦人科では、婦人科腫瘍、周産期、女性のヘルスケア領域を中心とした広範囲の高度な医療を研修し、連携施設では、内分泌分野、特に生殖補助医療と地域医療を含めた研修を行います。また当院産婦人科は、産婦人科専門研修においての基幹施設であることに止まらず、専門研修修了後の婦人科腫瘍専門医、周産期専門医（母体・胎児）の修練施設でもあり、サブスペシャリティー領域までカバーする質の高い指導医が豊富に在籍しています。3 年次の当院産婦人科研修では、サブスペシャリティー領域の専門医取得に向けた機会を提供することも可能です。3 年間で本邦の標準治療や先進的な医療と地域の実情に合わせた実践的な医療を行える人材の育成を目指します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	産婦人科（多摩総合医療センター）											
	産婦人科基礎（正常妊娠・分娩・産褥、正常新生児、婦人科良性腫瘍の診断・治療・手術）											
2 年次	連携施設①						連携施設②					
	連携施設①は生殖補助医療含む生殖内分泌強化可能な病院。連携施設②は産婦人科地域医療の経験可能な病院。											
3 年次	産婦人科（多摩総合医療センター）											
	産婦人科応用（ハイリスク妊娠・分娩、婦人科悪性腫瘍の診断・治療・手術、腹腔鏡手術）											

○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

周産期　プログラム責任者：産婦人科　谷口　義実　　プログラム研修期間：3 年

当院は日本周産期・新生児学会の周産期専門医（母体・胎児）の修練中に研修が必須な指定基幹施設です。また当院は総合周産期母子医療センターであり、東京都指定の母体救命対応施設でもあります。年間約 1200 件の分娩、150 件以上の母体搬送、25 件の母体救命症例、500 件以上の帝王切開と 3 年間の修練で周産期専門医取得が可能となる充分な症例数が見込まれます。また当科には専門医、指導医資格を持った医師が複数在籍しており十分な指導体制が整っています。

研修期間中は基本的に 3 年間を多摩総合医療センター産婦人科での修練とし、希望者は 2 年目に 3 ヵ月程度小児総合医療センター新生児科での研修も可能とする予定です。修了時点で日本周産期・新生児医学会周産期（母体・胎児）専門医試験の受験資格が得られるカリキュラムを組みます。

● 大塚病院　（連携施設）

指導医責任者：産婦人科　岩田　みさ子
連携をしている基幹施設病院：多摩総合

当院は、東京都区部に存在する総合周産期母子医療センターとして高度な周産期医療を提供し、常時都内上位の母体搬送受け入れ件数を誇るとともに、地域中核病院として、婦人科疾患や生殖内分泌、女性のヘルスケア診療も行っています。また、恵まれた立地とセンター機能を活用し、さらには基幹施設である多摩総合医療センターでの悪性腫瘍症例の経験、連係している東京医科歯科大学病院での生殖医療の研修も含め、バランスの良いキャリア形成が可能なプログラムになっています。

[1 年次]　当院にて産婦人科の基本手技の習得を行うとともに、周産期医療における妊産婦管理、婦人科良性腫瘍患者の診断・治療、産婦人科救急医療を中心に研修を行います。妊婦健診、産後 1 カ月健診、一般初診、再診外来を担当します (当初は指導医の監督下に行います)。

[2 年次]　基幹施設である多摩総合医療センターに 6 か月所属し、婦人科悪性腫瘍の診療を中心に研修します。3 ～ 6 か月は地域医療研修として、産婦人科領域全般を広く研修します。より主体的な立場が求められ、知識・技術の定着が期待されます。女性のヘルスケアに関する診療も経験する機会も得ます。東京医科歯科大学病院で生殖内分泌診療と

婦人科手術を中心に研修を 3 か月行います。

［3 年次］ 当院にて、これまでの経験をさらに深い知識・技術に深化させます。自分のサブスペシャリティへの方向性を持てるよう、診療内容の調整が可能です。初期臨床研修医、シニアレジデント 1 年目の指導を通じて、自身の知識、技術の再確認、定着を行います。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	大塚病院											
	基本手技の習得、妊産婦管理、産婦人科救急、婦人科良性疾患の手術を中心に研修。7 月頃から妊婦健診、一般外来も段階的に担当。											
2 年次	多摩総合医療センター						地域医療（多摩北部医療センター）			生殖医療（東京医科歯科大学）		
	多摩総合医療センターでは悪性腫瘍を中心に研修を行う。地域医療では主体的な立場での診療、女性のヘルスケア診療の経験機会も期待される。											
3 年次	大塚病院											
	生殖医療研修は 2-3 年目の間で 3 か月間。3 年目は大塚病院でシニア 1 年次の指導も行い知識、技術を深化させるとともに専門医受験への準備を行う。											

● 駒込病院　（連携施設）

○ 駒込病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

婦人科腫瘍　プログラム責任者：婦人科　喜納　奈緒　　プログラム研修期間：3 年

当プログラムは日本産婦人科学会専門医取得後のサブスペシャリティ領域である婦人科腫瘍分野を研修し婦人科腫瘍専門医を養成するプログラムです。当院では婦人科悪性腫瘍中心の治療を行っており、開腹手術を主として、腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術をはじめ放射線治療、薬物療法、緩和治療含め婦人科腫瘍専門医取得を目指す幅広い研修が行われます。多くは 3 年終了時に専門医取得に必要な症例数を達成し、高度な治療技術が習得できています。他、希望があれば、日本遺伝性腫瘍学会専門医や臨床細胞診学会専門医の研修も可能です。

小児科

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎大塚病院
◎墨東病院
◎小児総合医療センター

○広尾病院
○多摩北部医療センター
○荏原病院
○豊島病院

研修プログラムの特徴

● 大塚病院（基幹施設）
大塚病院施設群小児科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：小児科　安藏　慎　　プログラム研修期間：3 年
連携施設病院：小児総合
日本大学医学部附属板橋病院 / 慶應義塾大学病院 / 島しょ等

本プログラムは子どもの総合医育成を目的としており、特定の専門領域に偏ることなく幅広い研修が可能です。１・２年目は大塚病院小児科で研修します。当科は地域に密着した総合的医療を展開しており、２次までの救急患者を受け入れており、小児科医として欠くことのできない救急疾患や虐待への対応、急性疾患の管理の研修ができます。また、当院は総合周産期母子医療センターであり、Ｍ－ＦＩＣＵ、ＮＩＣＵ、ＧＣＵを有し、専門的な新生児医療の研修ができます。さらに当院には小児外科医、小児脳神経外科医、児童精神科医の常勤医がおり、一般小児疾患はもとより、小児の外科的疾患から心の問題まで幅広く様々な疾患を経験することができます。専門研修３年目に最長９か月間、連携施設である小児総合医療センター、日本大学医学部附属板橋病院、慶應義塾大学病院で、当院で研修できなかった領域の研修や、更なる専門領域の研修を行います。乳幼児健診・予防接種などの小児保健・社会医学は、３年間を通じて研修します。診療体制としてチーム制を導入しており、日当直業務は月４～６回ありますが、翌日はオフとしています。また、互いにカバーし合うことで、duty free の週末を作れるようにサポートしています。一方、一般外来診療では、１年目の夏から、指導医のアドバイスを受けながら、ひとりで診療していただき、自立を促します。当院のモットーは「マグネットホスピタル」であり、内容・環境ともに「また研修したい」と皆様に思っていただけるようなプログラムを目指しております。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	一般小児科（独り外来開始）						一般小児科					
	1 年次は大塚病院で一般小児科を研修。7 月頃から独り外来診療を開始し、8 月頃から独り当直を始めることを目標に研修を行う。											
2 年次	一般小児科						新生児科			一般小児科		
	2 年次も、引き続き大塚病院で一般小児科を研修。途中 3 か月間、大塚病院の新生児科で新生児疾患を研修。											
3 年次	血液・悪性腫瘍、心臓、集中治療、小児救急など（小児総合医療センター等）									一般小児科		
	3 年次は、大塚病院では研修できなかった分野を、外部施設（小児総合医療センター、日大板橋小児科、慶大小児科より選択）で最長 9 か月間研修。											

○ 大塚病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新生児科　プログラム責任者：新生児科　増永　健　　プログラム研修期間：3 年

新生児専門医は健常新生児および病的新生児に対する診療を行い、助言を提供する新生児医療の専門医であり、その専門医にふさわしい知識と技能を修得することを本コースの目標とします。具体的には胎児・新生児の成長・発達の正常および異常な側面について生理学的・病理学的に高度な理解と知識を有すること、産科的・内科的・外科的妊娠合併症とそれらが母体・胎児・新生児に与える影響について十分な理解を有すること、合併症を有する新生児の診断と治療に対する最新の専門的知識と技能を有すること、ハイリスク新生児の長期予後に関する高度な知識と健康調査の技能を有すること、を目標とします。研修期間は原則 3 年間で、多施設での研修も行います。3 年間の研修で日本周産期新生児医学会・新生児専門医の受験資格が得られます。

● 墨東病院（基幹施設）
墨東病院施設群小児科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：小児科　大森　多恵　　プログラム研修期間：3 年
連携施設病院：神経 / 小児総合
聖路加国際病院 / 東京大学医学部附属病院 / 島しょ等

小児科一般領域全体に対応できる小児科専門医になることを目標とします。ほぼすべての領域にわたりもれなく経験できる体制となっています。1 年目は当院小児科のみで 1 年間研修します。2 年目は、当院新生児科（6 ヶ月間）、当院小児科にて研修が不十分な血液・腫瘍疾患（3 ヶ月）・小児麻酔（1 ヶ月間）を院外研修します。3 年目は当院小児科と、各自の希望に基づいた関連施設での研修となります。当院の研修はチーム医療での研修が主体となります。専攻医の下にはジュニアレデント、上には指導医として小児科専門医が配置され、1 チーム 3 ～ 4 名で構成されます。院内での各チーム編成と関連施設研修では同学年の研修医は 1 名とし、同チーム・同研修施設で重複する研修医がないように設定します。研修 1 年目から週に 1 回の外来診療（午後）・月 4 回の ER 当直業務を担当します。外来診療では自らが主治医となった患児の退院後の経過観察が主体となります。ER 当直業務では指導医の監督下に小児科医として欠くことのできない救急疾患の対応、急性疾患の管理・慢性疾患の初期対応を研修します。定期的に地域保健所にて乳幼児健診を指導医とともに行い、乳児健康診査・小児保健・社会医学を担当医として研修します。救急を含め症例数は豊富であり、概ね 2 年次までに小児科専門医取得に必要な症例は経験することが出来、学会発表・著者としての論文作成は終了します。そのため､3 年時の研修は半年間を各自の希望により比較的自由に計画することが可能です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	小児科			小児科			小児科			小児科		
2 年次	新生児科			新生児科			血液・腫瘍疾患（聖路加国際病院）			小児麻酔（小児総合医療センター）	小児科	
3 年次	小児科			小児科			連携施設					

1 年目は当院小児科のみの研修となります。

2 年目は当院新生児科（小児科とは独立しています、6 ヶ月間）、聖路加国際病院（血液・腫瘍疾患、3 ヶ月間）、小児総合医療センター（小児麻酔・1 ヶ月間）、当院小児科（2 ヶ月間）を行います。各研修の順番は他の研修医の研修内容と重複しないように時期を調整するため、順番が前後します。

3 年目は当院小児科（6 ヶ月間）、各自の希望に基づいた院外研修（6 ヶ月間、小児総合医療センターなど）となります。

○ 墨東病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新生児科　プログラム責任者：新生児科　大森　意索　　プログラム研修期間：3 年

本プログラムは、区東部医療圏の総合周産期センターである墨東病院にて新生児医療の研修を行うためのプログラムのうち、サブスペシャリティ研修として実施されるものです。当院は開設以来、区東部の周産期医療のうち新生児部門全体の役割をになっており、出生後の問題に対して治療をおこなっています。内容としては早産児への対応、新生児仮死への対応、先天異常児への対応、その他の出生後の異常に対して対応している。当院の特徴としては、特に超早産児に対する救命率、および長期予後が全国的にみて良好な結果を納めてきている点であり、24 週未満で出生した児や、500 g未満の児に対する治療に慣れている。また周産期新生児専門医（新生児）の取得も目指します。

● 小児総合医療センター（基幹施設）
小児総合医療センター施設群小児科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：総合診療科　幡谷　浩史　　プログラム研修期間：3 年
連携施設病院：広尾 / 大塚 / 多摩北 / 荏原 / 豊島
立川相互病院 / 松戸市立総合医療センター / 山梨大学連携病院

当院の小児科専攻医は総合診療科に所属します。専門診療科の集まる小児病院の中にあって、総合診療科は小児科医の基本・中核を専門とする科であり、病気を診るのではなく人を診る、かゆいところに手が届く医療を実践してい

ます。専門診療科との垣根の低さが当院の特徴の一つであり、一般小児科を超える範囲について、各専門診療科と協力して、より良い医療を提供しています。また、ER 患者（2021 年度 年間約 3 万人）および入院症例（平均 42 床）の診療を通じて、小児科の基礎を学び、抱いた疑問 clinical question から臨床研究に結びつけるよう、心がけています。そして、最も大切にしていることのひとつが若手医師の教育です。

3 年間のプログラムで① 1-3 次救急（ER スタッフの協力のもと重症患者・外傷の初期対応、内科 / 外科疾患の入院対応)、②総合診療科外来 (発達・成長障害、健診異常、不定愁訴など、主に急性疾患でない紹介患者さんが対象)、③予防医療 (予防接種、こどもの事故予防、児童虐待)、④若手医師の教育 (院外の初期、後期研修医の受け入れ)、⑤自主的な勉強会（外部講師招聘、初期研修医向け " わくわく STEP セミナー " 主催)、⑥国内外の学会発表、論文作成、⑦同期で一致団結でおこなう前向き臨床研究など、盛りだくさんのことを経験します。

専門医機構・小児科学会の指針の変更がある場合、適切にプログラムの改訂を行っていきます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	総合診療科							麻酔科	新生児科			救命救急科
2 年次	総合診療科			地域医療			専門科ローテーション					
3 年次	総合診療科			集中治療科		専門科ローテーション				総合診療科		

必修診療科：
総合診療科 16 か月(1 年は担当医、2-3 年は中級指導医)、麻酔科 1 か月(1 年 7 月～ 2 年前半)、新生児科 3 か月(1 年 7 月～ 2 年前半)、救命救急科 1 か月(1 年 7 月～ 2 年前半)、集中治療科 2 か月(2 年後半～ 3 年前半)、地域医療 3 か月(1 年後半～ 2 年前半)多摩北部医療センターおよび周辺開業医、松戸市立総合医療センター、山梨大学連携病院

専門診療科(選択)：10 か月(2-3 年)

○ 小児総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度 小児血液　プログラム責任者：血液・腫瘍科　湯坐　有希　　プログラム研修期間：3 年

小児血液学をサブスペシャリティーに希望する、小児科専門医を既取得、又は初年度取得予定の研修生を対象とします。血液専門医取得には 3 年間の研修期間に「赤血球領域 8 例、白血球領域 16 例、血栓止血領域 6 例、計 30 症例（造血細胞移植症例 1 例を含む)」の経験、2 件の学術発表を求められますが、2 年次までに十分経験できる症例数を当科は持っております。また臨床研究や橋渡し研究、症例発表を積極的に行うことで学術発表も達成可能と考えております。また、小児血液学においては小児がんと呼ばれる悪性腫瘍の治療が重要ですが、当センターは小児がん拠点病院であり、臨床試験にも積極的に参加しており十分な研修を積むことが可能です。また、血友病診療連携地域中核病院であり、血友病をはじめとした出血性疾患の診療も豊富に経験できます。

こどもの病院総合診療医　プログラム責任者：総合診療科　幡谷　浩史　　プログラム研修期間：3 年

小児科専攻医 3 年間を修了後、こどもの病院総合診療医になるために、以下の 4 項目が出ることを目標とした 3 年間のコースです。

①小児科の一般的な疾患に留まらず、希少疾患、先天疾患の病態の的確な理解の上に、専門科（専門施設）と的確なタイミングで相談・議論ができるようになる
②患者だけでなく、シニアレジデントやコメディカルに対して効果的なフィードバックをおこなう
③臨床研究を通して医療の質を正しく評価し、得られた知見を臨床に適応する
④さまざまな部門からなる医療チームの中心となり、病院機能全体を統合し、医療水準の向上を目指す専門性を身につける

目標を達成するために、総合診療科の研修とともに、院内各科や外部施設（計 6 か月未満）での研修も行います。

小児感染症　プログラム責任者：感染症科　堀越　裕歩　　プログラム研修期間：3 年

小児専門病院にて、幅広い分野での感染症診療が経験できます。コンサルテーションを通して、感染症に特化した

集中型研修を行えます。小児感染症学会の専門医の教育認定施設、環境感染症学会の教育施設でもあり、感染対策、抗微生物薬の適正使用プログラム、微生物検査などの病院の質管理も経験できます。将来、自立して小児感染症全般のマネージメントができるようになるのが目標です。研究では、計画立案から実施をして、成果は全国学会、国際学会や学術誌に和文、英文で発表します。教育も力をいれており、国内での小児感染症教育でリーダーシップを期待され、講師なども務めます。院内で経験の少ない分野は、院外研修で補完します。本プログラムでは、国内外で活躍する小児感染症分野の次世代リーダーを育成します。

小児アレルギー　プログラム責任者：アレルギー科　吉田　幸一　　プログラム研修期間：3 年

東京都アレルギー疾患医療拠点病院にて行う研修コースです。小児科専門医（および取得見込み）を対象とし、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどアレルギー疾患の重症例および多種合併例を多職種で連携して診療することを経験します。さらに、消化管アレルギー、食物依存性運動誘発アナフィラキシー、慢性蕁麻疹、薬剤アレルギー、ラテックスアレルギーなどの疾患の診療も学びます。後進に対して自らの知識・技術を伝え、充実した研究支援体制を活用し学会発表や論文の執筆活動なども積極的に行っていただきます。

また院外活動として、教育･保育施設のスタッフを対象としたアレルギー教室の講師を経験し、耳鼻咽喉科、皮膚科、成人のアレルギー診療を学びたい方は連携診療科・施設などで研修をおこなうこともできます。

小児循環器　プログラム責任者：循環器科　前田　潤　　プログラム研修期間：3 年

3 年間の勤務を通して、小児循環器学の専門的な知識・技術を学び、独力で診療を行う能力を身につけます。代表的な疾患から特殊な疾患まで、外来・入院患者の診療、検査の実施・解析、薬物やカテーテルによる治療などに携わります。患者・家族とのコミュニケーション、関連するスタッフとのチーム医療も円滑に行えるようにします。シニアレジデントの教育、学会発表や論文執筆などの研究にも積極的に関与します。研修終了後に日本小児循環器学会小児循環器専門医を取得することが第一の目標です。今までの経歴によっては、受験資格のために数年の研修の追加が必要になりますが、当院での研修によって主な要件を満たすようにします。

小児内分泌・代謝　プログラム責任者：内分泌・代謝科　今野　麻里絵　　プログラム研修期間：原則 3 年

小児科専門医取得後に 3 年間の予定で、1）疾患･病態の的確な理解、2）遺伝子解析および変異の機能評価の解釈、3）症例報告、臨床研究の実施、以上 3 点を具体的目標とします。

1 年目：①低身長の診断（成長ホルモン分泌不全性低身長、Turner 症候群など）のための精査、先天性副腎皮質過形成症の診断および治療などの、診療の基本的事項を学ぶ。②全国レベルの学会で症例報告を行う。③簡単な遺伝子解析をする。④医療制度、医療経済について理解する。⑤臨床研究の計画を立案する。

2-3 年目：①臨床研究を行い、学会発表、欧文誌への投稿を行う。②遺伝子変異の機能解析を理解する。③米国内分泌学会誌レベルの論文を批判的に読む。

小児腎臓病　プログラム責任者：腎臓・リウマチ膠原病科　濱田　陸　（幡谷　浩史）　プログラム研修期間：3 年

小児科専門医取得後に、腎疾患全般の病態の理解とそれに基づく診療が行えること、臨床研究を遂行する能力を習得することを目標とした 3 年間のコースです。

診療に関しては、当院が全国でも有数の臨床経験があることを活かし、一般的な管理に加え高度で専門的な診療技術の習得を目標とします。特に①乳幼児の慢性腎臓病から透析、腎移植までの管理、②難治性ネフローゼ症候群の免疫抑制薬治療、③成人科への移行期医療、④他科と連携した重症患者の管理（血液・腫瘍患者の腎合併症、神経免疫疾患に対する血漿交換療法、集中治療室で急性腎障害管理）に重点を置いております。

臨床研究は、当科が行っている種々の臨床研究（特定臨床研究や国際共同治験を含む）に携わり、新たな研究の立案、遂行から発表、論文作成までを目標にします。

小児神経内科　プログラム責任者：神経内科　三山　佐保子　　プログラム研修期間：3 年

1．小児神経疾患をもつ患者や、日常生活･社会生活において援助を必要とする患者とその家族に対し、思いやりを持っ

て真摯に接する態度を身につける。

2．日本小児神経学会専門医委員会が定める「小児神経専門医のための到達目標・研修項目」を達成する。

3．①急性期小児神経疾患　②集中治療室に入室する重症小児神経疾患　③他領域の小児内科疾患に合併する小児神経疾患

以上 3 領域は、当院において特に患者数が多く診療する機会が多い。上記疾患を経験し、適切な判断・治療方針の決定ができるようになる。

4. 指導のもと、小児神経疾患に関する臨床研究や学会･論文発表を行い、自ら研究テーマを探究する態度を身につける。

5. 日本専門医機構が認定するサブスペシャリティ領域の新専門医資格取得をめざす。

小児外科　プログラム責任者：外科　下島　直樹　　プログラム研修期間：2 年

当科は小児専門施設の中でも日本トップレベルの手術件数を誇っており、また気道外科をはじめとする高度先進医療を行う中核施設の役割を担っています。このような環境の中で、外科医としての基本姿勢、基本手技を学ぶとともに、小児外科における専門的診療内容を経験しながら外科的手技を含むトータルケアを修得します。 さらには臨床研究にも配慮し、今後の小児外科の発展を支えていく高い能力を持った小児外科専門医、さらには指導医を目指せる小児外科医の育成を目指しています。

小児整形外科　プログラム責任者：整形外科　太田　憲和　　プログラム研修期間：2 年

1．小児整形外科のコアになる疾患の対応を習得するため以下の内訳で合計 60 例以上を経験し、その治療、管理が行えるようになることを目標とします。

①上腕骨顆上骨折：10 名以上　②上腕骨外顆骨折：5 名以上　③前腕骨骨折：10 名以上　④下肢骨骨折：5 名以上　⑤発育性股関節形成不全：10 名以上　⑥筋性斜頸：5 名以上　⑦ O 脚、X 脚：5 名以上　⑧足部変形：5 名以上　⑨四肢の先天性疾患：5 名以上

2．学術的研究および発表

学会発表を年 2 回以上行う

2 年間で 1 計画以上、臨床研究を主体となって行う

（学会発表、臨床研究等のタイトルは、受け持った症例を参考に決定する）

小児脳神経外科　プログラム責任者：脳神経外科　井原　哲　　プログラム研修期間：2 年

【コース目標】

脳神経外科専門医取得（見込み）者を対象に、小児神経外科認定医に必要な知識・技能を習得する

【研修計画の概要】

研修を通じて小児脳神経外科医として独立して診療できる能力を養成する。

具体的には、小児脳神経外科領域の全疾患の診断・治療計画を立てられ、術前・術後の全身管理ができ、基本術式を実施でき、応用術式の助手を実施できることを目標とする。また、神経内視鏡手術を経験し、神経内視鏡技術認定医を取得する。小児医療で重要なチーム医療に精通し、研修医教育にも積極的に関わることが望ましい。

【研修目標】

基本術式の術者：50 件以上

応用術式の助手：50 件以上

学会発表　年間 6 件（全国学会 3，地方学会 2、国際学会 1）以上

論文発表　年間 1 本

小児麻酔　プログラム責任者：麻酔科　西部　伸一　　プログラム研修期間：2 年

当院は小児の総合医療センターであり産科麻酔以外のすべての領域の麻酔管理を経験できます。産科手術をはじめとした成人麻酔は、関連研修施設である慶應義塾大学病院および東京医師アカデミー病院群で研修を行います。日本麻酔科学会専門医のほか、小児麻酔学会認定医、心臓血管麻酔専門医、区域麻酔学会認定医資格を取得できるよう、

それぞれに必要な症例数および学術業績を獲得します。

（1）1 年次は当院において、小児麻酔の基礎を学んだのち、新生児麻酔、先天性心疾患の麻酔、気管手術の麻酔などを担当する。

（2）2 年次は希望に応じて、関連施設で集中治療、緩和医療、ペインクリニック、成人心臓麻酔、産科麻酔を研修する。日本麻酔科学会専門医資格を取得した後は、臨床指導医としての資質を磨く。

小児集中治療　プログラム責任者：集中治療科　齊藤　修　　プログラム研修期間：3 年

高度医療の実践には、こどもとその家族を中心とした高い倫理観と、在宅医療や中長期予後を見据えた深い人間性が問われます。本コースでは、こどもに ECMO、人工呼吸器等といった高度医療を提案する技量・知識獲得は当然として、あらためて中長期にわたる予後を加味した高い知見を培うと共に、在宅医療を必要とする医療的ケア児、障碍を負ったこども、その家族に生涯にわたってより良い医療提供とは何かを超急性期から問い続けられる能力を獲得するコースとします。換言すれば死の差し迫る超急性期にこそ問われる質の高いエビデンスをもった高度医療を実践する高い技術力、そして中長期にわたるこどもと家族を中心に据えた崇高な倫理観を滋養し、高い人間性を有した小児集中治療医を育むことを目的とします。

小児救急医学　プログラム責任者：救命救急科　萩原　佑亮　　プログラム研修期間：3 年

小児科医としての視点を持ちながら、救急医として救急医療を実践することで社会のセーフティネットとなる Pediatric Emergency Medicine を専門する医師を育成します。救急外来を受診する小児患者の緊急度および重症度の判定を行い、すべての児に対して救命のための処置を含む適切な初期診療ができるようになること（専門分野に細分化された医療ではなく、外科系を含む多くの専門分野をひとりでカバーする横断的医療）、救急外来という資源や時間が限られた環境において目の前の患者に加えて救急外来全体の安全を担保した診療マネジメントできるようになること（時間的・空間的マネジメント）を目指す研修です。また、救急医療は社会とのつながりが強い領域であるため、アウトリーチを実践できる知識と技能を習得します。

新生児科　プログラム責任者：新生児科　岡崎　薫　　プログラム研修期間：3 年

【研修の特色】

・実践豊富な優れた臨床医の育成を目的とした包括的なプログラムです。

・新生児科および小児専門である全診療科の優れたスタッフの指導の下、新生児医療を幅広く学ぶことができます。

・重症新生児の治療や新生児搬送を 1 人で対応できるようになります。

【研修計画】

研修期間は 3 年間。周産期専門医の取得。希望によりプログラムの 2 年目後半 6 か月間に、専門診療科や研究機関、在宅施設などでの研修が可。

【施設】NICU 24 床・GCU48 床、年間入院数約 700 名。新生児専用救急車による新生児搬送（年間約 200 件）。低体温療法、一酸化窒素吸入療法、低酸素療法、交換輸血、胸腔穿刺、気管支ファイバー、内視鏡、など。主な対象疾患は、極低出生体重児（年間約 90 名）、新生児仮死、循環器疾患、外科疾患、など。

臨床試験科　プログラム責任者：臨床研究支援センター　森川　和彦　　プログラム研修期間：3 年

臨床研究や治験、医薬品・医療機器の開発について習得します。臨床研究に関し、設計・遂行・解析・発表・論文まで独りで行うことができ、指導できる能力を身につけます。当科では患者を直接担当しないので、他の診療科も同時に研修することも可能です（該当科の責任者の了承が必要です）。自らの臨床研究に携わることで、より実践的に学習できます。治験の運用についても学び、院内の活性化に努めます。必要な知識を得るために院外の講義や研修も受けることができます。臨床研究コーディネーター（CRC）、データマネージャー（DM）、生物統計家や、患者・家族だけなく、関連する医師、看護師、コメディカルなどと良好な関係性を保つことが必須です。また、倫理指針や関連法規などに配慮した臨床研究の実施体制を整備し、関連委員会の運営に関与します。

小児科

臨床遺伝科　プログラム責任者：臨床遺伝科　吉橋　博史　　プログラム研修期間：3 年

外来診療（約 3000 件 / 年）、初診（約 400 件 / 年）、病棟依頼（約 300 件）の豊富な症例数を通じ、小児難病、がんゲノム医療、周産期遺伝医療、移行期医療を体系的に学びます。その人らしい自律的な意思決定を支援し臨床ゲノム医療を担う人材の育成を目指します。

＜研修計画の概要＞

1．先天異常症候群：形態異常診断学に基づく診断の知識とスキルの習得
2．遺伝学的検査：適応、解析原理、検出限界、結果解釈の説明
3．ゲノム医療：様々な専門診療科と連携したゲノム医療の実践
4．遺伝カウンセリング：認定遺伝カウンセラーと協働したクライエントの意思決定支援
5．先天異常症候群のトータルケア：胎児期から成人期までの様々な移行医療支援
6．遺伝医療の啓発と普及：教育・学術活動を通じた遺伝医療への貢献

● 多摩北部医療センター　（連携施設）

指導医責任者：小児科　小保内　俊雅
連携をしている基幹施設病院：小児総合

多摩北部医療センターは北多摩北部 5 市を保健医療圏とする基幹病院です。地域の中核病院として、小児二次救急医療や医療的ケアの必要な在宅重症児に対する診療、また登校困難や発達障害など幅広く入院を受け入れています。また、神経、腎泌尿器、内分泌代謝、アレルギー、呼吸器、発達、消化器等の専門外来を開設しており、専門性の高い診療も展開しています。このような診療を背景に、救急受患者数は年間 6,000 例を超えており、入院患者数も 1,200 例を超え豊富な臨床経験を積むことが可能です。研修内容は、初年次には小児診療の基本的疾患について学びます。救急外来で初期対応を、また病棟では入院症例の治療計画を自分で立案し、実際の診療を遂行する能力を養います。二年次は半年間小児総合医療センターにおいて、新生児医療、小児集中医療および小児麻酔を 5 か月間学ぶとともに、府中療育センターにおいて療育の実際についても 1 か月研修を行います。最終年では将来の専門を見据えてより高度な医療を小児総合医療センターで選択科を 6 か月間研修してもらいます。

当科の研修は自主性を重んじます。与えられたプログラムを遂行する型の研修ではなく、自ら問題点を見つけ解決へアプローチするスタイルです。我々指導医は解答を与えるのではなく、一緒に思考する伴走者的な立ち位置です。

こどもは地域で育まれ社会性を身に付けます。ですから、小児医療も地域との関わりが重要です。当院では地域密着型の小児医療研修を提供しています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	多摩北部医療センター　小児科											
	前半…主に入院症例を担当し小児科医としての基礎を学ぶ　/　後半…救急外来にも対応できる能力を養う。											
2 年次	多摩北部医療センター　小児科							（小児総）ＰＩＣＵ		ＮＩＣＵ		麻酔
	前半…一般病床におけるさらなる研鑽を行い、後輩の指導にあたる　/　後半…小児総合にて麻酔科 1 ヶ月、NICU・PICU 2 ヶ月ずつローテート											
3 年次	循環器	呼吸器	感染症	血液	アレルギー	皮膚	＊府中療育	多摩北部医療センター　小児科				
	前半…小児総合にて専門科 20 領域の中から希望の科を選択　/　後半…一般臨床におけるさらなる研鑽をおこない、チームリーダーとしての自覚をはぐくむ / ＊府中療育センターにて研修（1 ヶ月）											

○ 多摩北部医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

小児内分泌・糖尿病　プログラム責任者：内分泌・代謝内科　藤田　寛子　　プログラム研修期間：3 年

小児内分泌・糖尿病専門研修コースは、小児科専門医を取得または取得見込みの方が内分泌専門医（小児科）・糖尿病専門医（小児科）を目指してサブスペシャリティーとしての内分泌代謝疾患・糖尿病の研鑽を積む為のコースです。小児領域では成長や発達への影響を斟酌した診療が必要ですが、小児発症の内分泌代謝疾患や糖尿病は生涯にわたり

管理を要することが少なくありません。本コースでは専門医受験資格として必要とされる、学会認定教育施設での３年間の研修を小児総合医療センターと連携し、まず同院で１年６か月、その後多摩北部医療センター内分泌・代謝内科で１年６か月間行います。なお、内科研修中も小児科臨床のレベルを維持するために小児科の当直勤務は適宜行います。

● 荏原病院　（連携施設）

指導医責任者：小児科　高柳　隆章
連携をしている基幹施設病院：小児総合

小児科コースは、小児科専門医の取得を目標として、日本小児科学会専門医研修ガイドラインに準拠して研修を行います。基幹施設は、小児総合医療センターで、当院、及び大塚病院新生児科を連携施設とします。研修期間は、18ヶ月を小児総合医療センターで、12ヶ月を当院で、6ヶ月を大塚病院新生児科で研修します。小児科専門医の取得には、感冒などの common disease から症例報告するような稀な疾患まで、幅広い疾患領域を経験する必要があります。また、これからの小児科医には、疾患の診断、治療だけでなく、小児保健、育児支援、健康支援、予防医療など、子どもの健全な発育を総合的に支援できるようになることが求められています。これに対応するように、本コースでは、高度医療を行う専門施設と地域に密着した二次医療機関という複数の施設で研修することによって、general pediatrician から subspeciality まで、臨床から研究まで、幅広く対応できるカリキュラムになっています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	小児総合医療センター											
	1年時には高度医療施設で、総合診療、三次救急、ICU管理などを研修する。											
2年次	荏原病院											
	2年目から3年目の前半は、地域の二次医療機関として、common disease や小児保健を含めた general pediatirician としての研修を行う。											
3年次	大塚病院新生児科						小児総合医療センター					
	最終年度後半は、subspeciality として、研究テーマをもって研修する。											

（小児総合医療センター 精神科③集合写真）

（小児総合医療センター 小児科・精神科①壮行会）

（小児総合医療センター 小児科・精神科②壮行会）

精神科

採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎墨東病院
◎多摩総合医療センター
◎小児総合医療センター

〇広尾病院
〇大塚病院

◎松沢病院
◎荏原病院
◎豊島病院

〇駒込病院

研修プログラムの特徴

● 墨東病院（基幹施設）
東京都立墨東病院施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：神経科　新垣　浩　　プログラム研修期間：3 年

連携施設病院：小児総合 / 松沢
東京医科歯科大学病院 / 東京足立病院 / 成増厚生病院 / 国立精神・神経医療研究センター病院 /
精神保健福祉センター / 埼玉県立精神医療センター / 大宮厚生病院 / 国立国際医療研究センター国府台病院 /
初石病院

本研修プログラムは、基幹病院の墨東病院神経科での業務を中心とし上記の連携施設での研修を組み合わせることにより、広範で多彩な精神科臨床を経験できます。墨東病院での主な業務は以下の４つです。

⑴　急性期を中心とした一般的な精神医療

当科外来や近隣医療機関に通院中の患者、及び東京都・区東部の保健・福祉機関から紹介された患者に対して入院及び外来治療を行います。閉鎖病棟である特質上、興奮や希死念慮の強い重症および難治性の精神疾患にも対応しています。専攻医は指導医とペアで患者を受け持ち、bio-psycho-social に患者を捉える経験を積みます。

⑵　東京都「夜間休日精神科救急事業」による緊急措置入院患者の診療

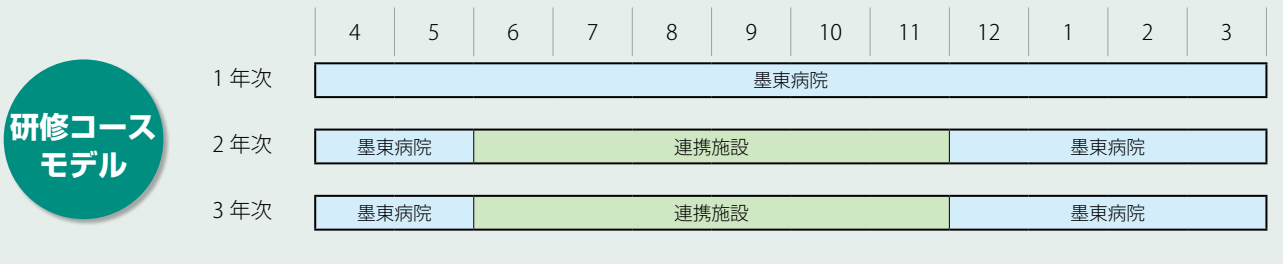
東京都が実施する「精神科夜間休日診療事業」として、いわゆる精神科 3 次救急（緊急措置診察および入院）を行っています。当科は第 1 ブロック（千代田、中央、港、文京、台東、墨田、江東、江戸川）を担当しています。

⑶　精神科リエゾン医療

救命救急センター、周産期医療センターを含む診療各科の依頼に応じ、入院患者の精神科的な問題に対して指導医とペアで対応します。多職種から構成される精神科リエゾンチームと協同してフォローアップします。

⑷　精神科身体合併症医療

院内身体科の治療中に生じた器質性精神疾患を、身体科と共同で患者の心身両面の治療を行います。また東京都の精神科身体合併症救急医療システムに則って、地域の精神科病院からの身体治療の依頼に対して転入院で対応します。



● 多摩総合医療センター（基幹施設）
東京都立多摩総合医療センター施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：精神神経科　岩田　健　　プログラム研修期間：3 年

連携施設病院：広尾 / 小児総合 / 松沢 / 荏原
東京都健康長寿医療センター / 青梅市立総合病院 / 高月病院 / 成増厚生病院 /
多摩総合精神保健福祉センター / 針生ケ丘病院 / 東京医科歯科大学病院
横浜みなと赤十字病院 / 恩田第二病院 / 茨城県立こころの医療センター

初年度は基幹病院である多摩総合医療センターでの研修になります。センターは東京都の精神科救急の基幹病院としてそして、精神科身体合併症事業においても中心的な役割を果しており豊富な急性期症例を経験することができま

す。多摩地域の中枢的な総合病院としての恵まれた医療資源を生かしての様々な治療（含む mECT、緩和医療、周産期精神医学）を学ぶことができます。専攻医は指導医からのマンツーマンの指導に加えて精神薬理や病理などの異なった専門性を持つ複数の上級医師たちから幅広い指導を受け、専門書の抄読会も行い、幅広い精神科医療の基本を体得できます。2 年目～ 3 年目は希望に応じてそれぞれに特色のある連携施設での研修もできます。東京都の精神科プログラムでは医師少数区域あるいは他県での研修をすることが求められておりますが、本プログラムは全ての研修を多摩地区で受けることも可能です。都心部に住居を構える専攻医でも通勤可能な範囲の連携施設で研修を組むことができます。本プログラムに於いては、基幹及び連携施設群の中で、急性期症例を中心に症例を豊富経験することができ、希望に応じて児童や高齢者、リハビリ、依存症など専門施設での研修を受けることができます。女性の専攻医も増えてきており性差なく働きやすいと思います。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	多摩総合医療センター精神科											
	急性期症例を数多く経験して、精神科医療の診断法、治療法の基礎を身につける。											
2 年次	小児総合医療センター						多摩総合精神保健福祉センター					
	前半、児童・思春期症例を経験する。後半　精神科リハビリテーションを経験する。											
3 年次	多摩総合医療センター精神科											
	1 年目、2 年目の経験をベースに、さらに経験を積むことで精神疾患の一般的な診断・治療ができるようにする。											

○　多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

精神保健指定医

プログラム責任者：精神神経科　岩田　健
プログラム研修期間：1 年（精神科専門医取得済みであることを前提とする）

精神保健指定医取得には 5 年以上の医師経験とそのうち 3 年以上の精神科の実務系経験が必要であり、本コースでは原則精神科専門医取得の要件を満たしている医師を対象に 1 年の実務経験と、申請時にレポート作成が求められている措置症例を含む必要症例の治療経験を得ることと、レポート作成の指導を受けられるようにします。

●　小児総合医療センター（基幹施設）
都立小児総合医療センター施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：児童・思春期精神科　長沢　崇　　プログラム研修期間：3 年
連携施設病院：多摩総合 / 松沢
多摩あおば病院

本施設群は 4 つの施設群から構成されます。1 年目は研修基幹施設で、2、3 年目は研修基幹施設および研修連携施設をローテートして研修します。研修基幹施設は東京都府中市にある小児総合医療センターで、主要な精神疾患の患者を受け持ち、面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本を学びます。更に、身体合併症、リエゾン・コンサルテーション、難治性精神疾患に対する生物学的治療、心理社会的療法など、臨床を幅広く経験します。また、研究・学会発表についても指導を受けることが出来ます。さらに松沢病院、多摩総合医療センター、多摩あおば病院と連携していて、精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、認知症医療、アルコール・薬物医療の他、デイケア、家族支援、地域支援など地域と密着した医療が経験できます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	基幹施設研修											
2 年次	連携施設研修　6 か月						基幹施設研修					
3 年次	基幹施設研修											

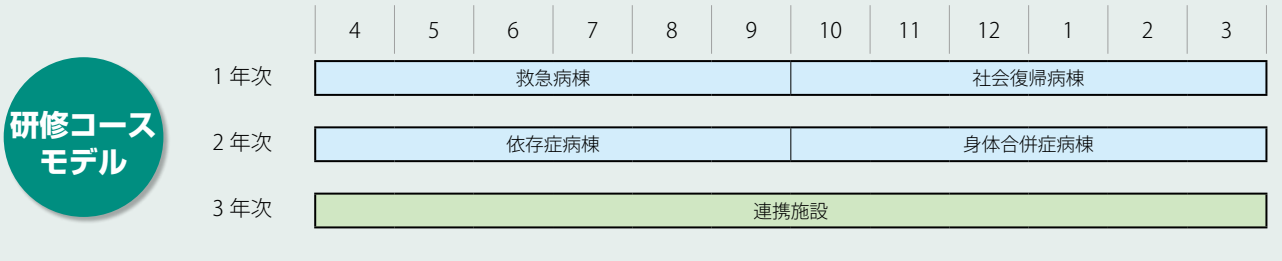
精神科

松沢病院（基幹施設）
都立松沢病院施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：精神科　正木　秀和　　プログラム研修期間：3 年

連携施設病院：広尾 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 小児総合 / 荏原 / 豊島
東京大学医学部附属病院 / 東京医科歯科大学病院 / 慶應義塾大学病院 / 昭和大学附属烏山病院 /
国立国際医療研究センター病院 / 東京都健康長寿医療センター / 中部総合精神保健福祉センター /
北海道大学病院 / 函館渡辺病院 / 埼玉医科大学病院 / 千葉県精神科医療センター / 聖マリアンナ医科大学病院 /
神奈川県立精神医療センター / 大阪精神医療センター / 岡山県精神科医療センター / 山口県立こころの医療センター /
済生会横浜市東部病院 / 埼玉県立精神医療センター / 東京医科大学病院

松沢病院（以下当院）が基幹施設である本プログラムは、東京医師アカデミーのシステムにより、東京医師アカデミーの各病院、大学病院、地域精神医療の基幹病院等と連携し、総合的に精神科医療を研修するプログラムです。当院は東京都の行政精神科医療等で中核的な役割を担っている精神科病院です。800 床の精神科病床を有し精神科医が約 40 名在籍しています。精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、思春期・青年期医療、認知症医療、アルコール・薬物医療、医療観察法病棟の他、デイケア、作業療法等を行っています。専攻医は精神科領域のほとんどの疾患を経験し、措置入院や医療観察法入院を含め、すべての入院形態の症例を経験し研修することができます。精神医学の基本的な知識・技術を習得し、精神科専門医の資格を取得するのと同時に、精神保健指定医資格取得、学会発表や論文作成の技術を獲得することを本プログラムの目標としています。また本プロフラムは、東京医師アカデミーの各病院、大学病院、地域精神医療の基幹病院など 26 の連携施設をもち、当院とは異なる特色をもつ施設での研修ができます。3 年間の研修期間のうち、2 年間を当院、1 年間を連携施設で研修します。当院での研修では、専攻医の希望を考慮しながら、救急病棟、急性期病棟、社会復帰病棟、思春期・青年期病棟、認知症病棟、アルコール・薬物病棟、身体合併症病棟等を約 6 か月ずつ研修します。



荏原病院（基幹施設）
東京都保健医療公社荏原病院施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：精神科　成島　健二　　プログラム研修期間：3 年

連携施設病院：多摩総合 / 小児総合
中部総合精神保健福祉センター / 医療法人社団　正慶会　栗田病院 / 横浜市立みなと赤十字病院 /
東京医科歯科大学病院 / 医療法人社団 柏水会　初石病院

本プログラムは研修基幹施設を含む 6 つの施設群からなります。基幹施設である荏原病院は、数少ない総合病院の中の有床精神科を持ち、院内にはデイケアも併設されています。開放病棟であるにも関わらず、重症例や身体合併症を得意とすることが特色ですが、通常の精神科診療も充実しています。専攻医は総合病院の豊富な医療資源を生かして最善の治療を行うプロセスを体験することができます。診療は、多職種とのチーム医療を基本とします。以下に連携施設の概略を紹介します。

日本で有数の小児専門の精神科を持つ小児総合医療センターでは、高度に専門化された児童・思春期の精神医療を恵まれた環境で研修することができます。また、多摩総合医療センターでは、精神科 3 次救急や、重篤な身体合併症医療の研修が可能となっています。医療法人社団正慶会栗田病院では、私立単科精神病院での特色ある研修や、精神科リ

ハビリテーションを経験できます。また、国内最大級の規模を誇る東京都立中部総合精神保健福祉センターでは、デイケアやアウトリーチなど、地域と深く結びついた幅広い形態の精神科医療を研修できます。さらに、横浜市立みなと赤十字病院では、東京都とは異なるシステムの精神科 3 次救急や、身体合併症の研修が可能となっています。

本プログラムにおいては、基幹施設での研修のみでも十分な精神医学的知識や実践的な治療技法を身につけることができますが、連携施設で研修を継続することによって、無理なく高レベルでユニークな精神科医となることが可能となっています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	荏原病院											
	原則的に基幹施設で研修、精神科医としての基礎をつくる。											
2 年次	多摩総合医療センター						栗田病院					
	基幹施設で培った能力をさらに発展させる。											
3 年次	中部総合精神保健センター						小児総合医療センター					
	専攻医の希望に応じた専門性の高い研修を継続する。											

● 豊島病院（基幹施設）
東京都保健医療公社豊島病院施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：精神科　尾﨑　茂　　プログラム研修期間：3 年

連携施設病院：小児総合 / 松沢
恩田第二病院 / 東京都健康長寿医療センター / 国立精神・神経医療研究センター病院 / 成増厚生病院 / 陽和病院 / 東京足立病院 / がん研有明病院 / 精神保健福祉センター / 東京医科歯科大学病院 / 小山富士見台病院 / 平川病院 / 大宮厚生病院 / 青梅成木台病院

本施設群は基幹施設および 15 の連携施設から構成されています。原則、２年間は基幹施設の当院、１年間は連携施設をローテートします。当院では、急性期精神疾患を中心に、統合失調症、気分障害、器質性精神疾患等の主要な精神疾患を経験し、指導医による指導の下、精神科的面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本を習得します。さらに、東京都夜間休日精神科救急での緊急措置診察、精神科身体合併症、コンサルテーション・リエゾン、ECT 等の身体療法 (クロザピン導入予定) など、精神科臨床の基礎と多職種によるチーム医療を経験します。テーマ別のクルズスや輪読会・抄読会を開催し、研究・学会発表等の指導も受けることができます。連携施設はそれぞれ特色があり、認知症を中心とする器質性精神疾患 (健康長寿医療センター、陽和)、発達障害・摂食障害等を中心とする児童・思春期精神疾患 (小児総合医療センター)、医療観察法病棟での司法精神医療 (松沢、国立精神・神経医療研究センター)、リエゾン･コンサルテーション及び精神腫瘍学 (がん研有明)、アルコール依存症を中心とする物質使用障害 (松沢、成増厚生)、慢性期精神疾患・地域精神医療・デイケア・アウトリーチ活動 (東京足立、恩田第二、小山富士見台、平川、大宮厚生、青梅成木台)、精神保健行政 (精神保健福祉センター)、大学病院 (東京医科歯科大学) の中から、関心と希望に基づいた外部研修を行い、幅広い領域の臨床経験を積み、精神保健指定医、精神科専門医の資格取得に必要な症例を学ぶことができます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	豊島病院											
	基幹施設での急性期を中心とする地域精神医療、精神科救急、精神科身体合併症、リエゾンなどの研修を行う。											
2 年次	小児総合医療センター			健康長寿医療センター			がん研有明病院			青梅成木台病院		
	選択した連携施設での研修により、児童思春期、認知症を中心とする器質性精神障害、司法精神医療、精神腫瘍学などの専門領域での研修を行う（例）。											
3 年次	豊島病院											
	基幹施設での研修を再開し、精神保健指定医・精神科専門医等の資格取得準備や学会等での研究発表に積極的に取り組む。											

整形外科

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎多摩総合医療センター

○広尾病院
○駒込病院
○墨東病院
○小児総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 多摩総合医療センター（基幹施設）
都立多摩総合医療センター施設群整形外科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：整形外科　苅田　達郎　　プログラム研修期間：4 年
連携施設病院：広尾 / 駒込 / 墨東 / 小児総合
東京大学医学部附属病院 / 自治医科大学附属病院 / 西島病院（静岡県）

東京 ER を有する 3 つの総合病院と、がん・腫瘍ならびに小児の 2 つの専門病院などの 3,300 床を超えるスケールメリットと豊富な症例を生かした研修を行います。専門性の高い診療を早くから経験することで、整形外科専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修へとキャリアを形成していくことができます。また、東京都外の地域医療の研修を通じて、社会的需要に対応できる総合診療能力を有する医師の育成を行います。本研修プログラムは、以下の 5 点の修得を目標としています。①高度・専門領域の豊富な症例と優秀な指導医による指導を通じて専門医資格を取得すること。②領域に偏らない総合診療能力を身につけること。③国内外派遣による先端医療技術の修得や臨床研究などを行うことで、整形外科学の専門性を追求し、整形外科の発展に寄与する姿勢を培うこと。④チーム医療の一員として自己研鑽し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くとともに、リーダーシップを身につけること。⑤ 高い倫理観の元に、整形外科医師として安全・安心で心のこもった医療を患者に提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献すること。専門医受験資格は、整形外科研修の 45 単位（1 か月 1 単位）の取得、教育研修講演 30 単位、1 回以上の論文発表と学会発表にて得られます。卒業後に義務年限を有する自治医科大学、防衛医科大学、産業医科大学の卒業生、地域枠卒業生と出産、育児、留学などで長期にプログラムを中断しなければならない相当の合理的な理由がある場合は、従来のカリキュラム制での研修ができます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	多摩総合医療センター											
	研修開始にあたり、すでに日本整形外科学会に入会をしている必要があります。開始病院は多摩総合とは限りません。											
2 年次	東大病院						腫瘍など（駒込病院）			地域必修（西島病院）		
	リサーチマインド型研修は必須で東京大学附属病院で行います。研修時期は 2 年次とは限りません。											
3 年次	広尾病院・墨東病院など（応相談）											
	1 ～ 4 年次のローテート研修病院と時期及び期間はプログラム委員会にて最終決定されます。											
4 年次	広尾病院・墨東病院など（応相談）									専門医試験	自由選択	
	45 単位取得後に専門医受験資格が得られます。											

○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
脊椎脊髄外科

プログラム責任者：整形外科　伊賀　徹（増田　和浩）　　プログラム研修期間：3 年

脊椎脊髄外科は主に変性疾患、外傷、骨転移を含む腫瘍、感染等を扱い、患者のニーズが高いです。診療においては、正確な診断、適切な手術適応判断、確実な手術手技が求められ、専門医の育成に当たっては多くの診療経験を提供する必要があります。当院での年間手術件数は 2020 年実績で 90 件であり、また、他施設と連携することによって多くの症例を経験することができます。

手外科　プログラム責任者：整形外科　伊賀　徹（辰巳　徹志）　プログラム研修期間：3 年

手外科は主に外傷、変性疾患、先天性疾患の３つの分野がありますが、この中で外傷、変性疾患は整形外科の日常診療で頻繁に扱うもので患者のニーズも高いです。しかし人間の手はその高い機能のためか構造が小さく複雑でその診療には多くの知識、高い技術、豊富な経験が必要です。また神経や血管を扱うマイクロサージャリーの技術も必要であり専門性が高いです。当院では外傷と絞扼性神経障害、関節リウマチなどの変性疾患の治療を多く行っており年間手術件数は３００件程度あり手外科の基礎を学ぶことができます。また当院では症例の少ないマイクロサージャリー、手関節鏡、先天性疾患については連携施設で研修を行うことができます。

リウマチ外科　プログラム責任者：整形外科・リウマチ外科　伊賀　徹（永瀬　雄一）　プログラム研修期間：3 年

整形外科リウマチ専門医は、基本領域である整形外科専門医に直結するサブスペシャリティで、関節リウマチの薬物治療に精通できます。また薬物治療を十分量行っても関節破壊をきたしてしまい生活に支障がある場合には、手術療法を行います。このように横断的かつ縦断的視点に立って治療できる整形外科医が近年減少傾向にあります。将来の患者需要に対応するためにも関節リウマチのサブスペシャリティを保持しておくことは必要です。当院には日本整形外科学会専門医のみならず、日本リウマチ学会の指導医もおり、関節リウマチに対する手術件数は年間 70-80 件で、DPC データベースでは全国６位です。リウマチ内科医とも密接に連携しており、3 年時には東京大学医学部附属病院、相模原病院、湯河原病院などのローテーションを選択できるよう考慮しています。

● 広尾病院　（連携施設）

指導医責任者：整形外科　川野　健一
連携をしている基幹施設病院：多摩総合

多摩総合医療センターを基幹施設とする整形外科専門研修プログラムの連携病院として専門医資格取得に向けての研修を行っています。当院は JR 山手線内の都心部に立地しており、ほぼすべての診療科がそろった総合病院です。東京都の救急システムの中心を担う東京 ER を有し、救急診療や島しょ医療にも力を入れています。整形外科は四肢体幹の機能を再建する診療科ですが、その基本は外傷の診療であり、外傷の診断、治療（保存療法・手術療法）を若い頃にしっかり身につけておくことが、より専門的な診療へ進むための足がかりとなります。当科は、ER や救命救急センターと協力し、３次救急までの高度な救急外傷を扱っているため、症例も豊富で外傷治療の研修には最適です。それのみならず、手外科・上肢機能再建外科、脊椎外科、関節外科などの専門医が在籍しており、大学病院レベルの専門性の高い診療を行っております。研修開始時は外傷症例が主となりますが、指導医の元で経験に応じてより専門的な手術も経験できます。当科でのカンファレンスや抄読会、また各種学会への参加により、進歩した新しい医学的知識を身に付けて、最終的に学会発表や学術論文を作成することを研修目標の一つとしています。

研修プログラムとしては、基幹施設である多摩総合医療センター（12 カ月）、比較的稀な腫瘍性疾患に対する駒込病院での研修（３ヶ月）、地域医療研修（３ヶ月）、東京大学（６ケ月）は指定された研修期間となりますが、その他の期間をどの施設で研修するかはある程度希望に沿うことができます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	多摩総合医療センター											
2 年次	東京大学						駒込（腫瘍）			地域		
3 年次	広尾病院											
4 年次	広尾病院						自由選択			広尾病院		

整形外科

● 駒込病院　（連携施設）

指導医責任者：整形外科・骨軟部腫瘍科　大隈　知威
連携をしている基幹施設病院：多摩総合

駒込病院は文京区の閑静な住宅街の中に佇む歴史ある病院です。古くは「駒込ピペット」で知られる感染症の研究所に始まり、現在では東京都のがん拠点病院として最先端の医療を行っています。特に他の病院で接する機会の少ない骨・軟部腫瘍は、国内有数の症例数を誇ります。また脊椎腫瘍に対して、脊椎骨全摘術などの世界トップクラスの手技を駆使して、積極的に取り組んでいます。主に脊椎疾患と人工関節を扱う整形外科と、骨・軟部腫瘍に特化した骨軟部腫瘍科とが独立して診療を行っており、定期的にキャンサーボードを開催して密に連携しています。学会発表や論文執筆の機会が多く、スタッフは教育熱心ですので、多大な経験が積めると確信します。得意な分野・手術は脊椎疾患、骨・軟部腫瘍、脊椎腫瘍、人工関節です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	駒込病院・整形外科						駒込病院・骨軟部腫瘍科					
	研修開始にあたり、すでに日本整形外科学会に入会をしている必要があります。開始病院は駒込病院とは限りません。											
2 年次	東大病院						地域必修（西島病院）			多摩総合		
	リサーチマインド型研修は必須で東京大学附属病院で行います。研修時期は２年次とは限りません。											
3 年次	多摩総合						広尾病院					
	１～４年次のローテート研修病院と時期及び期間はプログラム委員会にて最終決定されます。											
4 年次	墨東病院									専門医試験	自由選択	
	45 単位取得後に専門医受験資格が得られます。											

● 墨東病院　（連携施設）

指導医責任者：整形外科　山川　聖史
連携をしている基幹施設病院：多摩総合

本プログラムは、多摩総合医療センターを基幹施設とし、墨東病院、広尾病院、駒込病院および東大病院などの連携施設で研修して整形外科専門医取得を目標とします。墨東病院は、区東部医療圏の中心的急性期病院であるため、幅広い外傷診療にかかわることができ、整形外科の基本である外傷研修に適した環境にあります。主担当医として、入院から退院までの診断・治療を通じ、患者の全身状態、社会的背景を的確に把握し、患者ごとに適した医療を提供できることを目標とします。本研修期間には、基本的な外傷を中心にできるだけ数多くの術者を経験していただきます。また、日常診療の他に学術的な活動も重視し、地域の整形外科セミナー、整形外科関連の学会や学術講演会などに積極的に参加し、発表する機会をもちます。本プログラムに関係する基幹施設、連携施設においては、外傷のみならず、関節外科、脊椎外科、手の外科、末梢神経の外科、骨軟部腫瘍外科などほぼすべての領域で専門的かつ高度な医療を行っています。したがって整形外科専門医を取得の上、将来の希望のサブスペシャリティー領域に繋がる研修をすることも可能です。以上より、本プログラムにおいてはバランスのとれた研修を行うことができます。研修希望の方の応募をお待ちしています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	墨東病院											
2 年次	地域医療			駒込病院			東大病院					
3 年次	多摩総合医療センター											
4 年次	多摩総合医療センター						自由選択			墨東病院		

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎広尾病院
◎大塚病院
◎駒込病院
◎墨東病院

○神経病院
○小児総合医療センター

◎多摩総合医療センター
◎東部地域病院
◎荏原病院
◎豊島病院

○多摩南部地域病院
○大久保病院
○多摩北部医療センター

研修プログラムの特徴

● 広尾病院（基幹施設）
東京都立広尾病院施設群東京医師アカデミー麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　羽深　鎌一郎　　プログラム研修期間：4 年
連携施設病院：大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島
草加市立病院 / 春日部中央総合病院

救命救急センターを含む「東京 ER・広尾」を運営している、地域中核病院です。
全外科系診療科が揃っており、専門医取得に必要な経験症例はもちろん、外傷や熱傷手術の麻酔も多く経験出来ます。
病院の立地は非常に良く、よく働きよく遊ぶには最高の場所です！

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	広尾病院											
	定時手術の麻酔計画を立てられるようになることを目標とする。また、臨床研究のテーマを決めて、その計画を立てる。											
2 年次	広尾病院									小児総合医療センター		
	分離肺換気や開心術等の麻酔管理、緊急手術の麻酔計画を立てられるようになることを目標とする。また、連携施設において小児麻酔の研修を行う。											
3 年次	広尾病院						連携施設			広尾病院		
	計画から実施まで主体的に麻酔管理が出来るようになることを目標とする。また、連携施設での研修も可能である。											
4 年次	広尾病院			連携施設			広尾病院					
	専門医取得に向けて、学会発表等を目標とする。また、連携施設での研修も可能である。											

● 大塚病院（基幹施設）
東京都立大塚病院施設群東京医師アカデミー麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　新井　多佳子　　プログラム研修期間：4 年
連携施設病院：広尾 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島
慶應義塾大学病院 / さいたま市立病院

当プログラムは、麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく、麻酔科専門医の育成を目標とする研修プログラムです。専攻医はプログラムの履修により、日本麻酔科学会「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた、経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成し、専門医としての十分な知識、技能、態度を習得することができます。なお、研修期間終了後には、当院及び東京医師アカデミーの連携施設のスタッフとして、採用の可能性があります。当プログラムの専門研修基幹施設である大塚病院は、総合周産期センターを併設しています。そのため当院では、一般的な麻酔管理に加えて、産科麻酔や新生児・小児麻酔の経験が可能です。また、ペインクリニックや集中治療領域の研修も可能となっています。専門研修連携施設には、東京医師アカデミーの連携施設に加えて、さいたま市立病院、慶応義塾大学病院も加わっています。従って、当院に診療科のない心臓血管外科の麻酔管理のほか、小児麻酔についてもより専門的な知識と経験が得られるよう努めています。連携施設における研修は 3 か月を基本単位としていますが、研修内容の希望により柔軟な対応を心がけています。

麻酔科

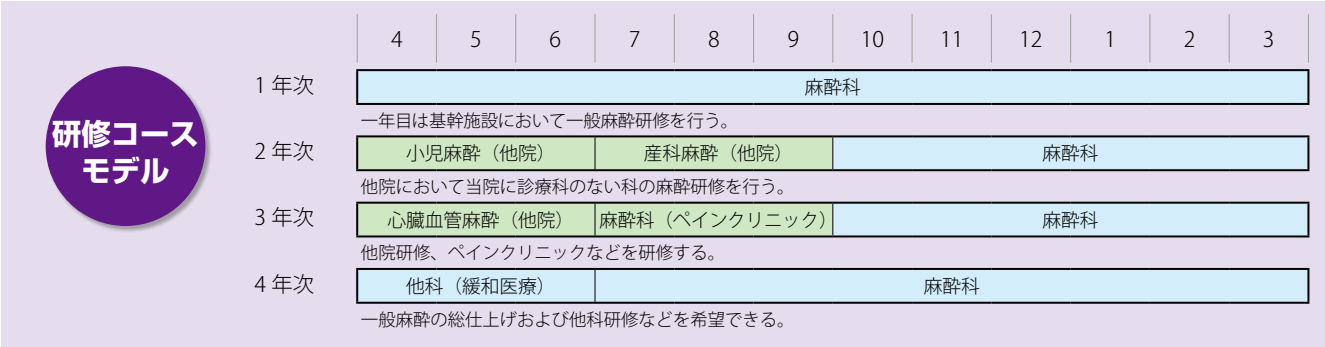
● 駒込病院（基幹施設）
東京都立駒込病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　部長　佐藤　洋　　プログラム研修期間：4年

連携施設病院：広尾 / 大塚 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島
順天堂大学医学部附属順天堂医院 / 越谷市立病院 / かわぐち心臓呼吸器病院

当院はがん専門病院であるため、基本的にはがん患者の手術における術前評価および術中術後周術期管理が研修の中心となります。外科系各科の高度専門手術や緊急手術に対して、安全な麻酔管理を提供できる能力を育成します。当院に診療科のない心臓血管外科、産科、小児外科などの麻酔管理は、専門研修連携施設での研修を加えて、より専門的な知識と経験を得られるようにしています。その上で麻酔科専門医取得を最優先に考えています。また、麻酔科の別側面であるペインクリニック研修や、他科研修（緩和ケア診療など）を行える環境を整えています。サブスペシャリティー研修など、可能な限り希望に沿った環境を整えたいと考えています。そのため、東京医師アカデミーの総病床数7,200床のスケールメリットを最大限に生かした病院間連携を行って研修を行います。当院では、通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・各種神経ブロックに加えて、以下の特殊麻酔を担当医として経験できます。

①胸部外科手術の麻酔：分離肺換気を要する呼吸器外科手術、食道外科手術など、
②脳神経外科手術の麻酔：覚醒下脳腫瘍摘出術など、
③整形外科手術の麻酔：脊椎手術、人工関節の麻酔など、
④泌尿器科手術の麻酔：ミニマム創内視鏡手術、ロボット支援手術（ダヴィンチ手術）など



● 墨東病院（基幹施設）
東京都立墨東病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　鈴木　健雄　　プログラム研修期間：4年

連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島
順天堂大学医学部附属順天堂医院 / かわぐち心臓呼吸器病院 / 越谷市立病院

責任基幹施設である墨東病院と関連研修施設において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアル

に記されています。基幹施設である墨東病院のみで専門医取得要件をほぼ満たすことができますが、より専門性の高い施設（小児総合医療センター、心臓呼吸器病院など）での研修を用意しています。東京医師アカデミーとは、14 病院が一体となって提供する後期臨床研修システムのことで、各病院の特色を生かし、臨床を重視した質の高い医師の育成を行います。14 病院の総病床数は 7,200 床であり、このスケールメリットを最大限に活用できるように病院間連携を行って研修を行います。本研修プログラムでは、連携施設での研修により、幅の広い一般診療だけでなく、救急診療、ペインクリニック、集中治療、緩和医療、地域医療を網羅する研修を特徴とし、研修終了後は都の地域医療の担い手として、採用選考の上、当院及び関連病院での就業が可能です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	墨東病院											
2 年次	小児総合医療センター			墨東病院			集中治療（墨東病院）			墨東病院		
3 年次	墨東病院			かわぐち心臓呼吸器病院			墨東病院			ペインクリニック（順天堂医院）		
4 年次	墨東病院			地域医療（越谷市立病院）			緩和ケア（駒込病院）			墨東病院		

● 多摩総合医療センター（基幹施設）
東京都立多摩総合医療センター施設群東京医師アカデミー麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　山本　博俊　　プログラム研修期間：4 年

連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 多摩南 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島
東京医科歯科大学病院 / 国立成育医療研究センター / 聖路加国際病院 / 静岡県立こども病院 /
東京ベイ・浦安市川医療センター / 埼玉医科大学病院 / 埼玉医科大学国際医療センター /
埼玉医科大学総合医療センター / TMG あさか医療センター

本研修プログラムは「東京医師アカデミー」の麻酔科コースの一部門です。東京医師アカデミーとは、14 病院が一体となって提供する後期臨床研修システムのことで、各病院の特色を生かし、臨床を重視した質の高い医師の育成を行います。14 病院の総病床数は 7,200 床であり、このスケールメリットを最大限に活用できるように病院間連携を行って研修を行います。専門研修基幹施設である多摩総合医療センター、専門研修連携施設 A の東京医科歯科大学病院、小児総合医療センター、国立成育医療研究センター、および専門研修連携施設 B の駒込病院、広尾病院、大塚病院、墨東病院、神経病院、荏原病院、豊島病院、東部地域病院、多摩北部医療センター、多摩南部地域病院、聖路加国際病院、静岡県立こども病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、埼玉医科大学病院、埼玉医科大学国際医療センター、埼玉医科大学総合医療センター、TMG あさか医療センターにおいて、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	多摩総合医療センター											
	多摩総合医療センターで全外科領域の麻酔研修を行う（一般麻酔研修、心臓麻酔研修、産科麻酔研修）											
2 年次	多摩総合医療センター						小児総合医療センター			多摩総合医療センター		
	小児麻酔研修を小児総合医療センターで行う。機構認定研修プログラムの定める経験症例数を 2 年間で達成する。											
3 年次	連携施設											
	原則 3 年目以降サブスペシャリティーを踏まえて、他部門（神経麻酔、ペインクリニック、緩和医療、救命救急、集中治療など）の研修を行う。											
4 年次	多摩総合医療センター			連携施設						多摩総合医療センター		
	地域医療の維持のため、多摩北部医療センター、多摩南部地域病院等でも研修を行う。通常の症例は一人で管理し、必要に応じて指導医にコンサルトする。											

麻酔科

● 東部地域病院（基幹施設）
東京都保健医療公社東部地域病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　浦里　裕子　　プログラム研修期間：4 年

連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島
順天堂大学医学部附属順天堂医院 / かわぐち心臓呼吸器病院 / 越谷市立病院

責任基幹施設である東部地域病院、関連研修施設の墨東病院、小児総合医療センター、駒込病院、広尾病院、大塚病院、多摩総合医療センター、神経病院、荏原病院、豊島病院、多摩北部医療センター、順天堂大学附属順天堂医院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。本研修プログラムでは、連携施設での研修により、幅の広い一般診療だけでなく、救急診療、ペインクリニック、集中治療、緩和医療、地域医療を網羅する研修を特徴としています。研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が、経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	東部地域病院											
	ペインクリニック含め、緩和ケアなどを研修する。											
2 年次	かわぐち心臓呼吸器病院			東部地域病院								
	心臓胸部外科の麻酔科研修を行い、後半は外科全般の麻酔科研修を行う。											
3 年次	小児総合医療センター			東部地域病院								
	小児科含め機構認定研修プログラムの定める経験症例数を 2 年間で達成する。											
4 年次	東部地域病院											
	麻酔科専門医として麻酔全般を一人で管理し、初期研修医にも説明指導ができるようになる。また他科とのコミュニケーションが円満にできるように研修をする。											

● 荏原病院（基幹施設）
東京都保健医療公社荏原病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　加藤　隆文　　プログラム研修期間：4 年

連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 大久保 / 多摩北 / 豊島
かわぐち心臓呼吸器病院 / 昭和大学病院 / 昭和大学藤が丘病院 / 昭和大学横浜市北部病院 / 昭和大学江東豊洲病院 / 静岡済生会総合病院

本プログラムでは、東京都区南部二次医療圏の中核的な急性期病院である当院を基幹施設として、小児総合医療センター、墨東病院、駒込病院、広尾病院、大塚病院、多摩総合医療センター、神経病院、豊島病院、東部地域病院、昭和大学病院、昭和大学藤が丘病院、昭和大学横浜市北部病院、昭和大学江東豊洲病院、かわぐち心臓呼吸器病院、静岡済生会総合病院と連携し、麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供します。また、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。

当院の特徴としては総合脳卒中センターがあり、地域の急性期の脳血管疾患医療の中核となっています。脳神経外科の他、ほぼ全ての診療科に対応しており、偏りのない麻酔管理が経験できます。緊急手術も多く、救急診療における麻酔管理を学べます。当院に診療科のない心臓外科、小児外科などの麻酔管理は上記関連施設で研修を行い、より専門的な知識と経験を得られるようにしています。

麻酔科外来であるペインクリニックは毎日行っており年間延べ 22,000 件を超える診療を行っており充実した研修ができます。緩和ケアチームの研修も行えます。常勤 9 名（研修指導医 5 名）、後期研修医 2 名のスタッフによりきめ細かい充実した研修が得られます。是非一度見学に来てください。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	一般麻酔研修（前半は合併症のない患者、後半は高齢者・小児等）											
	荏原病院にて研修を行う。全身麻酔症例 400 例以上、その他の麻酔症例を含めて計 500 例以上の麻酔管理を経験することを目標とする。											
2 年次	一般麻酔研修（脳外科・胸外科）						新生児・小児麻酔（他院研修）					
	前半は荏原病院にて研修を行う。後半は他院で小児麻酔の研修を行う、2 年次終了時に麻酔科標榜医、麻酔科認定医を取得。											
3 年次	ER、特殊麻酔						心臓血管手術麻酔（他院研修）					
	前半は荏原病院または他院で救急救命領域、重症患者における麻酔管理を行う。後半は他院で心臓外科領域の研修を行う。地方での研修も行う可能性有。											
4 年次	ペインクリニック研修			ICU			緩和医療			総合研修		
	ペインクリニック外来において癌性疼痛患者の緩和ケア等の研修を行う。											

● 豊島病院（基幹施設）
東京都保健医療公社豊島病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　吉岡　斉　　プログラム研修期間：4 年

連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 大久保 / 多摩北 / 荏原
順天堂大学医学部附属順天堂医院 / 東京女子医科大学病院 / 日本大学医学部附属板橋病院 / 越谷市立病院

1 年次は当院で手術麻酔の基礎を学びます。麻酔、術後疼痛管理の基本知識、技術を身につけ、2 年次以降の他の施設での研修に出る準備をします。1 年次の目標は、様々な麻酔方法があることを経験し、実践できるようになること、苦手を作らないことです。周産期麻酔（無痛分娩管理を含む）、ペインクリニック、緩和医療は当院で数多く経験でき、小児麻酔も幼児・学童が多いですが、基本的な麻酔技術を習得できます。2,3 年次は小児麻酔、心臓血管麻酔、ER などの研修を目標に東京医師アカデミーの連携施設、大学病院でも研修を受けます。大学病院での研修は、順天堂大学医学部附属順天堂医院、東京女子医科大学病院、日本大学医学部附属板橋病院の 3 か所から選択して行くことができ、それぞれで研修をおこなった実績があります。当院は、麻酔科専門研修プログラム（後期研修プログラム）を開始して以来、多くの専攻医（後期研修医）を受け入れており、現在も 3 名が研修中です。研修修了後は当院や東京医師アカデミーの連携施設に優先的に就職することができ、常勤医として活躍している医師が多いです。専攻医 1 人に対しての専門医数が多く、充実した指導医環境の中で研修することができ、スタッフの出身大学も様々で、いわゆる学閥がないのが大きな特徴です。なお、当院は日本専門医機構の麻酔科専門研修プログラムに登録されており、当プログラム研修を受けることで専門医受験資格が得られます。（2020 年のプログラム認定番号は 61500899）。4 年間を通じて週 1 日の研修日があり、越谷市立病院等で指導を受けられます。一度ぜひ見学に来て下さい。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	豊島病院											
	1 年次は豊島病院で麻酔の基礎を学び、翌年以降の他施設での研修に備えます											
2 年次	小児麻酔研修（小児総合医療センター）			ER（広尾病院）			豊島病院					
	ER 研修は墨東、広尾、多摩総合のいずれかで実施											
3 年次	心臓麻酔、集中治療研修（東京女子医科大学病院）						豊島病院					
	順天堂大学附属順天堂医院や日大板橋病院（心臓麻酔、集中治療、ペインクリニック）での研修パターンも有											
4 年次	地域医療研修（越谷市立病院等）、緩和ケア研修（豊島病院）											
	駒込病院（肺外科麻酔研修）での研修パターンも有											

皮膚科

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎墨東病院

○広尾病院
○大塚病院
○駒込病院
○多摩総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 墨東病院（基幹施設）
東京都立墨東病院施設群皮膚科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：皮膚科　沢田　泰之　　プログラム研修期間：5 年
連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 多摩総合
防衛医科大学校病院

本プログラムは大学医局への入局にこだわらず、墨東病院皮膚科を研修基幹施設とし、研修連携施設・研修準連携施設を加えた研修施設群を統括する研修プログラムです。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定しています。

【研修方法】

人口 140 万人を有する都区東部医療圏最大の総合病院です。高度救命救急センター、総合周産期センター、感染症病棟などを持ち、様々な疾患において地域医療の中心的役割を果たしています。皮膚科においても、天疱瘡・膠原病などの難治難病、重症感染症・壊疽などの救急や皮膚・皮下腫瘍、皮膚悪性腫瘍などの皮膚外科、下肢静脈瘤・下腿潰瘍などの皮膚の循環障害の診断と治療、他施設では例を見ない超音波検査、CT、MRI などの画像を使用した診断など地域においてなくてはならない役割を果たしています。

専攻医は年間 200 名程度の入院患者を 3 名 1 組のグループで診療し、数多くの希少な疾患を経験することができます。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 1 回以上筆頭演者として学会発表を行い、論文を作成します。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加します。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	墨東病院											
	（基本 A コース）研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。											
2 年次	墨東病院											
	臨床のみではなく，学会発表，論文作成など臨床研究の基礎を基幹病院で研修した後に，連携病院で臨床を行う。											
3 年次	連携施設											
	連携施設は原則として 1 年ごとで異動するが，諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。											
4 年次	連携施設											
	連携施設は原則として 1 年ごとで異動するが，諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。											
5 年次	墨東病院											
	最終年次には，診療チームのサブリーダーとし，難度の高い疾患の治療計画手術計画を立てるとともに，後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。											

● 広尾病院　（連携施設）

指導医責任者：皮膚科　岩澤　うつぎ
連携をしている基幹施設病院：墨東

当プログラムは皮膚科専門医を取得することを目的としたもので、基幹病院は墨東病院皮膚科です。当院は連携施設にあたります。研修期間は基幹病院が 3 年、連携施設が 2 年の合計 5 年間です。皮膚科で診察する疾患は非常に種類が多く、診察する範囲も頭の先の髪の毛から足の先の爪まで多種多様です。各連携施設の中でも病院によって得意分

野が違ってきます。墨東病院皮膚科は皮膚科の救急疾患を多く扱っており、当科は皮膚外科という皮膚の手術を積極的に行っています。皮膚科の手術は診断をつけて、検査をし、手術の計画をたて、実行し、切除した検体の病理組織を確認するということを１人でできるようにトレーニングしていきます。外来診療も研修開始から半年を目安にひとり立ちできるようにします。 初めの半年で皮膚科の基礎的な部分を研修し、その後に実臨床で研修します。平行して手術、皮膚病理の研修も行います。１年目の研修終了までに皮膚生検、粉瘤や母斑など皮膚良性腫瘍の単純切除術を習得できるようにします。２年目では希望あれば検査科の病理部をローテーションすることもできます。手術の研修では全層植皮、小皮弁が習得できれば理想的です。日本皮膚科学会認定専門医の受験資格はでは手術の経験も必要になります。当科で経験できない疾患は、基幹病院である墨東病院や、大塚病院などの他の連携病院でも研修できます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	皮膚科（広尾病院）									病理科（広尾病院）		
2年次	皮膚科（広尾病院）											
3年次	皮膚科（墨東病院）											
4年次	皮膚科（墨東病院）											
5年次	皮膚科（墨東病院）											

● 大塚病院　（連携施設）

指導医責任者：皮膚科　井上　梨紗子
連携をしている基幹施設病院：墨東

大塚病院皮膚科は地域の中核病院として紹介される患者さんを診療し、院内コンサルテーションに対応することで、感染症からアレルギー性疾患、腫瘍や膠原病といった幅広い疾患を経験することができます。特に当院は、総合周産期母子医療・小児医療・リウマチ膠原病疾患の拠点を特徴に掲げており、当該対応症例が多い特徴があります。また、多汗症、フットケア、アレルギー関連疾患、乾癬の診療に力を入れています。毎日の外来・病棟診療のほか、毎週皮膚病理カンファランス･症例検討会を行っています。主に外来日帰り手術を定時で行っています。院内で行われる各科･各種勉強会が多数あり、皮膚科以外の連携する診療に役立つプログラムに恵まれています。日々の症例の中で、学会発表や論文作成を行っていきます。大塚病院皮膚科の目標は「医師自らが楽しめる皮膚科」です。変遷する皮膚症状を観察し、患者さんがより良い皮膚状態になってもらうにはどうしたらよいか、自ら考え、過去報告を参照し、他医師やスタッフの意見も聞き、実践してみる。その過程で皮膚に対する理解が深まる体験、うまく治療が進み患者さんが喜ぶ体験、仕事に皮膚科を選んで良かったと思う体験をぜひして頂きたいです。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	皮膚科											
	皮膚疾患の所見の取り方、記載、真菌検査、皮膚生検、皮膚貼付試験、軟膏処置、創傷処置、光線療法、小手術などを実践しながら学ぶ。											
2年次	皮膚科											
	必要時に上級医に助言を求めるが、主体的に皮膚科診療が行えるようになることを目標とする。											
3年次	ER研修（墨東病院）			皮膚科（墨東病院）								
	指導医数が多く、幅広い疾患を経験できる。特に手術症例を多く学ぶ。											
4年次	皮膚科											
	主体的に皮膚科診療を行う。自分の得意分野を見出し、同分野の診療レベルを向上させることを目標とする。											
5年次	皮膚科（大塚病院　他連携施設病院）											
	主体的に皮膚科診療を行う。自分の不足分野を補うべく、他施設での研修も考慮する。											

皮膚科

駒込病院　（連携施設）

指導医責任者：皮膚腫瘍科　吉野　公二
連携をしている基幹施設病院：墨東

指導医の下、都道府県がん連携拠点病院の勤務医として、皮膚悪性腫瘍患者の手術療法、化学療法、放射線療法ならびに緩和医療を中心に習得します。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行います。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加します。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	皮膚腫瘍科											
	皮膚腫瘍、外科手技の習得											
2 年次	皮膚科（墨東病院）											
	一般皮膚科の習得											
3 年次	皮膚腫瘍科											
	皮膚腫瘍、外科手技の習得											
4 年次	皮膚科（墨東病院）											
	一般皮膚科の習得											
5 年次	皮膚科（墨東病院）											
	一般皮膚科の習得											

多摩総合医療センター　（連携施設）

指導医責任者：皮膚科　加藤　峰幸
連携をしている基幹施設病院：墨東

当施設は普通病棟以外に ER、結核病棟、精神病棟など 700 床以上の病床があり、隣接する神経病院や地域の医療機関から多数の症例が紹介されます。当施設の特徴は、担当する医療圏が広いため、疾患のバランスがとれていることです。薬疹や蕁麻疹などのアレルギー性疾患、水疱症、膠原病、リンパ腫、良性・悪性皮膚腫瘍など、幅広い疾患を経験することができます。基幹施設である墨東病院や杏林大学病院で計 1 年間以上の研修を行い、広範囲の植皮術などを経験することができます。

また、新専門医制度に変わり、皮膚科専門医取得のために必要な単位も増えています（日本皮膚科学会ホームページ参照　https://www.dermatol.or.jp/）。皮膚科領域では専門医取得に最低 3 本の論文発表が必要です。当科では年 1 ～ 2 回の学会発表、論文投稿や研究会の参加を勧め、単位取得をサポートしていきます。

皮膚科の研修期間は 5 年間で、基本領域学会の中でも短い期間ではありません。皮膚科医は女性が多く、5 年間の研修中には様々なライフイベントが予想されますが、相談しながらキャリアの継続をサポートしていきます。是非一度見学にいらしてください。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	皮膚科（多摩総合医療センター）											
	皮膚所見の記載や基本的手技（真菌鏡検、パッチテスト、プリックテスト、光線治療、皮膚小手術など）を身につける。											
2 年次	皮膚科（多摩総合医療センター）											
	必要時に上級医に指示を受けるが、一人で外来診療ができる。希望があれば基幹施設病院で研修を受けることができる。											
3 年次	皮膚科（墨東病院）											
	1 年間基幹施設病院で研修を受ける。特に手術症例を学ぶ。											
4 年次	皮膚科（墨東病院）											
	診察・検査・治療を一人で計画することができる。皮膚病理診断ができる。											
5 年次	皮膚科（墨東病院）											
	得意分野の専門性を向上させる。											

（墨東病院 手術風景）

耳鼻咽喉科

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎多摩総合医療センター

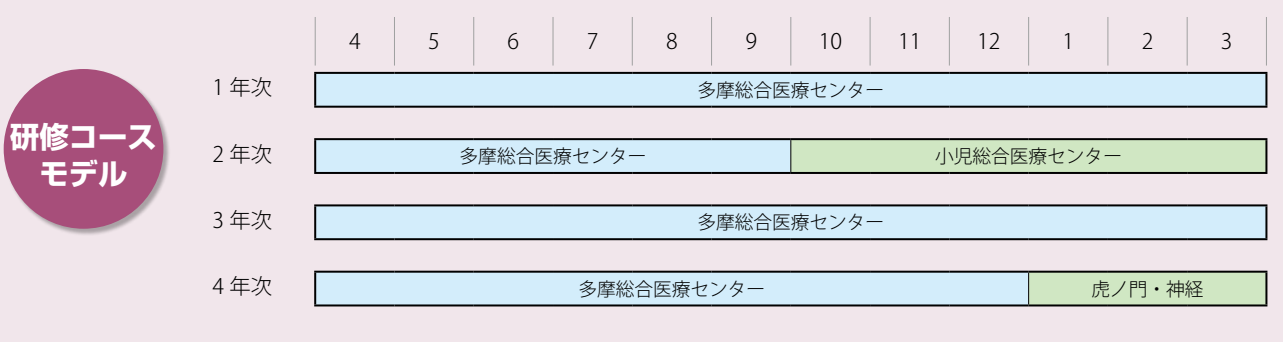
○駒込病院
○神経病院
○小児総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 多摩総合医療センター（基幹施設）
多摩総合医療センター耳鼻咽喉科専門研修プログラム

プログラム責任者：耳鼻咽喉科　中屋　宗雄　　プログラム研修期間：4 年
連携施設病院：駒込 / 神経 / 小児総合
虎の門病院 / NTT 東日本関東病院

耳鼻咽喉科医師としての人格の涵養に努め、耳、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭・喉頭、頭頸部腫瘍の全ての診療分野において、幅広い知識と臨床能力を習得し、「国民に安全で安心な標準的医療を提供できる」耳鼻咽喉科専門医を育成することを目的とします。また、診療技能のみならず、学会発表や論文作成を通じ、科学者としての能力を取得することも目標とします。基幹研修施設である多摩総合医療センターを中心に、多摩総合医療センターに隣接する小児総合医療センター・神経病院と虎の門病院において、それぞれの特徴を生かした耳鼻咽喉科専門研修を行い、日耳鼻研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験します。4 年間の研修修了時にはすべての領域の研修到達目標を達成し、4 年間の研修中、認定されている学会において学会発表を少なくとも 3 回以上行います。また、筆頭著者として学術雑誌に 1 編以上の論文執筆・公表を行います。



○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

内分泌外科 / 頭頸部がん　プログラム責任者：耳鼻咽喉科・頭頸部外科　中屋　宗雄　　プログラム研修期間：4 年

本コースでは内分泌外科学の専門的な知識と技能を高め、内分泌外科疾患の高度かつ専門的な知識と診療技能を有する者を養成することを目的とし、甲状腺腫瘍・副甲状腺腫瘍に対する高度の手術技能をもった内分泌外科専門医の取得が可能です。加えて、耳鼻咽喉科・頭頸部外科に関する熟練した技能と高度の専門知識とともに、がん治療の共通基盤となる基本的知識と技術、医療倫理を併せ持ち、頭頸部がんの集学的治療を実践する能力を養成し、頭頸部がん専門医の取得が可能なコースです。当院での内分泌外科専門医 2 名・内分泌外科指導医 1 名・頭頸部がん専門医 4 名・頭頸部がん指導医 1 名により内分泌外科学会および頭頸部外科学会の研修ガイドラインに則り十分な診療経験を得るに必要な数の症例を経験することができます。

駒込病院　（連携施設）

指導医責任者：耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍外科　杉本　太郎
連携をしている基幹施設病院：多摩総合

当プログラムは、多摩総合医療センターを基幹研修施設とした「多摩総合医療センター耳鼻咽喉科専門研修プログラム」に属し、連携施設である駒込病院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍外科を中心に研修を行うコースです。日本耳鼻咽喉科学会が定めた研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験し、耳鼻咽喉科専門医取得を目標とします。プログラムに定められた研修の評価は施設ごとに指導管理責任者、指導医、および専攻医が行い、プログラム責任者が最終評価を行います。4 年間の研修修了時にはすべての領域の研修到達目標を達成し、4 年間の研修中、認定されている学会において学会発表を少なくとも 3 回以上行います。また、筆頭著者として学術雑誌に 1 編以上の論文執筆・公表を行います。研修の評価や経験症例は日耳鼻が定めた方法でオンライン登録します。駒込病院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍外科の特徴としては、頭頸部癌に対する低侵襲な手術（経口的切除術、CO2 レーザ手術）から拡大切除 + 再建手術、IMRT を利用した化学放射線療法、分子標的薬治療、免疫チェックポイント阻害薬治療、緩和医療まで幅広い頭頸部癌診療を施行している事が挙げられます。拠点病院として多数の症例が集中し、特に食道癌と頭頸部癌の合併症例、甲状腺癌症例が多いです。また、耳鼻咽喉科領域感染症、鼻副鼻腔、咽喉頭領域の良性疾患の保存的治療や手術加療等も積極的に行っています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	駒込病院											
2 年次	駒込病院											
3 年次	多摩総合医療センター						駒込病院／多摩総合医療センター					
4 年次	駒込病院											

（医師アカデミー シニアレジデント合同発表会風景）

（多摩総合医療センター 合同発表会風景）

泌尿器科

採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎駒込病院

〇大塚病院
〇墨東病院
〇多摩総合医療センター
〇小児総合医療センター
〇多摩南部地域病院
〇多摩北部医療センター
〇豊島病院

研修プログラムの特徴

● 駒込病院（基幹施設）
がん・感染症センター都立駒込病院泌尿器科東京医師アカデミー専門研修施設群専門研修プログラム

プログラム責任者：腎泌尿器外科　古賀　文隆　　プログラム研修期間：4 年
連携施設病院：大塚 / 墨東 / 多摩総合 / 小児総合 / 多摩南 / 多摩北 / 豊島
国立がん研究センター東病院 / がん研有明病院 / 青梅市立総合病院 / 東京北医療センター / 細部医院 / 島しょ等

地域中核病院であると同時に本プログラムの基幹施設である駒込病院は都道府県がん診療連携拠点病院に、多摩総合医療センターと墨東病院はがん診療連携拠点病院および救命救急センターに、小児総合医療センターはがん診療連携拠点病院に指定されています。また、サブスペシャリティー領域として各種低侵襲手術（腹腔鏡・腹腔鏡下小切開 [ロボサージャン手術]・ロボット支援手術）、結石治療、小児泌尿器科、透析の専門的研修を提供しています。本専門研修プログラムの施設群では、腹腔鏡手術や腹腔鏡下小切開手術を含めた年間 1,800 ～ 2,200 例の泌尿器科腫瘍・尿路結石・前立腺・小児泌尿器科疾患などの幅広い領域にわたる一般的もしくは専門的泌尿器科手術を行っているほか、救急疾患をはじめとする幅広い泌尿器科疾患の研修に対応しています。このように、診療に関しては、地域医療と専門医療の両面へ配慮する事で、バランスのよい優れた泌尿器科専門医を育成する事を特色としています。一方で、先導的立場に立つ泌尿器科専門医としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養の育成を目的に、症例報告のみならず臨床研究にも積極的に参画し、国内外での学会発表や論文報告を行っていきます。さらに興味のある専攻医は、文部科学省科学研究費を取得しての研究を行うことができる体制（駒込病院および多摩総合医療センター）も整っています。

また、総合診療能力の向上を図るための研修として多摩総合医療センターや墨東病院におけるＥＲ研修や島しょ等の都内へき地医療機関における地域医療研修も実施しています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	駒込病院			ER 研修（墨東病院）			結石治療（大塚病院）			駒込病院		
2 年次	癌治療・ロボサージャン手術・ロボット支援手術（駒込病院）									小児泌尿器科（小児総合医療センター）		
3 年次	癌治療・ロボサージャン手術・ロボット支援手術（駒込病院）									前立腺レーザー治療（多摩南部地域病院）		
4 年次	癌治療・腹腔鏡手術（国がんセンター東・がん研有明）						駒込病院					

● 大塚病院　（連携施設）
がん・感染症センター都立駒込病院泌尿器科　東京医師アカデミー専門研修施設群専門研修プログラム

指導医責任者：泌尿器科　高沢　亮治
連携をしている基幹施設病院：駒込

首都圏を代表する尿路結石センターとして、豊富な症例のエンドウロロジー手術を特徴としています。同分野の最

先端治療を経験することができます。国内外の学会に積極的に参加して演題発表するとともに、学術論文作成をおこなっています。また、結石治療だけでなく、東京都区西北部の基幹病院として、泌尿器がん・排尿障害の診療にも取り組んでいます。良性疾患・悪性疾患どちらも幅広く症例を経験し、泌尿器科専門医としての基礎的な知識と技術を習得することができます。大塚病院採用でも専門医取得は十分可能です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	泌尿器科						ＥＲ / 救命救急研修			泌尿器科		
2 年次	泌尿器科			他科 / 他院研修			泌尿器科					
3 年次	泌尿器科			他科 /他院研修			泌尿器科					
4 年次	泌尿器科			他科 / 他院研修			泌尿器科					

● 多摩総合医療センター　（連携施設）

指導医責任者：泌尿器科　東　剛司

連携をしている基幹施設病院：駒込

東京医師アカデミー泌尿器科研修プログラムの研修基幹施設および連携施設は、東京都広域 16 市 5 区の合計 5 つの 2 次医療圏にある 6 つの地域中核病院（駒込病院、大塚病院、豊島病院、多摩総合医療センター、小児総合医療センター、多摩北部医療センター、多摩南部地域病院）の役割を担うと同時に、7 研修施設全てがサブスペシャリティー領域の専門性の高く、特色のある泌尿器科医療を提供しています。これらの研修施設群で泌尿器科の研修をする事で、泌尿器科医としての多彩な専門研修の実現と偏りのない診療経験の獲得、地域医療への貢献を可能としています。4 年間の研修期間のうち、初年度と 4 年目に 3 ヶ月ずつの合計 6 ヶ月間を、研修基幹施設である駒込病院で研修する事としています。残りの 3 年 6 ヶ月間は研修連携施設または基幹施設での研修となりますが、本人の希望や研修の進捗状況に応じて、1 研修施設に最大 3 年 6 ヶ月までの研修期間が許容されます。多摩総合医療センターでは、尿路悪性腫瘍を中心に、排尿障害、尿路感染、尿路結石など泌尿器科領域全般について診療をしています。腎癌、腎盂・尿管癌には腹腔鏡下手術を、前立腺癌、腎癌、膀胱癌には、ロボット手術を行っています。これらの手術に加え、尿路悪性腫瘍に対する薬物療法も積極的に行っております。当科には、がん薬物療法専門医が在籍していますので、薬物療法を基本から学ぶことが出来ます。今話題の免疫療法に関しても、腫瘍免疫の専門家がいますので、学ぶことが可能です。さらに、学会発表および学術論文の作成を指導し、科学者としての能力を取得することも目標とします。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	駒込病院			7 施設から選択								
2 年次	7 施設から選択											
3 年次	7 施設から選択											
4 年次	7 施設から選択									駒込病院		

病　理

採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎駒込病院

〇広尾病院
〇墨東病院
〇神経病院
〇小児総合医療センター

◎多摩総合医療センター

〇大久保病院
〇多摩北部医療センター
〇豊島病院

研修プログラムの特徴

● 駒込病院（基幹施設）
東京都立駒込病院施設群病理東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：病理科　比島　恒和　　プログラム研修期間：3 年
連携施設病院：広尾 / 墨東 / 大久保 / 豊島
東京医科歯科大学病院

本プログラムは、剖検例、生検、手術例の組織診断、術中迅速診断、細胞診などの分野を 3 年間で研修し、病理専門医受験資格を得ることを目標としています。基幹施設である駒込病院は、がんの専門病院として都道府県がん診療連携拠点病院に指定されていますが、総合基盤に則った医療を実践しているため、がんのみならず非がん例も含めた幅広い症例を経験することが可能です。さらに、3 年間のうち都内の中核病院に相当する東京医師アカデミーの連携施設（墨東病院、広尾病院、豊島病院、大久保病院）をローテーションし、基幹施設にはない多彩な症例を経験することもできます。各施設をまとめると症例は豊富で、専門医受験資格に必要な剖検数も十分確保されています。各施設にはベテランの専門研修指導医が揃っており、カンファレンスの場も多く、病理医として成長していくための環境が整っています。駒込病院では手術材料は未固定の状態で手術室から送られてくるため、検体の処理、肉眼所見の取り方、切り出し、報告書作成まで同一症例で学ぶ機会が多い点も本プログラムの特徴の一つです。診断能力の習得に加え、学会発表や論文作成に関しても指導、支援を行っています。

● 多摩総合医療センター（基幹施設）
都立多摩総合医療センター施設群病理科・東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：病理科　岡田　晴香　　プログラム研修期間：3 年
連携施設病院：神経 / 小児総合 / 多摩北
公立昭和病院 / がん検診センター / 川崎幸病院 / 東京西徳州会病院

日本における病理専門医数は近年横ばい状態で、増加する臨床からのニーズに十分対応できる状態とは言い難いのが現状です。このような状況を改善するため、本プログラムでは病理学のやりがいと楽しさを満載した、実務的で魅力的な病理専門プログラムを提供することを目指しています。本プログラムでは、多摩総合医療センター病理科を基幹施設とし、3 年間は公立昭和病院、小児総合医療センター、神経病院、多摩北部医療センター、東京都がん検診センター、川崎幸病院、東京西徳州会病院の各専門研修連携施設での研修を通して、病理専門医資格の取得を目指します。各施設を合わせると症例数は豊富で、小児、神経など多彩で専門的な領域にも及び、剖検も十分な数を実施しています。指導にあたる研修指導医や専門医も各施設に揃っています。各種の院内カンファランスも多くあり、病理医として日々

研鑽、成長していくための環境が整っています。また、本プログラムでの研修においては、ライフ・ワークバランスも重視しています。充実した病理専門研修を行うのは勿論重要ですが、第一線の病理医として長期にわたって継続的に仕事を行っていくためには、病理以外においても充実した人生を送ることが大切です。そのために病理業務は可能な限り時間内に切り上げ、それ以外の時間を有意義に使えるよう配慮しています。本病理専門研修プログラムに是非参加して、知識のみならず技能や態度にも優れた、次代を担う病理専門医を目指してください。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	多摩総合医療センター											
	剖検（ＣＰＣ含む）と基本的な病理診断と細胞診、関連法律や医療安全を主な目的とする。											
2年次	連携施設（公立昭和病院、神経病院、多摩北部医療センター、がん検診センター）											
	剖検（ＣＰＣ含む）とやや専門的な病理診断及び基本的な細胞診を主な目的とする。この年次までに剖検講習会受講のこと。可能であれば死亡解剖資格も取得する。											
3年次	多摩総合医療センター											
	多摩総合での研修を基本とし、連携施設で週１回の研修を行う。剖検（ＣＰＣ含む）と専門的な病理診断及び専門的な細胞診を主な目的とする。この年次までに専門医試験受験資格として必要な講習会を受講する。											

（医師アカデミー シニアレジデント合同発表会風景）

放射線科

採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎駒込病院

〇大塚病院
〇墨東病院

◎多摩総合医療センター

〇神経病院
〇小児総合医療センター
〇荏原病院

研修プログラムの特徴

● 駒込病院（基幹施設）
東京都立アカデミー駒込放射線科専門研修プログラム

プログラム責任者：放射線科　高木　康伸　　プログラム研修期間：3 年

連携施設病院：大塚 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 荏原
鳥取大学医学部附属病院 / 筑波大学附属病院 / 横浜市立大学附属病院 / 国際医療福祉大学成田病院

当プログラムは駒込病院（駒込）を基幹施設として、多摩総合医療センター（多摩総合）、大塚病院、荏原病院、小児総合医療センター（小児総合）、墨東病院、神経病院、筑波大学附属病院、鳥取大学医学部付属病院、横浜市立大学附属病院、国際医療福祉大学成田病院を連携施設とする放射線科専門医を養成するプログラムです。その特徴は、都内 7 病院で約 4000 床の病床を有し、豊富な指導医のもと放射線科関連の検査が数多く行なわれ、救急から慢性疾患、そして癌の診断まで、単純写真から CT、MRI、血管造影そして PET-CT や IVR も含めた十分な放射線診断の研修が受けられます。放射線治療に関しては駒込と多摩総合にて豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から最先端の高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行なう事が出来ます。以上のように当プログラムはいずれの施設も都内に位置し（連携している大学病院を除く）、相互間の距離も隔たっていない好環境で、病院間の連携体制も良好で、なおかつ満遍なくバランスの取れた研修が可能であり、放射線科専門医取得のために絶好のプログラムであると考えられます。2023 年度の採用からは多摩総合医療センターも基幹施設となり、より柔軟で充実した研修体制となる予定です。

研修コースモデル

コースモデル（ローテート例）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
（治療専攻）1 年次	放射線治療						放射線診断（大塚病院）					
	治療専攻の専攻医のモデルの一例です。専攻医の希望を優先して予定を立てますが、専門医試験に必要な経験症例数を満たすために、診断部門もローテーションに組み込みます。											
2 年次	放射線治療						放射線診断					小児総合
	3 年間の間に基幹施設（放射線科総合修練機関）である駒込病院にで 1 2 か月間の研修が必須となっています。											
3 年次	放射線治療											
	3 年目には小児総合医療センターなどでの研修も行っています。											
（診断専攻）1 年次	放射線診断						放射線治療					
	診断専攻の専攻医のモデルの一例です。専攻医の希望を優先して予定を立てますが、専門医試験に必要な経験症例数を満たすために、治療部門もローテーションに組み込みます。											
2 年次	放射線診断（大塚病院）						放射線診断（多摩総合医療センター）					
	3 年間の間に基幹施設（放射線科総合修練機関）である駒込病院にで 1 2 か月間の研修が必須となっています。											
3 年次	小児総合医療センター			放射線診断								
	3 年目には小児総合医療センターや神経病院などのローテートも可能です。											

○ 駒込病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
放射線治療

プログラム責任者：診療放射線科　室伏　景子　　プログラム研修期間：3 ～ 5 年

当プログラムは基本領域「放射線科」のサブスペシャルティ領域「放射線治療」を研修し、放射線治療専門医を養成するプログラムです。駒込病院を基幹施設とする、「東京都立アカデミー駒込放射線科プログラム」で放射線科基本領域研修を行い、その 2 年目から連動研修として当プログラムでの放射線治療領域研修を開始することができ、早期

に基本領域とサブスペシャルティ領域の専門性を習得できます。

研修内容については、駒込病院と墨東病院で豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、幅広い領域の腫瘍について、通常の放射線治療から最先端の高精度放射線治療に至るまで多数の症例を経験でき、満遍なくバランスの取れた研修を行なう事が出来ます。

新専門医制度
放射線診断

プログラム責任者：放射線診療科診断部　高木　康伸　　プログラム研修期間：3 年

放射線科専門医は後期研修 4 年目で受験し、その後 2 年の研修を経て後期研修 6 年目に診断専門医を受験します。東京都医師アカデミーでは 3 年の後期研修を行っており、その後さらに 3 年の研修を行い、放射線診断専門医の取得を目標とします。

CT, MRI, RI（PET 含む）の検査指示から撮影の立ち合い、確認を行い読影までの全体を研修します。IVR（画像下治療）についても TACE などの血管造影や CT ガイド下の穿刺手技を単独で行えることを目標として研修を行います。また、担当領域を決めて院内のキャンサーボードにも参加します。

院内、科内のジュニアレジデントやシニアレジデントの指導も担当して、後輩の育成を通して自身の成長にもつなげてもらいます。

● 多摩総合医療センター　（基幹施設）
東京都立アカデミー多摩放射線科専門研修プログラム

プログラム責任者：放射線科　荒木　潤子　　プログラム研修期間：3 年（一部サブスペシャリティ連動研修有）
連携施設病院：大塚 / 駒込 / 墨東 / 小児総合 / 荏原

多摩総合医療センター放射線科を基幹施設として、駒込病院、大塚病院、荏原病院、小児総合医療センター、墨東病院を連携施設とする放射線科専門医を養成するプログラムです。全 6 病院で約 3800 床の病床を有し、病院毎の特色を生かしたローテーションプログラムにより幅広い研修を行うことができます。

多摩総合医療センターは、東京 ER を有し多種多彩な救急症例を毎日のように経験可能であると共に、がん、周産期、難病、感染症等の画像診断、それらに合併する救急症例、IVR 症例も、豊富な施設です。最近では研修できる施設が減少している超音波検査も、スクリーニング症例の他、救急や超音波ガイド下生検等も研修します。単純 X 線写真、CT、MRI、核医学、IVR 等を併せ、細分化された臨床各科の間を繋ぎ、技師や看護師等他職種とも協力しあい、チーム医療の一員として能力を発揮できる、幅広い視野を持った GeneralRadiologist の育成を目指しています。

放射線治療に関しても、多摩総合医療センターと駒込病院にて経験豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から先進的な高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行うことができます。

指導医と共に CPC、画像カンファレンスや各種カンファレンスに参加し、放射線科医の立場から最善の治療を目指して discussion が出来るスキルを身に着けます。年 2 回の学会・研究会発表、研修中の論文作成を推奨します。

東京医師アカデミーという比較的コンパクトな立地の中で、利便性も良く、尚且つバランスの取れた幅広い研修が可能です。是非一度、見学にいらしてください。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	放射線診断（多摩総合）						放射線治療（多摩総合）			放射線診断（多摩総合）		
	診断希望の専攻医モデルの一例です。専攻医の希望を優先して予定を立てますが、専攻医試験に必要な経験症例数を満たすために、治療部門もローテーションに組み込みます。											
2 年次	治療（駒込病院）			診断（駒込病院）			診断（大塚病院）			診断（荏原病院）		
	3 年間の間に基幹施設（放射線科総合修練期間）である多摩総合医療センターでの 12 か月の研修が必要となっています。											
3 年次	診断（小児総合）			放射線診断（多摩総合）								
	3 年目には、小児総合などのローテートも可能です。											

放射線科

○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度 放射線治療　プログラム責任者：診療放射線科　泉　佐知子　　プログラム研修期間：2 年以上、5 年以内

近年のがん治療では放射線治療は大きな役割を担い、様々な施設基準で放射線治療の専門医の存在が必須となっています。しかし、放射線治療専門医は 2021 年 10 月時点で全国で 1500 人余りと少なく、専門医の需要はきわめて多いです。放射線治療専門医の資格取得には、2 年間の研修期間で、総数 200 例の直接の治療計画と、治療専門医試験の合格が求められます。当院では年間 700 例以上の新患患者があり、100 例以上の IMRT, 定位照射などの高精度治療、20 例以上の密封小線源治療を行っており、単施設でも十分な症例数を経験することが可能です。特に手技の熟練が必要な密封小線源治療は、様々な形状のアプリケータや、組織内併用照射など、多彩なバリエーションを有しており、当院での研修により高い臨床技能を修得することが可能です。

新専門医制度 放射線診断　プログラム責任者：放射線科　荒木　潤子　　プログラム研修期間：3 ～ 5 年

本コースは放射線診断医制度に則った研修の提供を目的とします。多摩総合医療センターでは、悪性腫瘍や周産期、救急等の多岐に渡る症例の画像診断や IVR を施行しています。各分野の専門的知識と各科横断的な読影能力を取得し、かつ救急を含めた総合的な IVR 技術を取得できます。年間 CT、MRI、核医学等合わせ 5 万件以上の画像検査に加え、マンモグラフィ、単純 X 線写真の検査、読影を行っています。腹部や甲状腺・乳腺超音波検査も検査科と協力して担当、IVR も年間 300 件程度施行しています。日々の読影、臨床各科カンファレンスや discussion、CPC、画像カンファレスでの症例提示、種々の IVR、英語論文作成等を通して、各科を繋ぐ広い視野を持ち、放射線診断専門医取得に必要な能力、技術を総合的に身に付けられます。

● 大塚病院　（連携施設）

指導医責任者：診療放射線科　山田　佳菜
連携をしている基幹施設病院：駒込 / 多摩総合

当院は、総合病院としての基盤の上に最重点医療として、総合周産期母子医療・小児医療をかかげ、リウマチ・膠原病系難病診療、心身障害児・高齢者、がん医療などの幅広い分野を、開設当初から地域医療連携を念頭に推進しています。当科は日本医学放射線学会、日本核医学会からそれぞれ修練機関病院としての認定を受けており、原則 3 年で専門研修医を受け入れます。年間の報告書作成件数は約 36000 件で、専門医受験資格取得には十分な症例数を確保していますが、不足分は基幹施設病院や他の連携施設病院へのローテーション時に補填されます。当科は駒込病院を基幹施設病院とする放射線科専門研修プログラムに参加しており、任期 3 年の間に他施設を定期的にローテーションすることで、幅広い放射線科的知識、技術を体得し専門医試験、診断あるいは治療専門医資格の取得を目標としています。研修は原則、 1 対 1 のマンツーマン方式で、適宜当科で作成しているティーチングファイル等を用いてのディスカッションを追加します。また放射線治療も行われており、がん治療における放射線治療の役割などを研修することができます。以下に、当院の専門研修医のローテート例を掲げますが、希望により研修期間や研修施設は調整が可能です。一例として参考にしていただきたいと思います。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	大塚病院						診断（駒込病院）					
	新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で 1 年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計 1 年となります。											
2 年次	大塚病院						治療（駒込病院）			診断（駒込病院）		
	新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で 1 年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計 1 年となります。											
3 年次	大塚病院					小児	検診センター	大塚病院				
	小児 = 小児総合医療センターでの小児科領域の画像診断、検診センター = がん検診センターで消化管造影などを研修（いずれも期間は調整可能）											

● 墨東病院　（連携施設）

指導医責任者：放射線科　松岡　勇二郎
連携をしている基幹施設病院：駒込 / 多摩総合

（東京医師アカデミー　ホームページ　駒込病院　放射線科より　一部改変）

当プログラムは駒込病院を基幹施設として、多摩総合医療センター、大塚病院、荏原病院、小児総合医療センター、神経病院、墨東病院を連携施設とする、放射線科専門医を養成するプログラムです。その特徴は 7 病院で 4000 床以上の病床を有し、豊富な指導医のもと放射線科関連の検査が数多く行われ、救急から慢性疾患、そして癌の診断まで、単純写真から CT、MRI，血管造影そして PET-CT や IVR も含めた十分な放射線診断の研修が受けられます。放射線治療に関しては、駒込と多摩総合にて、豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から先進的な高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行う事が出来ます。以上のように当プログラムは、いずれの施設も都内に位置し、相互間の距離も隔たっていない好環境で、なおかつ満編なくバランスの取れた研修が可能であり、放射線科専門医取得のために絶好のプログラムです。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	墨東病院						診断（駒込病院）					
2 年次	墨東病院						治療（駒込病院）					
3 年次	墨東病院					小児	神経病院	墨東病院				

新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で 1 年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計 1 年となります。

新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で 1 年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計 1 年となります。

説明：小児 = 小児総合医療センターでの小児科領域の画像診断、神経病院 = 神経病院で神経領域の画像診断などを研修（いずれも期間は調整可能）

○ 墨東病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度 放射線治療　プログラム責任者：診療放射線科　待鳥　裕美子　　プログラム研修期間：3 ～ 5 年

当プログラムは基本領域「放射線科」のサブスペシャルティ領域「放射線治療」を研修し、放射線治療専門医を養成するプログラムです。駒込病院を基幹施設とする、「東京都立アカデミー駒込放射線科プログラム」で放射線科基本領域研修を行い、その 2 年目から連動研修として当プログラムでの放射線治療領域研修を開始することができ、早期に基本領域とサブスペシャルティ領域の専門性を習得できます。

研修内容については、駒込病院と墨東病院で豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、幅広い領域の腫瘍について、通常の放射線治療から最先端の高精度放射線治療に至るまで多数の症例を経験でき、満遍なくバランスの取れた研修を行なう事が出来ます。

新専門医制度 放射線診断　プログラム責任者：診療放射線科（診断）　松岡　勇二郎　　プログラム研修期間：3 ～ 5 年

当プログラムは基本領域「放射線科」のサブスペシャルティ領域「放射線診断」を研修し、放射線診断専門医を養成するプログラムです。駒込病院を基幹施設とする、「東京都立アカデミー駒込放射線科プログラム」で放射線科基本領域研修を行い、その 2 年目から連動研修として当プログラムでの放射線診断領域研修を開始することができ、早期に基本領域とサブスペシャルティ領域の専門性を習得できます。

研修内容については、駒込病院と墨東病院で豊富な指導医を始めとする充実したスタッフの環境下、幅広い領域の画像診断や IVR について、多数の症例を経験でき、満遍なくバランスの取れた研修を行なう事が出来ます。

放射線科

荏原病院　（連携施設）

指導医責任者：放射線科　日野　圭子
連携をしている基幹施設病院：駒込 / 多摩総合

放射線診断専門医の取得を目標とし、日本医学放射線学会専門医研修ガイドラインに準拠して研修を行います。General radiologist 育成を目的とし、さらに subspeciality を専攻して臨床研究、学会発表、論文作成を行います。診療においては読影のみならず、画像診断管理についても習得し画像診断を通じて日常診療、救急診療に積極的に介在します。核医学、放射線治療の基礎についても習得します。1 年次：CT,MR、各種造影検査の原理と撮像プロトコールの特徴を理解し、基本的な所見の読み方、鑑別診断、さらに最終診断への考え方を学びます。血管造影、IVR 主手技の基本を習得する。院内各科および院外におけるカンファランスに参加し発表します。subspeciality と研究テーマを選択し、臨床研究、学会発表の方法を学び、実際に学会発表を行います。2 年次は放射線腫瘍学、放射線治療学を研修します。2 年次後半からは、より専門性の高い診断学、超音波医学、核医学、放射線腫瘍学を研修し、subspecialty も含めた専門的な分野を習得します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	荏原病院											
	1 年次は荏原病院にて撮像法の原理や画像診断（読影）、造影検査手技等を研修する。											
2 年次	治療（駒込病院）						診断（駒込病院）					
	2 年次は基幹施設である駒込病院にて、前半は治療・後半は診断について研修する。											
3 年次	大塚病院						小児	がん検診	荏原病院			
	3 年次は荏原病院のほか、小児総合医療センターやがん検診センターでより専門性の高い研修を行う。											

採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎広尾病院
◎墨東病院
◎多摩総合医療センター

〇小児総合医療センター
〇多摩北部医療センター

研修プログラムの特徴

● 広尾病院（基幹施設）
東京都立広尾病院 救急科 東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救命救急センター　後藤　英昭　　プログラム研修期間：3 年
連携施設病院：杏林大学医学部付属病院 / 大分県立病院 / 島しょ等

救急医療では医学的緊急性への対応、すなわち、手遅れとなる前に診療を開始することが重要です。ところが、救急患者が医療にアクセスした段階では、緊急性や罹患臓器も不明なため、どのような緊急性にも対応できる専門医が必要となります。そのためには、救急搬送患者を中心に診療し、急病、外傷、中毒など原因や罹患臓器の種類に関わらず、すべての緊急性に対応する救急科専門医が、国民にとって重要な役割を果たします。本研修プログラムの目的は、「国民に良質で安心な標準的医療を提供できる」救急科専門医を育成することです。救急科領域の専攻医は、急病や外傷の種類や重症度に応じた総合的判断に基づき、必要に応じて他科専門医と連携し、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めるためのコンピテンシーを修得することができます。内因性疾患で複数臓器の機能が急速に重篤化する場合や、外傷や中毒など外因性疾患では、初期治療から継続して根本治療や集中治療でも、中心的役割を担うことが可能となります。さらに、地域ベースの救急医療体制、特に救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、さらに災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する仕事を担うことも可能となります。

基幹研修施設の広尾病院は、東京都市部の救命センターとしての機能の他、年間 200 件を越える島しょからのヘリ・航空機搬送の患者受け入れや災害医療等、様々な役割を担っています。本プログラムを通して、緊急性や重症度に依らない初期診療、これに引き続く根本治療と集中治療、地域医療体制整備、さらに災害医療を含む、救急医療の中心となる救急科専門医の育成を目指します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	救急診療・集中治療・MC・災害医療											
2 年次	救急診療・集中治療・MC・災害医療（杏林大学医学部付属病院）、救急診療・地域医療（大分県立病院）											
3 年次	過疎地域救急診療（選択研修・島しょ医療）						救急診療・集中治療・MC・災害医療					

● 墨東病院（基幹施設）
東京都立墨東病院施設群救急科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救命救急センター　杉山　和宏　　プログラム研修期間：3 年
連携施設病院：小児総合
東京大学医学部附属病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター / 帝京大学ちば総合医療センター / 前橋赤十字病院 / 島根県立中央病院 / 島しょ等

救急医には、目前の患者の緊急度と重症度を判断し即座に対応する「緊急性」、疾病・外傷などの原因や罹患・損傷臓器の種類を問わず対応する「多様性」、加えて、様々な背景の患者の診療に対応する「社会性」が求められます。これらをたゆまず確実に実践していくことが、救急医療を支えていくための礎となる救急科専門医のモットー（すすむべき道・信条）です。墨東病院は ER と独立型の高度救命センターを有し、walk-in 患者から生命の危機が切迫した患者まで、幅広い救急診療に携わることができ、救急医の研修に適した環境にあります。当プログラムでは、都内有数

救急科

の症例数を誇る当院での研修を中心に、東京大学附属病院、逓信病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、前橋赤十字病院、島根県立中央病院と連携を組み、近接した地域内で研修を全うすることが可能です。また、研修を通して区東部医療圏の救急医療体制、特に救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する仕事も学びます。日常の診療の他に学術的な活動も重視し、積極的に学会発表、論文発表を行っております。我々とともに地域の救急医療の更なる発展を目指して研修いただける方をお待ちしています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	救命救急センター						ER					
2 年次	連携施設			連携施設			救命救急センター					
3 年次	連携施設						ER					

○ 墨東病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
集中治療

プログラム責任者：集中治療科　牧野　淳　　プログラム研修期間：2 年

当プログラムは、米国で総合内科・感染症・集中治療を学んだ医師が中心となり、豊富な内科的知識をバックグランドに多職種連携による強みを活かしつつセミクローズドスタイルで ICU8 床と HCU20 床の重症管理を実践している国内でも数少ない施設です。術後全身管理や院内急変管理を始め、院内急変迅速対応や人工呼吸器回診、院内重症管理セミナー、ACP への取り組みなどの組織横断的な活動も積極的に行っています。研修では、1. 高度医療の安全な提供、2. 患者ニーズに応じた医療の提供、3. 教育・経営における病院貢献、を目標に研修を行います。研修修了時に、集中治療専門医として必要な知識・技術の習得だけではなく、後輩医師やコメディカルを育成できるシステムの構築、病院経営を意識した ICU 運営ができるような自立した医師を育成することが目標です。

● 多摩総合医療センター（基幹施設）
東京都立多摩総合医療センター施設群救急科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救急科　清水　敬樹　　プログラム研修期間：3 年

連携施設病院：小児総合 / 多摩北
帝京大学病院（東京都）/ 佐久総合病院（長野県）/ 日本赤十字社医療センター（東京都）/ 浦添総合病院（沖縄県）/ 秋田赤十字病院（秋田県）/ 西南医療センター（茨城県）/ NTT 関東病院（東京都）/ 昭和大学病院（東京都）/ 埼玉医科大学総合医療センター（埼玉県）/ 千葉大学病院（千葉県）

本研修プログラムを修了した救急科専門医は、急病や外傷の種類や重症度に応じた総合的判断に基づき、必要に応じて他科専門医と連携し、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めるための臨床能力を習得することができるようになります。まずは実際に見学しにいらしてください。黒い術衣をまとったスタッフがお待ちしています。

【救命初療から集学的治療】

当院救急科の特徴は、初療室から入室後に重症患者であれば救急科が主科となり集学的治療へと速やかに移行可能なことです。集中治療医学に関する知識・経験が豊富なスタッフからのフィードバックが可能です。

【チーム医療】

「チーム医療」が現在の救急・集中治療分野におけるキーワードになっています。「チーム医療」を十分に意識して多くのスタッフと協調性を持ちながら医療を継続していける救急科専攻医を目指してください。救急科専門医の取得は当然ですが自分のサブスペシャリティーを探す 3 年間とも言えます。

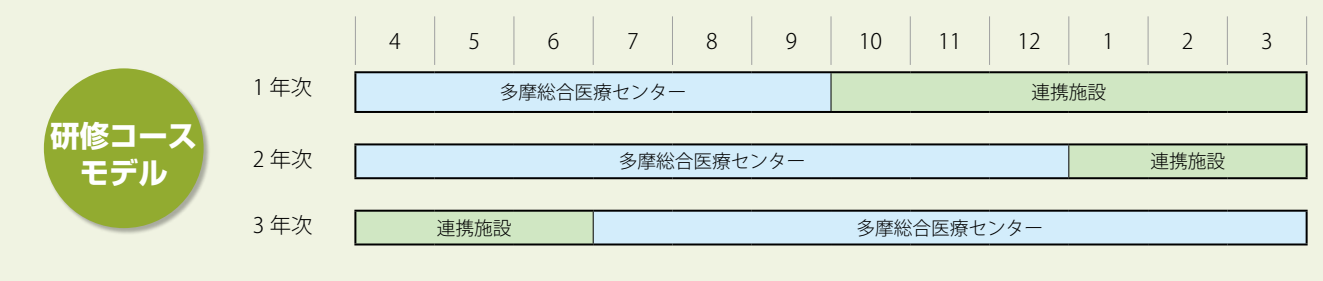
【ドクターヘリ研修】

東京都のような都市型救命救急センターでは現時点ではドクターヘリなどは導入されていません。ドクターヘリが必要不可欠で導入・運営している地域で一定期間研修することで医師の患者さんへの早期接触、早期治療開始の重要

性を認知して頂ければと思います。

【ＥＣＭＯ】

重症呼吸不全に対する呼吸補助目的の対外循環装置を使用したＶＶ－ＥＣＭＯの管理に関して、当院では世界基準での管理を確立しています。装置、回路、管理方法など欧米のノウハウを導入し、他院へ出向いてのカニュレーション、搬送など本邦で最高レベルのＥＣＭＯ管理の研修が可能です。



○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
集中治療

プログラム責任者：救命救急センター　清水　敬樹　　プログラム研修期間：3 年

本コースは集中治療専門医制度に則った研修の提供を目的とします。当院を基幹施設として専門性や特徴が異なる複数の連携施設での研修により、病態・診断・治療、更には集中治療領域では必須である多職種連携・チーム医療の重要性も含め他診療科からも頼りにされる集中治療専門医の育成を目指すプログラムです。

多摩総合医療センターを基幹施設とし、東京女子医科大学、あさか医療センター、小児総合医療センターと連携し修了に必要な診療を行うことができます。

総合診療

採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎広尾病院
◎駒込病院
◎墨東病院
◎多摩総合医療センター
◎多摩北部医療センター

〇神経病院
〇小児総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 広尾病院（基幹施設）
東京都立広尾病院施設群総合診療科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：総合救急診療科　米山　尚慶　　プログラム研修期間：4 年

連携施設病院：大島医療センター / 神津島診療所 / 三宅島中央診療所 / 町立八丈病院 / 小笠原村診療所

広尾病院は東京 ER 広尾を有し、院内は伝統的に各科の間の垣根が低く、和気藹々とした雰囲気が円滑な診療体制につながっています。

特筆すべきは島しょ医療を基幹医療の 1 つに掲げている点です。年間 250 件の航空機による救急搬送症例の他、紹介受診される多数の症例にも日々対応しています。病院全体の入院症例中 1 ～ 2 割が、島しょからの症例で占められており、都心にある病院とは思えないような事例にも出会えます。広尾病院では総合救急診療科・救命救急センターのほか、各専門内科、小児科での研修を行ないます。また産婦人科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科などの外来診療研修も準備し、まさに科にとらわれない総合診療医を目指します。研修カリキュラム中赴任する島しょ医療機関は、大島医療センター、神津島村診療所、三宅島中央診療所、町立八丈病院、小笠原村診療所があります。現地では診療以外に地域保健なども含めた地域医療を学ぶことができます。地続きでない、遠く隔たった島での医療活動は決して生易しいものではありません。しかし経験豊富な指導医の下、決して隔絶された環境ではなく、のびのびと総合診療の実践を堪能できます。どちらの島も住居をはじめ生活面のサポートは充実しており、何にも心配はいりません。総合診療を極める上で最も整備された医療環境が、広尾病院には用意されています。その先には病院総合医はもちろんのこと、へき地診療や国際貢献などで活躍できる医師像がまっています。どっぷりつかってみるだけの価値は保証付きです！

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	腎臓内科		内分泌内科	循環器内科			消化器内科		神経内科	呼吸器内科		
	内科全体で 1 年間の研修を行います。専門内科は希望にあわせ偏りのないよう研修を組みます。内科研修中も総合診療外来研修も行います。											
2 年次	小児科			産婦人科			総合救急診療科（総合診療研修 II）					
	小児科、産婦人科では入院診療の他、乳幼児健診、妊婦検診なども学びます。総合救急診療科では病院総合医としての診療を学びます。											
3 年次	眼科		耳鼻科	救急科			皮膚科		内視鏡	整形外科		
	救急科では救命救急センターで 3 次救急と ICU 管理を主体に学びます。他、診療科では外来診療を中心に、島しょで必要とされるスキルを学びます。											
4 年次	総合診療研修　I											
	大島、神津島、小笠原の診療所での総合診療の実践、地域保健への参画などを行います。医師としての役割の広さを認識する 1 年となります。											

● 駒込病院（基幹施設）
東京都立駒込病院総合診療科専門研修プログラム

プログラム責任者：総合診療科　岡本　朋　　プログラム研修期間：4 年

連携施設病院：広尾 / 小児総合
東京健生病院 / 大泉生協病院 / 島しょ等

駒込病院は、各診療科の総合基盤を備えた、がんと感染症を重視した病院であると同時に、東京都区中央部医療圏の 2 次救急病院です。外来研修や病棟研修を通じて一般的な症候学や疾病を学ぶのみならず、専門診療科へのコンサ

ルテーションを通じて、診断困難な症例へのアプローチをも習得できる場です。総合診療研修の連携施設では外来診療、訪問診療、地域包括ケアを通じて、都心という場の医療のニーズを肌で感じ取りどのような医療の提供が求められているかを学びます。さらに、島しょや僻地の医療の実情と課題を経験することも可能です。小児、救急医療は、それぞれ症例の豊富な専門研修病院で、日常的に遭遇する症候や疾患を専門医の指導のもとに研修します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	総合診療科						内科					
	駒込病院総合診療科で総合診療専門研修IIを研修する。当科には外科サポートチームもあり外科手技の習得も可能である。											
2年次	内科			総合診療科			救急科（広尾病院）			小児総合医療センター		
	駒込病院内科では、臓器別に専門化された診療科を複数ローテする。ローテ診療科は指導医と協議して決定する。											
3年次	内科			総合診療科			大泉生協病院			東京健生病院		
	大泉生協病院、東京健生病院では総合診療専門研修Iを研修する。また僻地研修は3年目、4年目に分割も可能である。											
4年次	僻地研修											
	東京都島しょ、僻地で研修する。専攻医の出身県での研修希望があれば相談に応じる。											

● 墨東病院（基幹施設）
東京都立墨東病院施設群総合診療科専門研修プログラム

プログラム責任者：感染症科　中村　ふくみ　　プログラム研修期間：4年

連携施設病院：聖母病院 / 篠崎駅前クリニック / クリニック川越 / 揚石医院 / 岩手県立千厩病院 / 岩手県立高田病院 / 一関市国保藤沢病院 / 岩手県立大東病院 / 島しょ等

墨東病院施設群総合診療科専門研修プログラムは病院、診療所などで活躍するための高い能力を有する総合診療専門医を養成することを目的として創設されました。その特徴は以下の通りです。

・人口145万人を抱える東京都区東部医療圏（墨田区・江東区・江戸川区）において最大の総合病院であり、高度救命救急センターを有する24時間365日の救急医療（東京ER・墨東）、総合周産期母子医療センター、感染症やがん、難病医療も重要な柱として強力に地域医療を支える当院の総合診療基盤を、基幹施設として最大限に活用します。

・区東部医療圏において総合診療を実践し指導体制が充実した施設と密接に連携します。

・都内島しょや被災・復興地域を含む国内過疎地で地域医療、在宅診療を支える連携施設（岩手県一関市、陸前高田市、新潟県妙高市の各医療機関）での計12ヶ月の研修が行えます。

・4年コースにより内科12ヶ月、小児科3ヶ月、救急3ヶ月、総合診療I、II合計18ヶ月以上の必修研修＋個々の希望やニーズに応じた選択研修も十分な余裕があります。

・多彩な施設群での研修によりさまざまな現場を体験する中で、総合診療の意義を体感し、救急に強く多様なステージで力を発揮できる骨太の総合診療医を目指します。

・病院総合診療医として、臓器・領域別の専門医や院内外の様々な部署、機関とも連携を図りながら患者さんの全人的・総合的な問題解決を図るノウハウを習得できます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	内科			内科			内科			救急科		
2年次	内科			放射線科・整形外科・産婦人科			小児科			総合診療専門研修II		
3年次	皮膚科・耳鼻科・泌尿器科			総合診療専門研修II（聖母病院）			総合診療専門研修I（島しょ等）			総合診療専門研修I（都内連携施設）		
4年次	総合診療専門研修I（都外連携施設）									総合診療科		

総合診療

● 多摩総合医療センター（基幹施設）
多摩総合医療センター施設群総合診療科東京アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救急・総合診療センター　綿貫　聡　　プログラム研修期間：4 年

連携施設病院：神経 / 小児総合

西多摩医療圏医療機関（奥多摩病院）/ 北海道家庭医療学センター / 西伊豆病院など / 島しょ等

東京西部の多摩地域を中心とした、都市部における医療施設で研修プログラムを提供します。拠点と成る多摩総合医療センターは、多摩地域における基幹総合病院であり、幅広い年齢層に対する一般外来診療・救急診療・入院診療をほぼ全診療科に渡り提供しています。幅広い健康問題に対して向き合う環境にあり、総合診療研修に適しています。人に起こる多様な問題に対して、その臨床現場のコンテクストに沿って対応できる臨床医の育成を基本理念としています。本プログラムでは、小児期については小児総合医療センターと連携、成人については多摩総合医療センター救急・総合診療センターを中核とし、各診療科との連携で症例経験を得ることが可能です。さらに通院困難者・高齢者においては近隣医療機関や東京都島しょ、西多摩医療圏の施設と連携し、在宅医療もフィールドに含み、医療を展開します。生物科学的な観点だけでなく、ライフサイクルイベントに配慮し、家族関係・心理社会的な観点からもアプローチを行うことが可能な医師の育成を図ります。この中で、他職種ともチームを形成し、連携することで、調整・統括業務が可能となるよう、コミュニケーションスキルの向上とともに、チームビルディングの実際を経験できる環境を提供します。各診療科での指導とともに、2-3 ヶ月に 1 回の定期的な面談、ポートフォリオ指導・勉強会、ER ランチョンレポート（臨床推論指導）、家庭医療勉強会（家庭医療のコア内容・診療科 / チーム運営に必要なマネジメントスキルなどを指導）等により内容を補完します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	救急科			内科			総合診療 II			総合診療 II		
2 年次	総合診療 I											
3 年次	内科			内科			小児科			内科		
4 年次	総合診療 I						選択研修			選択研修		

○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

病院総合診療　プログラム責任者：救急・総合診療センター　綿貫　聡　　プログラム研修期間：2 年

本コースは日本病院総合診療医学会認定病院総合診療専門医制度に則った研修の提供を行います。

病院総合診療医には、幅広い症候・疾患に対する最新の医学知識に基づいた思考力と行動力、総合診療医ならではのコミュニケーション能力や組織管理力、地域包括ケアの概念に代表される地域と密接に関わる医療を展開する総合力が求められます。

拠点となる多摩総合医療センターは、多摩地域における基幹総合病院であり、幅広い年齢層に対する一般外来診療・救急診療・入院診療を提供し、病院総合診療研修に適しています。本プログラムでは、多摩総合医療センター救急・総合診療センターを中核部門とし、水戸協同病院総合診療科、飯塚病院総合診療科、川崎市立多摩病院総合診療内科、東京ベイ・浦安市川医療センター総合内科と連携して研修を行います。

新・家庭医療　プログラム責任者：救急・総合診療センター　綿貫　聡　　プログラム研修期間：1 年

本コースは日本プライマリ・ケア連合学会認定　新・家庭医療専門医制度に則った研修の提供を行います。

拠点となる多摩総合医療センターは、多摩地域における基幹総合病院であり、幅広い年齢層に対する一般外来診療・救急診療・入院診療をほぼ全診療科に渡り提供しています。幅広い健康問題に対して向き合う環境にあり、総合診療研修に適しています。

本プログラムでは、小児期については小児総合医療センターと連携、成人については多摩総合医療センター救急・総合診療センターを中核とし、各診療科との連携で症例経験を得ることができます。プライマリケアの経験は北海道家庭医療学センター郡部サイト、西伊豆健育会病院、近隣医療機関や東京都島しょ、西多摩医療圏の施設と連携します。各診療科での指導とともに定期的な面談、勉強会、指導等により内容を補完します。

● 多摩北部医療センター（基幹施設）
多摩北部医療センター総合診療専門研修プログラム

プログラム責任者：副院長　小泉　浩一　　プログラム研修期間：3～4年

連携施設病院：駒込 / 多摩総合
東京女子医科大学病院 / 奥多摩町国民健康保険奥多摩病院 /
社会福祉法人恩賜財団済生会支部茨城県済生会　常陸大宮済生会病院 / 医療法人社団実幸会 石橋クリニック /
公立置賜総合病院

多摩北部医療センターを基幹施設とする、東京都北多摩北部医療圏 (人口約 74 万人) 中心の総合診療専門医育成を目的とした研修プログラムです。当院は医療圏の中心的な急性期病院であり、北多摩北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とともに研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる総合診療専門医を目指せます。

将来、総合診療医として活動する場に応じて、診療所に比べて主に病院での研修に重点を置く研修（病院重点）や病院に比べて主に診療所での研修に重点を置く研修（診療所重点）など、多様なローテーションを組み立てることができます。

なお、内科とのダブルボードを希望する者はさらに 1 年間の内科研修を付加することができます。

上記の様に多くの施設と連携を組んでおり、基幹施設である多摩北部医療センターと連携施設との 3 年間で、総合診療専攻研修において求められる 7 つの資質・能力（包括的アプローチ、一般的な健康問題に対する診療能力、患者中心の医療・ケア、連携重視のマネジメント、地域包括ケアを含む地域志向アプローチ、公益に資する職業規範、多様な診療の場に対応する能力）を効果的に習得することができます。

症例をある時点で経験するということだけではなく、主治医として、初診、入院から退院、外来通院まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	総合診療科						内科					
	総合内科外来（初再診）、内科系、循環器系研修、ＪＭＥＣＣ受講											
2 年次	小児科			多摩総合医療センターＥＲ			総合診療科					
3 年次	希望科（院内）			外科・泌尿器科・皮膚科			総合診療専門研修Ⅰ（連携施設）					
（4 年次）	総合診療専門研修Ⅰ（連携施設）						総合診療科					

（医師アカデミー 災害医療研修風景）

（医師アカデミー 感染症対応能力向上研修風景）

広尾病院

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿二丁目34番10号
電話　03-3444-1181

病院の概要

救急・災害医療、島しょ医療、心臓病医療及び脳血管疾患医療に重点を置いた総合的な病院であり、「東京ER・広尾」を擁するほか、心臓循環器救急及び、熱傷救急にも対応しています。また、国際化対応にも力を入れ、外国人を含むあらゆる患者さんから選ばれる病院を目指しています。2017年3月、日本医療教育財団の定める「外国人患者受入れ医療機関認証制度」を受審し、認証（JMIP認証）を受けております。また、基幹災害拠点病院として、他の災害拠点病院、災害ボランティア、企業及び行政の防災担当者等を対象とした訓練・研修を行うとともに、大規模災害時における重傷患者の受入体制を確保し、DMAT及び医療救護班の派遣体制を常時整えています。

■ 診療科目

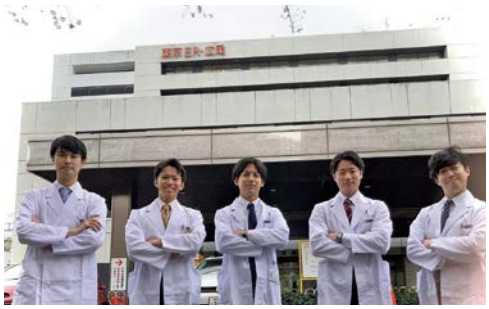
血液内科　糖尿病内分泌科　消化器内科　腎臓内科　脳神経内科　感染症内科　呼吸器科　循環器科　神経科
小児科　外科　心臓血管外科　整形外科　リハビリテーション科　脳神経外科　形成外科　皮膚科　泌尿器科
産婦人科　眼科　耳鼻咽喉科　診療放射線科　歯科口腔外科　麻酔科　救命救急センター
救急診療科　内視鏡科　輸血科　検査科　総合診療科

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

- 内科　（大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 松沢 / 大久保 / 豊島 / 東京共済病院 / 日本大学医学部附属板橋病院 / 東京医科歯科大学病院 / 公立昭和病院 / 国立循環器病研究センター病院 / 日本医科大学付属病院 / JCHO東京山手メディカルセンター / 横須賀共済病院 / 島しょ等）
- 麻酔科　（大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島 / 草加市立病院 / 春日部中央総合病院）
- 救急科　（杏林大学医学部付属病院 / 大分県立病院 / 島しょ等）
- 総合診療科　（大島医療センター / 神津島診療所 / 三宅島中央診療所 / 町立八丈病院 / 小笠原村診療所）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- 内科　（大塚 / 墨東 / 多摩総合 / 大久保 / 豊島）
- 外科　（墨東 / 多摩総合）
- 小児科　（小児総合）
- 精神科　（多摩総合 / 松沢）
- 整形外科　（多摩総合）
- 麻酔科　（大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 東部 / 荏原 / 豊島）
- 皮膚科　（墨東）
- 病理科　（駒込）
- 総合診療　（駒込）



（シニアレジデント集合写真）

臨床研修委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修委員会委員長からのひとこと

腎臓内科部長
田島　真人

当院は区西南部の地域医療拠点として、東京 ER・救命救急センターを運営し、他の医療機関では対応困難な傷病を積極的に受け入れています。国際化対応にも力を入れ、2017 年 3 月、「外国人患者受入れ医療機関認証：JMIP 認証」を受けました。東京 ER では多様な一次・二次救急疾患を主体的に診療でき、シニアレジデントの格好の研修の場となっています。救命救急センターではさらに高度な専門治療・集中治療を要する循環器・脳血管疾患や外傷、高度熱傷など重症患者の診療に携わることが可能です。その他の重点医療として災害・島しょ医療が挙げられます。東京都の基幹災害拠点病院としての災害医療研修や島しょからの重症患者のヘリ搬送など、特色ある研修が受けられます。

各診療科コースプログラムのうち、当院で研修が困難な内容については東京医師アカデミー関連病院等での院外研修も可能です。原則として専門診療科コース研修ではありますが、診療科ローテーションなど、各人の研修希望を可能な限り尊重しつつ研修プログラムを立案しています。研修管理委員会では、診療技術・知識の習得を目的とした院内学習会、臨床研究サポートチームによる研究計画立案・学会発表のアドバイス、院外講師を招いての研究手法の講義、などを定期的に行い、医師の基本的診療能力の研鑽、研究者としての基礎の涵養を目指して研修をサポートします。

シニアレジデントからのひとこと

循環器科
3 年次
佐々木　高史

広尾病院循環器科で後期研修をさせて頂いております佐々木高史と申します。当院の循環器科の後期研修の魅力は、なんといってもスタッフの人数が豊富で、雰囲気が良いことです。診療で悩んだ際は虚血、不整脈とも気軽に上級医に相談する事ができ、安全に診療を行う事が可能です。循環器疾患は対応の遅れが致命的な結果となってしまうため、特に 4 月 5 月の初期研修医を修了したばかりの時期は、上級医の先生方のバックアップが本当に支えになりました。

また、当科には積極的に若手に手技をやらせようという雰囲気があります。スタッフの人数が豊富であり手技の指導を出来る先生が多いため、後期研修医が PCI やカテーテルアブレーションの術者となる機会も豊富です。自分に手技のチャンスがまわってくることで、勉強にも身が入るため、充実した効率のよい研修ができると思います。

加えて、学会活動や論文作成も活発に行っております。日本循環器学会総会には後期研修医はもちろんほぼスタッフ全員が毎年演題を提出しておりますし、虚血・不整脈ともに海外学会発表のチャンスが年に複数回あります。日常診療に平行して学会活動や論文執筆に取り組む事はもちろん大変ですが、若いうちからたくさんの学会発表を経験することで、プレゼンテーションの能力を高める事が出来ます。論文執筆の指導も充実しており、後期研修医のうちに英語論文を複数提出される先生もいらっしゃいます。

当科での研修では良い雰囲気の中、力を高める事が可能です。是非当科での後期研修をご検討ください。

（ヘリ搬送（島しょ医療））

（心臓カテーテルアブレーション）

大塚病院

〒 170-8476
東京都豊島区南大塚二丁目８番１号
電話　03-3941-3211

病院の概要

周産期医療、小児医療、救急医療、がん医療、リウマチ膠原病医療、そして小児精神医療（外来）を重点医療として掲げ、地域に密着した総合的医療を展開している病院です。ほぼ全ての診療科を網羅しつつフットワークが軽いというバランスのとれた規模が特色で、都心にありながら静かな環境にある病院です。500 g で出生した超低出生体重児から 100 歳を超える御高齢の患者さんまで、あらゆる年齢層の患者さんを受け入れています。総合周産期母子医療センターとして、M-FICU 及び NICU を活用した高度の周産期医療を提供しており、都内でも有数の母体搬送受け入れ実績及び超低出生体重児入院実績をあげています。総合診療や救急医療にも力を入れており、充実した研修を行う事ができる施設であると自負しています。また、優れた医療人材、コメディカル、事務スタッフが集まり、患者や地域の医療機関を引き付けて離さない魅力ある病院“マグネット・ホスピタル”であることを目標としています。

■ 診療科目

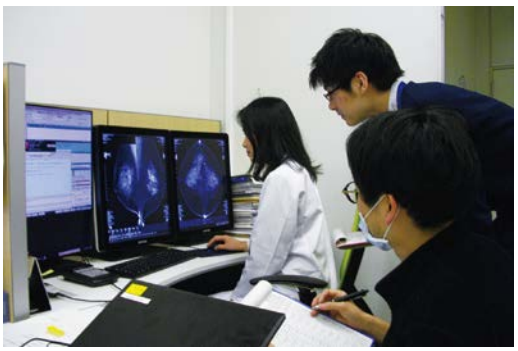
内科　児童精神科　神経科　リウマチ膠原病科　小児科　外科　整形外科　形成外科　脳神経外科　皮膚科
泌尿器科　産婦人科　眼科　耳鼻咽喉科　リハビリテーション科　麻酔科　口腔科　診療放射線科　救急診療科

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

- 内科　（広尾 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 大久保 / 豊島 / 東京医科歯科大学病院 / 東邦大学医療センター大森病院 / 草加市立病院 / 東京都済生会中央病院 / JA とりで総合医療センター / 慶應義塾大学病院 / 東京歯科大学市川総合病院 / 横浜市立みなと赤十字病院 / 川崎市立井田病院 / 横須賀共済病院 / 平塚共済病院 / 土浦協同病院 / 東京女子医科大学病院 / 島しょ等）
- 小児科　（小児総合 / 日本大学医学部附属板橋病院 / 慶應義塾大学病院 / 島しょ等）
- 麻酔科　（広尾 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島 / 慶應義塾大学病院 / さいたま市立病院）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- 内科　（広尾 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 大久保 / 荏原 / 豊島）
- 外科　（墨東）
- 産婦人科　（多摩総合）
- 小児科　（小児総合）
- 麻酔科　（広尾 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 東部 / 荏原 / 豊島）
- 皮膚科　（墨東）
- 泌尿器科　（駒込）
- 放射線科　（駒込 / 多摩総合）



（放射線科研修風景（マンモグラフィ読影実習））

（小児科研修風景）

臨床研修委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修委員会委員長からのひとこと

内科医長
吉川　桃乃

初期研修では多くの診療科をローテートして医師としての基本的な心構えとプライマリケアの基本的な診療能力を養いますが、後期研修では専門領域の研鑽を積んで学会の認定医資格を取得することが目標になります。大塚病院では、専門研修に加えて総合診療能力を育成しバランス感覚の優れた医師を育てたいと考えています。

「総合周産期母子医療センター」は常時三次救急対応で高度な周産期医療を提供しています。産婦人科には豊富な人材が揃っていて都内 1 ～ 3 位の母体搬送受け入れとともに悪性腫瘍や不妊症の治療も行っています。ちなみに超緊急帝王切開は手術決定から胎児娩出まで 20 分以内です（最短実績 12 分）。新生児科では NICU15 床、GCU30 床を備え常に都内 5 位以内の 1000g 未満の超低出生体重児受け入れ実績を誇っています。

また、当院は区西北部保健医療圏の二次救急医療機関として、また地域連携医緊急診療依頼専用電話を活用し、「断らない救急」をめざしています。救急患者取扱い数は年間 1.7-2 万例あります。2021 年には1次脳卒中センターとしての認定を受け、脳卒中急性期の疑われる患者に対しすみやかな診断・治療をおこなっています。超高齢社会にあっては自分の専門外の問題に取り組まなければならないことも多いのですが、各科で常に協力体制をとって診療にあたっています。

多くの優秀な指導医や習熟したコメディカルスタッフが充実した研修のお手伝いをします。横の連携のよい「アットホームな雰囲気の病院」で研修できるよう、皆さんをお待ちしています。

シニアレジデントからのひとこと

産婦人科
3 年次
西中　大祐

当院は東京医師アカデミーに属しております。東京医師アカデミーは、14 病院が連携し、様々な施設で研修することでカリキュラムの充実や指導体制の強化を図り、充実した医師育成システムを備えた制度です。他施設での研修を行うことで様々な治療方法や多彩な症例を偏りなく経験することができます。

当院での産婦人科研修は、分娩、救急外来、母体搬送、病棟業務、一般外来について一から学ぶことができ、研修 1 年目から主治医として主体性を持って患者様の治療に携わることができます。また当院ではチーム制を採用しており、診察や治療方針等で困った際は上級医にいつでも相談できる体制が整っております。そのようなサポート体制が充実しているため、私たち後期研修医が生き生きと日々の診療を行うことができるのが当院産婦人科の最大の特徴といえます。また、当院産婦人科の特性として総合周産期医療センターの役割を担っており、様々な合併症妊娠など多数の症例を経験することができます。

各科の横の連携も市中病院だからこそ、垣根が低く相談しやすい環境だと思います。是非一度見学にいらしてください。みなさんのお越しを当院職員一同お待ちしております。

（産婦人科研修風景）

（集合写真）

駒込病院

〒 113-8677
東京都文京区本駒込三丁目 18 番 22 号
電話　03-3823-2101

病院の概要

がん・感染症を中心とする疾患に対し高度な医療サービスを行う専門病院であり、併せて、一般医療機関の要請による地域医療サービスも行う病院です。総合診療基盤に支えられ診療各科の連携のもとそれぞれの専門領域を尊重した診療を行っています。都道府県がん診療連携拠点病院、エイズ診療中核拠点病院、第一種感染症指定医療機関、造血幹細胞移植推進拠点病院等に指定され全国から多数の患者を集めています。当院は教育・研究活動の充実を図っていることも特徴です。臨床研修医制度による指定病院であるとともに各種の臨床研修の指定をうけています。その他、一般医療機関に対する研修の場の提供や都立病院に勤務する医療従事者、医療関係学生および看護学生等の実習・教育も行っています。院内ではキャンサーボード等カンファランスを活発に行っているほか、臨床研究、学会活動および論文作成など、高度な医療水準の維持に努めています。

■ 診療科目

内科（消化器　呼吸器　循環器　脳神経　血液　腎臓　肝臓　膠原病　糖尿病・内分泌）　総合診療科　腫瘍内科
緩和ケア科　神経科　小児科　外科（食道　肝胆膵　胃　大腸　乳腺　呼吸器）　整形外科　リハビリテーション科
骨軟部腫瘍科　脳神経外科　皮膚腫瘍科　形成再建外科　腎泌尿器外科　婦人科　眼科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科　感染症科　麻酔科　歯科口腔外科　放射線科（診断部・治療部）　輸血・細胞治療科
内視鏡科　病理科

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

- 内科　（大塚 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 松沢 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島 /NTT 東日本関東病院 / 新渡戸記念中野総合病院 / 湘南鎌倉総合病院 / 国立がん研究センター中央病院 / 東京医科歯科大学病院 / 東京大学医学部附属病院 / 東京健生病院 / 大泉生協病院 / 東京大学医科学研究所附属病院 / 複十字病院 / 青森県立中央病院 / 岩手県立中央病院 / 山形県立中央病院 / 魚沼基幹病院 / 国立がん研究センター東病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター / 飯塚病院 / 静岡県立静岡がんセンター / 東京山手メディカルセンター / 大森赤十字病院 / 島しょ等）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島 / 順天堂大学医学部附属順天堂医院 / 越谷市立病院 / かわぐち心臓呼吸器病院）
- 泌尿器科　（大塚 / 墨東 / 多摩総合 / 小児総合 / 多摩南 / 多摩北 / 豊島 / 国立がん研究センター東病院 / がん研有明病院 / 青梅市立総合病院 / 東京北医療センター / 細部医院 / 島しょ等）
- 病理科　（広尾 / 墨東 / 大久保 / 豊島 / 東京医科歯科大学病院）
- 放射線科　（大塚 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 荏原 / 鳥取大学医学部附属病院 / 筑波大学附属病院 / 横浜市立大学附属病院 / 国際医療福祉大学成田病院）
- 総合診療科　（広尾 / 小児総合 / 東京健生病院 / 大泉生協病院 / 島しょ等）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- 内科　（広尾 / 大塚 / 墨東 / 多摩総合 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島）
- 外科　（墨東 / 多摩総合）
- 産婦人科　（多摩総合）
- 精神科　（松沢）
- 整形外科　（多摩総合）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 墨東 / 多摩総合 / 東部 / 荏原 / 豊島）
- 皮膚科　（墨東）
- 耳鼻咽喉科　（多摩総合）
- 放射線科　（多摩総合）
- 総合診療　（多摩北）

臨床研修委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修委員会委員長からのひとこと

膠原病科部長
瀬戸口　京吾

当院の専門臨床研修医制度は平成４年に開始され平成20年から東京医師アカデミーの研修コースに組み込まれ、平成30年度から日本専門医機構による新専門医制度にも対応しております。当院での専門臨床研修の特徴は、各診療科の総合基盤に支えられた最先端のがん診療、感染症診療を経験できることです。また学会活動や論文発表を活発に行っている指導医のもとで、様々な学会での発表や論文作成の機会にも恵まれています。がん・感染症の病院ではありますが、当院から発信された、IgG4関連疾患症例も十分に経験できるため、がん・感染症以外の診療部門での研修も充実しております。本人のやる気次第でいくらでも可能性の広がる場を提供できますので、がん・感染症に興味のある方、それ以外に興味のある方もお待ちしております。

シニアレジデントからのひとこと①

病理科
２年次
内藤　裕

私は駒込病院病理科にて後期２年目の研修を行っています。初期研修では当院内科コースで研修させていただき、引き続き研修を行っています。当院は、がんセンターという名前の通り、腫瘍の症例が多く、癌から血液疾患、希少な肉腫まで多彩な検体について勉強することができます。当院での病理研修の特徴としては、多彩な腫瘍の検体を勉強することができることと、指導をして下さる先生方の人数も多いことが挙げられます。指導医の先生方に相談しやすい雰囲気で、日々多くのフィードバックをくださいます。さらに、現在病理科に在籍する後期研修医は現在４人と多く、日々新しく知った知見について互いに相談･共有することができる環境です。また、病理専門医申請にあたって解剖例が必要ですが、当院病理科は他院病理科との連携を結んでおり、複数の病院で病理解剖をすることができるため、解剖についても多彩な症例を数多く経験することができます。病理専攻を考えていらっしゃる方は、是非１日見学にいらして下さい。

シニアレジデントからのひとこと②

腫瘍内科
４年次
森田　侑香

私は初期研修から駒込病院で研鑽を積み、１年の産休・育休を経て、引き続き腫瘍内科で後期研修を行っています。

当院での研修の特徴は、高い専門性、豊富な学術活動、ローテーションの自由度です。がん･感染症センターという名の通りがん領域では十分な症例数を経験でき、がんゲノム医療やがん免疫遺伝子治療といった最先端の治療に携わることができます。診療データを積極的に蓄積しているため統計解析を行ったり、その結果を実臨床に応用する過程を経験したりすることが豊富な学術活動にも繋がっています。また、感染症領域や、病理、放射線診断・治療、緩和ケアなどがん診療に欠かせない分野を深く学ぶことができるのも魅力の１つです。一方で、東京医師アカデミーとして連携病院での研修を選択できるため、新専門医制度でも必須な非がん領域の研修も充実させることが可能です。

ぜひ一度見学に来て、自分に合った研修ができるか確かめてみてください。

墨東病院

〒130-8575
東京都墨田区江東橋四丁目23番15号
電話　03-3633-6151

病院の概要

墨東病院は東京都の区東部（墨田区、江戸川区、江東区および葛飾区の一部）の約百数十万人の医療圏をカバーする広域基幹病院です。周辺に同様の病院が少ないことから、地域の最終病院としてニーズに応えていく必要がある病院です。

病院の特徴としては、三次救急を含む総合救急体制である「東京ER・墨東」、周産期医療、精神科救急が有名ですが、それ以外にも地域がん診療連携拠点病院としての側面や、新型コロナウイルス感染症の蔓延が始まってからは、病院を挙げて多くの中等症以上の患者への対応を行っています。

当院の特徴としてはなんといっても救急診療です。1次、2次の救急診療部(ER)、自己完結型の救命センター、集中治療室に加え、新生児・産科・循環器科・脳卒中・精神科などあらゆる診療科が救急医療に対応しています。

■ 診療科目

内分泌代謝内科　脳神経内科　血液内科　消化器内科　呼吸器内科　腎臓内科　総合診療科　循環器科
神経科　小児科　外科　心臓血管外科　呼吸器外科　整形外科　脳神経外科　形成外科　皮膚科　泌尿器科
眼科　産婦人科　新生児科　耳鼻咽喉科　リハビリテーション科　リウマチ膠原病科　歯科口腔外科
感染症科　救急診療科　救命救急センター　集中治療科　麻酔科　診療放射線科　輸血科　内視鏡科　検査科

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

- 内科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 多摩総合 / 神経 / 松沢 / 東部 / 大久保 / 荏原 / 豊島 / 東京医科歯科大学病院 / 筑波大学附属病院 / 筑波記念病院 / 同愛記念病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター / 国立循環器病研究センター / 静岡がんセンター / 国立国際医療研究センター国府台病院 / 東京大学医学部附属病院 / 千葉大学医学部附属病院 / 日本医科大学千葉北総病院 / ＪＡとりで総合医療センター / 静岡てんかん・神経医療センター / 榊原記念病院 / 大森赤十字病院 / 東京北医療センター / 東京大学医科学研究所附属病院 / 哲西町診療所（岡山）/ 島しょ等）
- 外科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 小児総合 / 東部 / 荏原 / 豊島 / 島しょ等）
- 産婦人科　（東京大学医学部附属病院 / 聖路加国際病院 / 順天堂大学医学部附属順天堂医院 / 焼津市立総合病院）
- 小児科　（神経 / 小児総合 / 聖路加国際病院 / 東京大学医学部附属病院 / 島しょ等）
- 精神科　（小児総合 / 松沢 / 東京医科歯科大学病院 / 東京足立病院 / 成増厚生病院 / 国立精神・神経医療研究センター病院 / 精神保健福祉センター / 埼玉県立精神医療センター / 大宮厚生病院 / 国立国際医療研究センター国府台病院 / 初石病院）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島 順天堂大学医学部附属順天堂医院 / かわぐち心臓呼吸器病院 / 越谷市立病院）
- 皮膚科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 多摩総合 / 防衛医科大学校病院）
- 救急科　（小児総合 / 東京大学医学部附属病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター / 帝京大学ちば総合医療センター / 前橋赤十字病院 / 島根県立中央病院 / 島しょ等）
- 総合診療科　（聖母病院 / 篠崎駅前クリニック / クリニック川越 / 揚石医院 / 岩手県立千厩病院 / 岩手県立高田病院 / 一関市国保藤沢病院 / 岩手県立大東病院 / 島しょ等）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- 内科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 大久保 / 荏原 / 豊島）
- 精神科　（松沢）
- 整形外科　（多摩総合）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 多摩総合 / 東部 / 荏原 / 豊島）
- 泌尿器科　（駒込）
- 病理科　（駒込）
- 放射線科　（駒込 / 多摩総合）

臨床研修管理委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修管理委員会委員長からのひとこと

脳神経内科医長
水谷　真之

当院初期研修を含めた様々な出身のアカデミー生の数が年々増えており、2022 年度は 67 人在籍しています。各科で救急患者を含めた豊富な症例に対応することで、修練を積んで行くことができます。また、アカデミーの卒業生が常勤医となり、墨東病院の屋台骨となって、アカデミー生、初期研修医を教育する体制が確立されてきていることも当院の強みの一つと考えています。

一緒に墨東病院を支えるやる気のあるスタッフを募集しています。是非一緒に働いて、墨東病院をより発展させていきましょう。

シニアレジデントからのひとこと①

救急科
3 年次
井上　謙

私は他院で初期研修を修了し、後期研修から墨東病院へ入職しました。初期研修中に救急集中治療医を志し、あらゆる重症患者に対して蘇生を施し、入院後の集中治療を自信を持って行えるようになりたいと考えていました。墨東病院の大きな特徴の一つは、1 つの初療室に CT や透視が搭載されている hybrid ER システムが導入されており、スピード感のある蘇生を実現することができることです。見学の際に、3 次救急患者の初療対応を見たときの衝撃は今でも忘れることができないほど印象に残っています。加えて日頃から診療に対して指導医による手厚いフィードバックがあり、定期的に集中治療科とも合同の勉強会を行うことで充実した教育を受けることができます。また、自らが蘇生を担当した患者さんに対して、初期対応や急性期の全身管理だけではなく、集中治療室退室後の一般病棟管理や退院・社会復帰に至るまで携わることができる点は医師としてのレベルを大きく引き上げてくれていることを日々感じています。集中治療科が運営する ICU は教育体制が充実しており、希望に応じて他科研修を行うことで、初期研修の 2 年間での苦手を克服したりカテーテル手技などを身につけることもできますし、連携施設での研修では大学病院の ICU や北米型 ER、離島医療など幅広い経験を積むことができます。このように、当院での救急科後期研修は非常に充実した環境で学ぶことができ、ここで後期研修を行えてよかったと日々感じています。ぜひ一度見学にいらしてください。みなさんと一緒に働けることを楽しみにしております。

シニアレジデントからのひとこと②

内科（循環器内科）
3 年次
長谷川　皓紀

私は墨東病院で初期研修を行い、そのまま循環器の後期研修医として墨東病院に入りました。 墨東病院のメリットは「優秀な連携施設を生かした豊富な症例数と熱心な指導環境」です。内科専門医を取るために必要な 160 の症例登録と 29 の病歴要約をこなすためには効率よく症例を経験することが必要です。特に COVID-19 の影響で病床が制限される中で、症例数を経験することがより困難となっている昨今ですが、墨東病院は大学病院も含めた多くの病院を連携施設に含んでおり、全国的にもトップレベルのスケールメリットがあります。common な病気の経験数だけでなく、稀少疾患も経験することもできます。そして、ただ症例を経験するだけでなく、優秀で熱心な指導医がたくさんおり、病歴要約の添削や日々の指導なども丁寧に行なっていただけます。しっかりとした要約を書くことは将来的な臨床能力や文献作成にも間違いなく役立つ土台となります。以上を踏まえシニアレジデントとして初期研修医とは異なる責任感や充実感を得る最適な環境と思います。さらにこれらの連携施設が東京都内に近接していることも大きなメリットです。シニアレジデントはライフイベントが多く重なる、人生のキャリアにおいても大事な時期ですが、最低 1 年間連携施設に行く必要があることを考えると、これらの施設が集まっていることは非常に重要です。ぜひ墨東病院での後期研修でお会いしましょう。

多摩総合医療センター

〒 183-8524
東京都府中市武蔵台二丁目 8 番 29 号
電話　042-323-5111

病院の概要

多摩地域における総合的な医療機能を持つ病院として、救急医療、がん医療、周産期医療、脳血管疾患医療、生活習慣病医療、難病医療、リハビリテーション医療、精神科救急医療、結核医療、障害者歯科医療及び骨髄移植医療といった高度・専門医療を実施しております。当院の重点医療は、救急医療、がん医療、周産期医療ですが、それらを支える総合診療をも強化しており、ほぼ全ての診療を網羅しております。救急医療では、救命救急センター、東京 ER 多摩総合を有し、365 日 24 時間の救急医療を提供しています。特に、脳卒中、心筋梗塞、心不全などの取扱件数は都内有数の実績です。がん医療では、がん診療拠点病院として、緩和医療やがん相談支援にも積極的に取り組み、あらゆるがん症例で高い診療実績です。周産期医療は、小児総合医療センターの NICU・GCU 部門と一体となり、総合周産期センターとして多摩地域の困難事例に対応しております。

■ 診療科目

総合内科　腎臓内科　消化器内科　内視鏡科　内分泌代謝内科　感染症科　緩和ケア科　血液内科　脳神経内科　神経・脳血管内科　呼吸器・腫瘍内科　循環器内科　精神神経科　外科　乳腺外科　呼吸器外科（胸部外科）　心臓血管外科　整形外科　脳神経外科　形成外科　皮膚科　泌尿器科　産婦人科　眼科　耳鼻咽喉科・頭頸部外科　リウマチ膠原病科　リハビリテーション科　診療放射線科　歯科口腔外科　麻酔科　病理・検査科　救急総合診療センター　救命救急センター

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

- 内科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 神経 / 松沢 / 多摩南 / 大久保 / 多摩北 / 豊島 / 帯広第一病院 / 秋田赤十字病院 / 山形県立中央病院 / 白河厚生総合病院 / 福島県立医科大学会津医療センター附属病院 / 竹田綜合病院 / 水戸協同病院 / 土浦協同病院 / JA とりで総合医療センター / 国立病院機構栃木医療センター / 済生会加須病院 / 埼玉石心会病院 / さいたま市立病院 / 草加市立病院 / 帝京大学ちば総合医療センター / 国保旭中央病院 / 船橋市立医療センター / 東京ベイ浦安市川医療センター / 亀田総合病院 / 国立病院機構東京病院 / 日野市立病院 / 青梅市立総合病院 / 公立昭和病院 / 東京医科歯科大学病院 / 東京都健康長寿医療センター / 東京大学医科学研究所附属病院 / 東京大学医学部附属病院 / 国立病院機構災害医療センター / 武蔵野赤十字病院 / 横浜市立みなと赤十字病院 / 川崎市立多摩病院 / 横須賀共済病院 / 長岡赤十字病院 / 新潟市民病院 / 山梨県立中央病院 / 安曇野赤十字病院 / 諏訪中央病院 / 西伊豆健育会病院 / 聖隷浜松病院 / 沼津市立病院 / 神戸市立医療センター中央市民病院 / 島根大学医学部附属病院 / 飯塚病院 / 今村総合病院 / 沖縄県立宮古病院 / 浦添総合病院 / 島しょ等）
- 外科　（広尾 / 駒込 / 小児総合 / 松沢 / 多摩南 / 大久保 / 多摩北 / 島しょ等）
- 産婦人科　（大塚 / 駒込 / 多摩北 / 東京医科歯科大学病院 / 杏林大学医学部付属病院 / 青梅市立総合病院 / 立川相互病院 / 田園都市レディースクリニック）
- 精神科　（広尾 / 小児総合 / 松沢 / 荏原 / 東京都健康長寿医療センター / 青梅市立総合病院 / 成増厚生病院 / 高月病院 / 多摩総合精神保健福祉センター / 針生ケ丘病院 / 東京医科歯科大学病院 / 横浜みなと赤十字病院 / 恩田第二病院 / 茨城県立こころの医療センター）
- 整形外科　（広尾 / 駒込 / 墨東 / 小児総合 / 東京大学医学部附属病院 / 自治医科大学附属病院 / 西島病院（静岡県））
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 多摩南 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島 / 東京医科歯科大学病院 / 国立成育医療研究センター / 聖路加国際病院 / 静岡県立こども病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター / 埼玉医科大学病院 / 埼玉医科大学国際医療センター / 埼玉医科大学総合医療センター / TMG あさか医療センター）
- 耳鼻咽喉科　（駒込 / 神経 / 小児総合 / 虎の門病院 / NTT 東日本関東病院）
- 病理科　（神経 / 小児総合 / 多摩北 / 公立昭和病院 / がん検診センター / 川崎幸病院 / 東京西徳州会病院）
- 放射線科　（大塚 / 駒込 / 墨東 / 小児総合 / 荏原）
- 救急科　（小児総合 / 多摩北 / 帝京大学病院（東京都）/ 佐久総合病院（長野県）/ 日本赤十字社医療センター（東京都）/ 浦添総合病院（沖縄県）/ 秋田赤十字病院（秋田県）/ 西南医療センター（茨城県）/ NTT 関東病院（東京都）/ 昭和大学病院（東京都）/ 埼玉医科大学総合医療センター（埼玉県）/ 千葉大学病院（千葉県）
- 総合診療科　（神経 / 小児総合 / 西多摩医療圏医療機関 / 北海道家庭医療学センター / 西伊豆病院 / 島しょ等）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- 内科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩南 / 大久保 / 多摩北 / 豊島）
- 精神科　（小児総合 / 松沢 / 荏原）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 東部 / 荏原 / 豊島）
- 皮膚科　（墨東）
- 泌尿器科　（駒込）
- 放射線科　（駒込）
- 総合診療　（多摩北）

専門研修管理委員長及びシニアレジデントのひとこと

専門研修管理委員長からのひとこと

リウマチ膠原病科医長
永瀬　雄一

どこで専攻医を研修するかは先生方ご自身の将来に直結する可能性があり、大きな期待と小さな不安があることと思います。当院は初期研修医 30 人、シニアレジデント 84 人が在籍する教育病院です。優れた研修環境は NPO 法人卒後臨床研修評価機構に以前から認定されており、2017 年には最高賞である「エクセレント賞」を授与されております。

東京医師アカデミーの各病院は公的病院として一律に同じ雰囲気を持った病院群と考えられる方もいらっしゃるかもしれませんが、実はそれぞれの病院には歴史に根差した個性があります。当院は多摩地区の重要な基幹病院としての側面と高度医療を提供する医療センターとしての側面を併せ持っており、シニアの先生方は地域医療を実践しながら、専門性のある質の良い指導医から教育を受けることができるというメリットがあります。まさに基本領域専門研修からサブスペシャリティ専門研修まで幅広く臨床能力を磨ける教育環境です。また研修プログラムでは東京医師アカデミーカリキュラムとして連携施設を一定期間まわることができるため、 1つの病院に固執しない新しい知識や技術を身に着けることができ、視野も広がりやすくなっています。しかしながら当院の最も大きな特徴は各科における医師の質と、コメディカル、秘書さんも含めた対人対応の丁寧さではないかと思います。患者さんを他科と協力しながら診ていこうとする姿勢があり、これも当院の伝統なのではないかと考えております。

また、専門医取得のために学会発表の指導も各科で行っており、シニアの間に英語論文を発表される先生も複数いらっしゃいます。当院の臨床研究部は研究のプランニングや統計解析の指導、英語論文の校正まで行っており、アカデミックワークにおいて多大な貢献をされております。

当院の臨床スケールの大きさを感じさせる大きな天井と病棟の窓から見える武蔵野台地を感じながら地域医療と専門領域の取得を目指し、学会発表や論文作成も行いたい先生方はぜひ一度見学にお越し下さい。

シニアレジデントからのひとこと

内科コース
3年次
唐木田　恵

私は初期研修を終え、内科の中でもリウマチ膠原病の勉強をしようと思い当院での研修をはじめました。当院を選んだ際に、基礎知識の肉付けと専門知識の習得のどちらも可能な研修先を探して選びました。

当院は内科の入院症例のうち、common diseases は各科に振り分けられため、内科的基礎疾患も各科専門領域の疾患もまんべんなく経験することができます。

豊富な症例数とオンオフの確保で、新内科専門医制度のもとで専門知識を身につけるに打ってつけだと思います。

この 2 年間を当院と関連の外病院で半分ずつ過ごし、さまざまな経験をすることで、より明確に今後の未来図を思い描くことができるようになりました。

そして、以前は漠然としか捉えられていなかった患者の全体像を、主治医としてみることができるようになったと思います。

私たちと一緒に、自分の学びたいことをフレキシブルに学んでみませんか？

（レジデント集合写真）

（院外講師による研修風景）

神経病院

〒 183-0042
東京都府中市武蔵台二丁目 6 番 1 号
電話　042-323-5110

病院の概要

脳神経系疾患に対する内科系および外科系臨床科を網羅した高度専門病院です。神経疾患に特化した専門病院としては国内最大規模を誇ります。有床標榜科は脳神経内科・脳神経外科・神経小児科・神経眼科・神経耳科・麻酔科であり、これに神経精神科・リハビリテーション科・神経放射線科・歯科を加えた 10 の診療科があります。

稼働病床 296 床のうち、脳神経内科が 218 床を占め、35 名の脳神経内科医（うち神経内科専門医 26 名）が、あらゆる神経疾患の診療にあたっています。また神経救急医療から慢性期ケア、終末期緩和治療、病理解剖に至るまで神経疾患に関する高度専門医療を提供しています。

さらに、地域連携・多職種連携による切れ目のない神経難病診療を特徴としています。地域療養支援室を中心とした往診制度により、患者を長期にわたってフォローできる他、院内の多職種チームが摂食嚥下や呼吸器装着などをサポートしています。

■ 診療科目

脳神経内科　神経精神科　神経小児科　脳神経外科　神経眼科　神経耳科　リハビリテーション科
神経放射線科　麻酔科　歯科

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院）

- 内科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 多摩南 / 大久保 / 多摩北 / 荏原）
- 小児科　（墨東）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 東部 / 荏原 / 豊島）
- 耳鼻咽喉科　（多摩総合）
- 病理科　（多摩総合）
- 放射線科　（駒込 / 多摩総合）
- 総合診療科　（多摩総合）

（集合写真）

臨床研修委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修委員会委員長からのひとこと

脳神経内科部長
蕨　陽子

私たち神経病院は、脳神経内科だけで 7 病棟・200 床以上もある、世界でも有数の神経専門病院です。毎週 40 ～ 50 名の神経難病患者さんが入退院し、脳炎やギラン・バレー症候群で集中治療を行う急性期の患者さんも大勢います。また、診断や初期治療から呼吸器装着、リハビリテーション、在宅診療、終末期緩和ケア、病理解剖まで、神経難病のすべてを自分の目で確かめることができます。そのため神経内科専門医試験の合格率はほぼ 100% です。

神経病院での後期研修は、大学とも一般病院とも異なる「第3の道」です。まず、人気の研修施設である東京医師アカデミーの各病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムに所属できるのが、大きなメリットの一つです。また、神経病院には学閥はなく、勤務時間や当直業務は既定の範囲内です。さらに、病床数、専門医数、指導医数は全国最大規模ですので、格段に豊富な症例を経験できます。そして、神経生理、神経病理、放射線診断、高次機能、筋疾患、免疫性疾患などの専門家が指導にあたりますので、国際学会や論文執筆を誰もが経験できます。

後期研修を修了した後は、当院で働きながら東京都医学総合研究所で研究し、医学博士号を目指す道の他、故郷の大学院に進む先生も数多くいます。東京は初めてという方や女性の先生も、心配なさらずご応募ください。皆さんの期待を裏切らない研修ができるはずです。当院での研修を心よりお待ちしております。

シニアレジデントからのひとこと

脳神経内科
令和3年度修了生
興津　雅人

内科新専門医制度の開始に伴い、私は卒後 3 年目に多摩総合医療センターで内科ローテートし、卒後 4 年目から 6 年目まで神経病院で脳神経内科を主とした研修を行いました。

もともと脳神経内科志望で、初期臨床研修時代に神経病院の見学に訪れたことを契機に当院での研修に興味を持ちました。見学の際、あるいは研修開始後に感じた当院の研修メリットは複数あります。

一つはやはり神経疾患専門病院として国内随一の病床数とそれに支えられた豊富な症例かと思います。脳神経内科は多岐の分野に渡る多疾患を対象とし、その診断、治療に難渋することを少なからず経験します。その際に教科書や文献検索で得られた知識よりも、過去に類似症例を実際に診療した経験は非常に有用で、そういった観点からも豊富な症例を身をもって経験できるほか、カンファレンスの場などで間接的にも実際の症例に基づき学習できる機会の多い当院は研鑽の場として非常にメリットがあると思います。

加えて病床数のみならず、脳神経内科の医師数においても当院の規模は大きく、単科の中で各専門分野に秀でた先生方から指導を受けられる当院は、国内でも希少な施設ではないでしょうか。また、神経疾患に関連した他科医師との綿密な連携や、神経疾患診療に精通したコメディカルの方々との交流を通じて多角的に脳神経内科医としての成長ができる環境ではないかと感じています。

私自身まだ脳神経内科医として未熟ですが、そういった環境や周囲の方々の支えのもと有意義な研修ができていると切に感じています。神経分野に興味がある方は、ぜひとも当院に見学にいらして下さい。お待ちしています。

（院内修了式）

（講義風景）

小児総合医療センター

〒 183-8561
東京都府中市武蔵台二丁目 8 番 29 号
電話　042-300-5111（代表）

病院の概要

臨床、教育、研究面で国内外に発信することを目標にする病床規模日本一（561 床）の小児専門病院です。総合診療科の他に、救命救急科や心療内科、内科系専門診療各科、新生児科、集中治療科、児童・思春期精神科（家族支援部門を含む）、および外科系専門診療各科が揃っており、幅広い患者さんを診ている病院です。その中で総合診療科は、救命救急科と協力して病院の窓口機能を担当しています。このような特徴から、一般小児科から、内科系専門診療科まで、幅広い研修が出来ます。また、シニアレジデントの教育は病院の根幹のテーマです。屋根瓦方式の“教えることで自ら学ぶ”ことを中心とした日々の教育とともに、専門診療科スタッフが総合診療科に加わる交流など、病院全体で教育に取り組んでいます。研究面では、臨床研究を支える部門が研究支援（計画、統計解析）をしているため、レジデントの学年研究のみならず、さまざまな研究に対するサポートを得られる体制が整っています。

■ 診療科目

総合診療科　心療内科　循環器科　内分泌・代謝科　血液・腫瘍科　腎臓・リウマチ膠原病科　神経内科
呼吸器科　結核科　感染症科　免疫科　消化器科　アレルギー科　臨床遺伝科　外科　心臓血管外科
泌尿器科　整形外科　形成外科　脳神経外科　眼科　耳鼻いんこう科　皮膚科　小児歯科　矯正歯科
臓器移植科　病理診断科　検査科　診療放射線科　麻酔科　児童・思春期精神科　集中治療科　救命救急科
新生児科　リハビリテーション科　心理・福祉科　在宅診療科　臨床試験科　遺伝子研究科

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

- 小児科　（広尾 / 大塚 / 多摩北 / 荏原 / 豊島 / 立川相互病院 / 松戸市立総合医療センター / 山梨大学連携病院）
- 精神科　（多摩総合 / 松沢 / 多摩あおば病院）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- 外科　（墨東 / 多摩総合）
- 小児科　（大塚 / 墨東）
- 精神科　（墨東 / 多摩総合 / 松沢 / 荏原 / 豊島）
- 整形外科　（多摩総合）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 東部 / 荏原 / 豊島）
- 耳鼻咽喉科　（多摩総合）
- 泌尿器科　（駒込）
- 病理科　（多摩総合）
- 放射線科　（駒込 / 多摩総合）
- 救急科　（墨東 / 多摩総合）
- 総合診療　（駒込 / 多摩総合）

（初期研修医向け“わくわく STEP セミナー”風景（コロナ前））

臨床研修委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修委員会委員長からのひとこと

総合診療科部長
幡谷　浩史

当院は小児専門病院であると共に、ER に多くの一次救急症例が受診します。この 2 点が当院の研修の特徴を形作っています。

総合診療科は研修の中核であり、小児科の基礎を学びます。3 万人（2021 年度）の ER の受診症例の中には common disease から稀な疾患まで多彩です。川崎病を例に挙げれば、年 100 症例を越える中には不全型や治療不応症例などが含まれます。症例数が多いと言うことは、同じ疾患でも違うバリエーションに出会うことでもあり、疾患をより深く学ぶことができます。

2 年目を中心に回る専門診療科での研修は、各学会の第一線で活躍している先生方と研修に来ている若手に囲まれて、専門分野について基礎から最先端までの幅広い知識に触れることができます。また、学んだことを総合診療科に戻ってきたときに下の学年に教える（屋根瓦方式）ことで、さらに知識を自分のものにすることができます。

昨年、都庁における医師アカデミー研究発表会がスライド提出になりましたが、当院では全学年が地方会に準じた形式で院内発表会を行いました。抄録作成から発表まで、年 1 回は指導するようにしています。発表会には院長・副院長も参加し、優秀演題を表彰します。

学年全員で前向きの臨床試験をおこなうのも当院の研修の特徴の一つです。clinical question を持ち寄り、臨床試験科のサポートを受けながら、3 年間で作り上げていきます。

教育に熱心なメンバーが集まる教育環境ワーキンググループが中核となり、教育の質を高めるための検討を続けています。3 年間、楽なことばかりではありませんが、子どもたちと家族の笑顔のために、一緒に学びませんか？

シニアレジデントからのひとこと①

小児科コース
令和3年度修了
佐野　海斗

当院での小児科研修は、臨床・研究・教育の三本柱を網羅し常にバランスよく学べるようプログラムが組み込まれています。臨床面ではこども病院として中核を担うため様々な難しい病態を持つ患者はもちろんのこと、一般小児科でも経験する肺炎、喘息、尿路感染症など様々な common disease を経験することが出来ます。特に当院における救命救急科での研修は非常に充実したものであり軽症から重症まで幅広く学ぶことが出来ます。こども病院だから一般小児科研修はできないのではと思っている方には必見の研修病院となっていることは間違いありません。研究面においては、3 年間をかけて入職同期者で協働して一つの臨床研修を立案しそれを実現していきます。臨床試験科をはじめとして全面的にバックアップしてくれる体制をとっています。3 年間かけて一つの研究を行い論文化することまで体制が整っている研修病院は非常に珍しいのではないでしょうか。最後に教育です。これは言うまでもなくレジデントが主体的になり後輩たちの指導を行います。屋根瓦式を用いたチーム形式での研修は自らが主体的に他者を理解できるように説明・指導をすることに実現します。指導をする難しさを感じると共に、教育の面白さ・奥深さを経験することが出来ます。また当院には多彩な臨床経験がある診療スタッフの指導の下、研修を行います。より充実した研修内容になることは間違いありません。小児科医を志したきっかけを胸に当院での研修を行ってみてはいかがでしょうか。

シニアレジデントからのひとこと②

精神科コース
3年次
吉田　賢

当院での児童・思春期精神科研修の最大のメリットは、やはり日本最大のこの施設規模ではないでしょうか。精神科だけで7病棟を擁し、院内学級や幼児から思春期までのデイケア、入院児と走り回れる広場や体育館まで揃っている超巨大施設です。症例についても、総合病院で内科と連携可能であることや国内では珍しい自閉症病棟もあるため、他施設では診療困難な身体的に重症な摂食障害の児や強度行動障害を伴う自閉症児なども受け入れ可能です。まさにできない治療、みられない症例はない、といった環境ですが、最後の砦として地域一帯から患者が集まるため、忙しい研修にはなります。もちろん症例検討会やクルズスなどは充実していますが、どちらかというと「ゆっくりと手とり足とり」ではなく、「走りながら学ぶ」というスタイルかもしれません。また、私自身が個人的に感じた当院の魅力は、在籍医師の多様なバックグラウンドです。初期研修、小児科、精神科、内科出身、また医師以前に教師をしていたなど様々で、当然その思考回路もみな面白いように違います。臨床で正解のない場面に多々遭遇するこの領域では、多種多様な考えに触れて、時には葛藤しつつ、自分自身が変わっていく、という作業が本質的な研修ではないかと思います。ぜひ一度見学にお越しください。お待ちしております。

松沢病院

〒156-0057
東京都世田谷区上北沢二丁目１番１号
電話　03-3303-7211

病院の概要

当院は、東京都の行政精神科医療等で中核的な役割を担っている精神科病院です。800床の精神科病床を有し、精神科医が約40名在籍しています。内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科の身体合併症入院病床も有し、身体科の医師は約30名在籍しています。精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、青年期医療、認知症医療、アルコール・薬物医療、医療観察法病棟の他、デイケア、精神科作業療法等を行っています。精神科領域のほとんどの疾患を経験することができ、措置入院や医療観察法入院を含め、すべての入院形態の症例を扱っています。当院は東京都世田谷区に位置し、至便な立地ながら緑豊かで広大な敷地を有しています。2019年には創立140周年、松沢移転100周年を迎え、新たな歴史を歩みはじめました。最先端の設備と温かい医療がここにあります。

■ 診療科目

精神科　内科　神経内科　外科　整形外科　脳神経外科　放射線科　麻酔科　歯科

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

・精神科　（広尾 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 小児総合 / 荏原 / 豊島 / 東京大学医学部附属病院 / 東京医科歯科大学病院 / 慶應義塾大学病院 / 昭和大学附属烏山病院 / 国立国際医療研究センター病院 / 東京都健康長寿医療センター / 中部総合精神保健福祉センター / 北海道大学病院 / 函館渡辺病院 / 埼玉医科大学病院 / 千葉県精神科医療センター / 聖マリアンナ医科大学病院 / 神奈川県立精神医療センター / 大阪精神医療センター / 岡山県精神科医療センター / 山口県立こころの医療センター / 済生会横浜市東部病院 / 埼玉県立精神医療センター / 東京医科大学病院）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

・内科　（広尾 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 大久保 / 多摩北 / 荏原）
・外科　（多摩総合）
・精神科　（墨東 / 多摩総合 / 小児総合 / 豊島）

（院内講習会の様子）

コース責任者及びシニアレジデントのひとこと

コース責任者からのひとこと

精神科部長
正木　秀和

当院にはジュニア・シニアレジデントを除いて、精神科医が 36 名、内科・外科などの一般科医が 27 名在籍しています。病床数は 890 床であり、病棟は救急病棟、急性期病棟、社会復帰病棟、思春期・青年期病棟、薬物・アルコール病棟、認知症病棟、身体合併症病棟、医療観察法病棟があります。合併症病棟を含め、すべて精神疾患の患者さんの治療を行っています。その他、デイケア、作業療法、心理療法などを専門のスタッフが行っています。当院のみで精神科に関するすべての研修が行えると自負しています。

当院での 3 年間の研修で、一人前の精神科医となることはもちろんですが、精神保健指定医資格取得、精神科専門医取得、臨床研究により学会発表・論文発表の技術・能力の獲得をめざします。救急病棟、急性期病棟、社会復帰病棟、思春期・青年期病棟、認知症病棟、アルコール・薬物病棟、身体合併症病棟等を 6 か月ずつ研修します。また 3 年間のうち、1 年間は連携施設で研修を行います。レジデントひとりひとりに責任指導医とメンターを配置し、レジデントの希望や研修の進捗状況に合せながら、定められた精神科コースの目標が達成できるようにきめ細かい指導を行っています。

当院のシニアレジデント研修は、皆さんの精神科医としての有意義なキャリアとなることをお約束いたします。

シニアレジデントからのひとこと

精神科
2年次
久和　俊介

当院の後期臨床研修の魅力の第一に経験できる症例が豊富であることが挙げられると考えます。私は当院で初期臨床研修を修了しましたが、精神科医療は医学的なガイドラインに沿った医療を行うことに加えて、治療面・社会背景面で個々の事例についてそれぞれの個別的な対応・問題解決が必要であることを痛感しました。そういった生の臨床経験を、経験豊富で高度な技量を持った上級医・当院スタッフから学び、指導を受けたいと考え当院での後期臨床研修を志望しました。

また、第二には当院の専門病棟の充実とコースプログラムでの協力病院の充実が挙げられます。専門性の高い多彩な症例を経験できることは後期臨床研修以降のフェローシップの方向性において多くの示唆を富むものであると考え、自分自身、大変楽しみにしています。

第三に当院では院内の勉強会が活発であり、内部で盛んに指導的カンファレンスや症例検討会が行われている上、外部の各専門分野のトップランナーの先生を招聘し最新の知見や専門家の意見を知ることが出来る講演会も開催されています。

したがって、本コースプログラムに参加することは極めて密度の高い精神科臨床技術を涵養できると考えます。また、当院は東京都の精神医療の中核を担う病院の一つであり、当院の臨床に携わることは大変やりがいのある仕事です。皆さんと共に当院で学び・働くことを心待ちにしています！

（カンファレンスの様子）

（中庭にて）

東部地域病院

〒125-8512
東京都葛飾区亀有五丁目14番1号
電話　03-5682-5111

病院の概要

東京都の東部地域（葛飾・足立・江戸川・墨田・江東・荒川の各区）における中核病院です。急性期疾患を対象にがん医療、救急医療、循環器医療、内視鏡医療、小児医療を重点医療として取組んでいます。

地域医療支援病院（都内指定第1号）として、地域医療機関（診療所等）と積極的で緊密な連携を図ることで医療の継続性を確保し、地域住民の方々に適正な医療を提供しています。

当院は救急患者を除き、原則として地域医療機関からの紹介患者を予約診療しています（紹介予約制）。

患者が当院での診察・検査後に当院で診療を受ける必要のない状態に回復した場合は、症状に応じて紹介元医療機関への返送や適切な地域医療機関への逆紹介も行っています。

また、当院の地域連携システムの趣旨に賛同する地域医療機関の医師を連携医として登録し、連携医は、自己の紹介した患者が当院に入院した場合、必要に応じて当院の医師と共同で診療することができます。

■ 診療科目

内科　消化器内科　呼吸器内科　循環器内科　糖尿病内科　腎臓内科　小児科　外科　整形外科　脳神経外科
心臓血管外科　消化器外科　泌尿器科　婦人科　眼科　耳鼻咽喉科　放射線科　麻酔科　病理診断科

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

・麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 豊島 / 順天堂大学医学部附属順天堂医院 / かわぐち心臓呼吸器病院 / 越谷市立病院）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

・内科　（墨東 / 大久保）
・外科　（墨東）
・麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 荏原 / 豊島）

（カンファレンスの様子）

（院内コンサート）

臨床研修委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修委員会委員長からのひとこと

副院長
鈴木　聡子

当院は日本医療機能評価機構の認定をうけており、また DPC 対象病院として地域住民に対する二次救急・急性期医療を中心とした診療を行っております。さらにがん医療が重点医療となっております。多数の専門医をはじめとする医療スタッフの充実が図られ、病院全体の活気も非常に高いものがあります。後期臨床研修施設として平成 20 年 4 月に開講した東京医師アカデミーに参加し、基幹施設として麻酔科コース、連携施設として内科系（消化器・呼吸器・循環器）、外科系（外科）のコースを用意しております。

基幹施設である麻酔科コースでは、麻酔の基本から応用、さらに救命救急など充実した研修が用意されております。連携施設である内科系コースでは消化器疾患・呼吸器疾患・循環器疾患において、それぞれのエキスパート指導医から直接指導を受けられます。同じく連携施設である外科系コースでは、消化管、肝・胆・膵疾患や乳腺・一般外科疾患に優秀なスタッフがそろっております。なお、当院で研修できない領域に関しては、東京医師アカデミーの連携施設・順天堂大学附属病院等と連携を取り、不自由のないシステムが既に構築されております。

当院は各種学会における研修指定施設であり、各専門医資格習得を目指した症例も十二分に経験することが可能です。さらに、他の資格習得等に関する支援体制も充実しており、医学博士号取得の道も開けております。また、国際学会発表における助成制度もあり、アカデミックな環境も整っております。やる気のある後期臨床研修医を、スタッフ一同、心より歓迎いたします。

シニアレジデントからのひとこと

消化器内科
令和2年度修了生
柿木　賢太郎

東部地域病院の内科は、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科をメインとして、それぞれ自分の好きな科で研修を積むことができます。内科の後期研修医として 3 科を自由にローテートすることも可能です。また、医師アカデミーに所属している他の病院から希望する病院、科を選択し、年に数カ月の期間研修することが可能であり、東部地域病院では経験することが難しい症例を研修できることも、魅力の一つであると考えます。

入院患者は担当医制であり、主治医として受け持ち、必要に応じて上級医に相談しながら治療を行っていきます。たとえば、救急で診察した一人の患者さんを入院させ、時には悩みながら診断し、治療方針を立てていき、無事退院までこぎつけたときはとても嬉しいものです。ぜひ一度見学にいらして下さい。

多摩南部地域病院

〒206-0036
東京都多摩市中沢二丁目１番２号
電話　042-338-5111

病院の概要

東京都南多摩保健医療圏（八王子・町田・日野・多摩・稲城の５市）の中核病院として、「地域医療支援病院」の指定を得ています。地域医療機関からの紹介予約制を基本とし、地域医療機関との機能分担及び共同診療、高額検査機器の共同利用、地域医師の生涯研修等を通じて地域医療機関と緊密な連携を図りながら、地域住民に対し継続性と一貫性のある適切医療を提供しています。

■ 診療科目

内科　神経科　循環器内科　小児科　外科　整形外科　脳神経外科　皮膚科　泌尿器科　婦人科　眼科
耳鼻咽喉科　放射線科　歯科口腔外科　麻酔科　緩和ケア科　検査科（病理）

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

・内科　（多摩総合 / 神経 / 多摩北 / 北里大学病院 / 浦添総合病院 / 中頭病院 / 友愛医療センター / 聖マリアンナ医科大学 / 川崎市立多摩病院 / 立川相互病院 / 島しょ等）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

・内科　（多摩総合 / 大久保 / 多摩北）
・外科　（多摩総合）
・麻酔科　（多摩総合）
・泌尿器科　（駒込）

（明るく広々とした院内）

臨床研修委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修委員会委員長からのひとこと

副院長
橘　俊一

多摩南部地域病院は、１９９８年以来の臨床研修指定病院としての実績を元に、２００４年の初期臨床研修必修化以降も毎年多くの応募を頂いております。さらに後期臨床研修として内科系コースを設定し、４年間でそれぞれ専門知識・経験を積んでいただき、将来当院のスタッフとしても参加できるような医師の育成を目指しております。

内科系コースは、東京医師アカデミーに参画することにより、東京医師アカデミーの連携施設での研修が可能となり、幅広い知識・経験を習得することで内科専門医を取得するとができます。

また、当院の特徴でもあります地域医療連携を通して、地域に根ざした総合医・家庭医の育成のほか、重点医療でもありますがん医療においては診断から治療、緩和医療、在宅医療に至るまで、継続した医療を実践できるような指導体制が整っております。

シニアレジデントからのひとこと

内科
２年次
村石　宇内

多摩南部地域病院内科シニアレジデントの村石です。内科を幅広く学びたいと思い市中病院の内科プログラムに絞って後期研修先を探していました。症例を多く経験することも大切ですが、１つ１つの症例を丁寧に上級医の先生方の意見をいただきながら経験して、自己流に偏らない基礎を身に着けたいと考えていました。当院では、少人数のカンファでフィードバックを受けながら診療が進められます。また、文献にあたって調べる雰囲気･環境も備わっており、内科医として生涯に渡って必要な基礎的な能力が身につくと感じています。学年の近い後期研修の先生方が多く在籍しているため、活発に意見を交換しあえるのも魅力です。

３年次は内科を３か月毎にローテーションしていきます。当院では腎臓・血液・神経・感染症内科の専門医が不在でありますが、これらの科については多摩総合など同じ東京医師アカデミーの病院で、遠方の土地に飛ぶことなく柔軟に研修することができます。Common disease に対応できるようになった後に、経験する症例の幅を広げたいと考えた時に、東京医師アカデミーという大きなスケールが生きてくると思われます。また、後期研修以降も選択肢が多く残されており、特に初期研修中にサブスペシャリティまで決めかねている方には最適だと思われます。また、希望すれば離島医療も経験することができます。

内科医としての確かな基礎作りと多様な選択肢を考えている方は、是非一度見学にいらしてください。

（内科カンファレンスの様子）

（リウマチ内科外来の様子）

大久保病院

〒 160-8488
東京都新宿区歌舞伎町二丁目 44 番 1 号
電話　03-5273-7711

病院の概要

当院は新宿区歌舞伎町に位置する東京都区西部医療圏の中核病院です。急性期病院として、①腎医療（腎移植、透析、IgA 腎症、慢性腎臓病）、②循環器医療（心臓カテーテル、不整脈治療）、③がん医療（乳がん、消化器がん）、④脳卒中医療（脳神経内科、脳外科、リハビリ科）、⑤救急医療（二次救急指定医療機関）を重点医療として位置づけています。これらの機能に加えて回復期病床（地域包括ケア病棟）も備え、地域医療支援病院、在宅療養後方支援病院として地域住民との関係を密にした医療を推進しています。さらに当院周囲には在日外国人が多く居住されているという環境の中で、訪日外国人の増加に備えた病院の国際化にも取り組んでいます。304 床というコンパクトな施設ですが、急性期に対応する専門性と地域支援の両方の機能を兼ね備えた病院として、各診療科が高い意識を持ちつつ日常臨床を行っています。

■ 診療科目

内科（消化器内科　呼吸器内科　内分泌代謝内科　脳神経内科　救急科）　腎臓内科　循環器内科
外科（一般外科　消化器外科　乳腺内分泌外科）　血管外科　乳腺外科　整形外科　リハビリテーション科
脳神経外科　泌尿器科／移植外科　婦人科　眼科　耳鼻咽喉科　歯科口腔外科　麻酔科　放射線科　精神科
皮膚科　病理診断科

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

・内科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 松沢 / 東部 / 多摩南 / 荏原 / 豊島 / 東京女子医科大学 / 東京医科大学 / 戸田中央総合病院 / 島しょ等）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

・内科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 多摩北 / 荏原 / 豊島）
・外科　（多摩総合）
・麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 東部 / 荏原 / 豊島）
・病理科　（駒込）

（研修医集合写真）

（勉強会の様子）

臨床研修委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修委員会委員長からのひとこと

脳神経内科部長
原　由紀子

内科総合専門医は 11 名おり、多数学会の認定教育病院であり、各科専門医資格を持つ指導医が充足しています。指導医は皆、熱心で、医局は全科同室でアットホームな雰囲気です。DPC 病院では併診の垣根が高くなりがちですが、当院では垣根がなく、患者さん中心の傾向が強いです。人の和を大切にしていますので、心地よく研修ができると思います。新宿歌舞伎町という立地条件で、交通アクセスやアフター 5 の交流の便が良く、症例が豊富、刺激的で、手技が多くどんどん自信が付きます。実力をつけていく姿を見るのも指導医の楽しみです。若い知識欲旺盛の先生に来ていただくことで、指導医自身も活力と向上心を共有したいと願っています。

新内科専門医制度となり、サブスペシャルの専門医取得が遅れるのでは?と危惧している研修医がいますが、そんなことはありません。内科総合専門医と各サブスペシャル専門医の取得を同時進行で考慮しています。専門科を決定していれば、他科、他院をローテートしていても、専門医取得に必要な学会発表、論文投稿を積み重ねて、症例経験、手技も認定医・専門医取得を最短でできるように指導を行います。

シニアレジデントからのひとこと

内科
3年次
木村　仁美

大久保病院で東京医師アカデミーシニアレジデント研修をお勧めする理由

①オーダーメイドの研修

東京医師アカデミーの 14 病院は、それぞれの病院が強みを持っています。専門医を取得するにあたり、診療科ごとに内科・救急ローテーションをする研修病院や期間を自分の学びたいことに合わせてフレキシブルに組み合わせることができます。

②大久保病院の重点医療「腎臓・循環器・脳卒中・がん医療」

大久保病院は腎センターとしての役割を担っており、IgA 腎症専門外来や、多発性嚢胞腎外来、療法選択外来 (生体腎移植・血液透析・腹膜透析) 等があり、外来維持透析もたくさん経験することができます。また移植外科と連携して腎移植も盛んに行っています。さらに腎生検、透析カテーテル挿入術、透析シャント作成術など手技が多い事も特徴です。

③手厚い指導体制、様々な疾患・患者背景に対応できるようになる

腎臓内科は医師数が多く、バックアップ体制も強いので、主治医として安心して様々なことを経験できます。一般内科的な症例も豊富なので内科力を総合的に磨くことができます。各科の間の垣根も低いので他科の先生方に気軽に相談し、熱心に教えていただけることも大きなメリットです。また、土地柄、外国人患者もたくさん診察する機会があります。

働きながら子育てをされている女医さんも多く、無理なく仕事を継続できる勤務体系が整っています。ぜひ気軽に見学にいらしてください！

（病棟カンファレンスの様子）

（透析室の風景）

多摩北部医療センター

〒 189-8511
東京都東村山市青葉町一丁目 7 番地 1 号
電話　042-396-3811

病院の概要

当院は東村山市にあり地域の急性期病院として、北多摩北部医療圏（西東京市、東村山市、清瀬市、東久留米市、小平市）約 74 万人の医療を支えています。

内科系・外科系ともに各領域の専門医のもとにあらゆる疾患に対応できる総合診療基盤を有しています。また、横断的なカンファレンス、抄読会、院外有名講師によるレクチャーなどを定期的に開催しており、教育体制も充実しています。なかでも、救急医療（年間救急患者約 7 千人、救急車約 3 千台）、がん医療（東京都がん診療連携協力病院（大腸がん・前立腺がん）に認定）を重点医療とし、さらに小児医療（年間救急患者 2,366 人、救急車 332 台）にも力を入れており、新生児から超高齢者までオールラウンドな診療を展開しています。

■ 診療科目

内科　内分泌・代謝内科　循環器内科　腎臓内科　呼吸器内科　消化器内科　神経内科　血液内科
リウマチ膠原病科　小児科　外科　脳神経外科　整形外科　皮膚科　麻酔科　泌尿器科　婦人科　眼科
耳鼻咽喉科　精神科　歯科口腔外科　リハビリテーション科　放射線科

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

- 内科　（駒込 / 多摩総合 / 神経 / 松沢 / 多摩南 / 大久保 / 公立昭和病院 / 複十字病院 / 榊原記念病院 / 国立病院機構東京病院 / 日本医科大学付属病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター / 杏林大学医学部付属病院 / 東京医科歯科大学病院 / 島しょ等）
- 総合診療　（駒込 / 多摩総合 / 東京女子医科大学病院 / 奥多摩町国民健康保険奥多摩病院 / 社会福祉法人恩賜財団済生会支部茨城県済生会　常陸大宮済生会病院 / 医療法人社団実幸会 石橋クリニック / 公立置賜総合病院）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- 内科　（駒込 / 多摩総合 / 多摩南）
- 外科　（多摩総合）
- 産婦人科　（多摩総合）
- 小児科　（小児総合）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 東部 / 荏原 / 豊島）
- 泌尿器科　（駒込）
- 病理科　（多摩総合）
- 救急科　（多摩総合）

（内科）

（小児科）

臨床研修委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修委員会委員長からのひとこと

循環器科部長
村﨑　理史

ジュニアレジデントの皆さんは、2年間の初期研修の中で自らの将来像を考え、専門を選択していくことになります。専門医制度は大きく変化し、とくに内科系を目指す皆さんの中には、少々悩ましく思っていらっしゃる方もいるのではないでしょうか。従来の標準タイプ研修だけではなく、サブスペシャルティを意識した連動研修による重点研修や混合研修タイプも可能となり、選択肢は多様になっています。ひょっとして先生は、「内科系には進みたいけど、腎臓にするか、呼吸器にするか・・・」などと迷っていませんか？

当院は東京都下人口約74万人を擁する北多摩北部医療圏において、中心的な急性期治療を担う337床の中規模病院です。連携病院とともに全ての内科系診療科を揃え、年3～4名の定員で内科標準タイプの専門研修プログラムの下に、多岐にわたる疾患群を経験し、先ずは、そして確実に総合内科専門医を目指すことが出来ます。サブスペシャルティが決まっていない内科系志望の方も、濃密な3年間の中で目指す方向が見えてくると思います。勿論希望するサブスペシャリティに重点をおいた柔軟な研修プログラム構築にも対応しており、死角はありません。

都心にアクセスが良いわりに、緑豊かな立地にあるのも当院の魅力の一つです。「どんな病院なんだろう？」と興味を持たれた先生は、是非一度見学にいらして下さい。平日はいつでもお待ちしています。

シニアレジデントからのひとこと

内科
2年次
長嶋　勇希

当院は、人口約74万人を有する北多摩北部地域の地域医療支援病院であり、地域医療の中核を担う病院です。都心へのアクセスは小1時間程と容易であり学会や勉強会等の参加に便利な立地です。

病院全体で340床程度と小規模ですが、循環器や消化器、腎臓・神経・内分泌・血液・膠原病といったほとんどの内科は院内に揃っています。当院の内科プログラムは3年かけて各内科領域をローテーションしていきます。基本はサブスペシャリティ領域に関わらず、様々な科の疾患を経験していくことになりますが、サブスペシャリティに特化した研修を行うことも可能です。呼吸器科については、近隣にある複十字病院や東京病院等といった施設で研修を行います。このため、内科研修手帳にあるような様々な症例について経験できます。担当医として入院から退院までの経時的な診断、治療の流れを通じて社会的な背景等をも包括する全人的医療を実践します。また外来や救急業務も主体的に行うことができます。具体的には内科外来が週1回1コマ、救急外来を週1回1コマ担当しています。それ以外の週8コマについては、当該科での研修に専念します。その他、日当直が月に4回程度あります。

当院は、2次救急病院であり3次救急については、院外で3か月間、多摩総合医療センター等の救命救急センターでの研修がプログラムに取り入れられています。

若手医師は東京医師アカデミー出身や大学医局派遣と様々であり、後期研修修了後は、そのまま当院に残ったり、あるいは他病院への就職や大学の医局入局などしがらみもなく、自由です。

当院の研修内容はすべて伝え切れませんが、興味を持たれた方は、是非当院に見学にいらしてください。お待ちしております。

荏原病院

〒 145-0065
東京都大田区東雪谷四丁目 5 番 10 号
電話　03-5734-8000

病院の概要

荏原病院は、設立から 100 年を超える東京都大田区に位置する歴史ある病院で、田園調布を中心に、城南地区と呼ばれる大田区・品川区・世田谷区・目黒区の地域医療を担う中核病院としての役割を果たしています。

当院は、急性期医療において、地域医療機関と連携しながら二次医療機能を担う病院としての役割を担っていますが、脳血管疾患医療や集学的がん医療などについても重点的に取り組んでいます。総合病院としての背景を生かし、救急医療、高気圧酸素治療、総合脳卒中センター、認知症疾患医療センター、緩和ケア、感染症内科などの特色ある機能を持っています。日本の医療の将来を担う若手医師の育成も当院の重点項目の一つであり、新専門医制度に対応した基幹施設として、内科、麻酔科、精神科の専門プログラムが設定されており、多くの若手医師が日々院内外で研鑽を積んでいます。

■ 診療科目

内科　循環器内科　感染症内科　神経内科　脳神経外科　外科　乳腺外科　整形外科　リハビリテーション科
小児科　皮膚科　形成外科　泌尿器科　眼科　産婦人科　耳鼻咽喉科　歯科口腔外科　精神科　麻酔科
放射線科　検査科　病理診断科

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

- 内科　（大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩 / 神経 / 松沢 / 大久保 / 東邦大学医療センター大森病院 / 昭和大学病院 / 昭和大学藤が丘病院 / 昭和大学横浜市北部病院 / 昭和大学江東豊洲病院 / 蒲田クリニック / 東京医科大学病院 / 島しょ等）
- 精神科　（多摩総合 / 小児総合 / 中部総合精神保健福祉センター / 医療法人社団　正慶会　栗田病院 / 横浜市立みなと赤十字病院 / 東京医科歯科大学病院 / 医療法人社団 柏水会　初石病院）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 大久保 / 多摩北 / 豊島 / かわぐち心臓呼吸器病院 / 昭和大学病院 / 昭和大学藤が丘病院 / 昭和大学横浜市北部病院 / 昭和大学江東豊洲病院 / 静岡済生会総合病院）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- 内科　（駒込 / 墨東 / 大久保）
- 外科　（墨東）
- 小児科　（小児総合）
- 精神科　（多摩総合 / 松沢）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 東部 / 豊島）
- 放射線科　（駒込 / 多摩総合）

（研修風景）

臨床研修委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修委員会委員長からのひとこと

精神科部長
成島　健二

荏原病院は東京医師アカデミーに属し、3つの専門医研修プログラムを持ちます。461 病床、21 診療科をもつ当院は、働きやすい中規模の総合病院であり、医師同士の距離感が近いため、アットホームな雰囲気でフットワークのよい診療が実践されています。このような診療環境は、若手医師の教育の場面でも存分に活かされています。

内科専攻医は、消化器、循環器、呼吸器、内分泌、感染症に所属する専門医から直接指導を受けるとともに、地域に根差した病院であることを背景に、いわゆる common disease を幅広くかつ十分に経験することができます。麻酔科専攻医は、恵まれた指導体制のもとに、きめ細かい指導を受けますが、小児や心臓手術などの特殊な麻酔は院外研修が可能です。ペインクリニックや緩和ケアなども、希望があれば経験できます。精神科専攻医は、総合病院の医療資源を生かして十分な検査を行い、薬物療法、精神療法などを柔軟に組み合わせて最善の治療を行うプロセスを体験できます。専攻医は指導医からの指導に加え、カンファレンスで多面的な指導を受けるため、精神科医療の基本を効率的に体得できます。看護師、心理士、精神保健福祉士等との密度の濃いチーム医療は、研修をより実りあるものにするでしょう。

全ての研修プログラムは、院内研修のみでも実践的かつ具体的な知識や治療技法を身につけられるよう設定されていますが、専門性の高い他施設と連携することで、専攻医に理想的な研修環境を提供しています。

シニアレジデントからのひとこと

精神科
3年次
近藤　真央

荏原病院は東京医師アカデミーに所属しており、本病院を基幹施設として内科、麻酔科、精神科の後期研修を行うことができます。感染症内科が取り上げられることが多いですが、精神科病床を持つ総合病院ということも特色かもしれません。

地域との連携を重視しているため周辺機関からの紹介も多く、当病院が23区南部の最後の砦の一つとして機能していることを実感することが多いです。扱う症例も必然的に大学病院や一部大病院などより幅広くなり対応力が磨かれます。後期研修医も当然戦力として期待されており、精神科に関して言えば初年度から自身の初診/再診外来を持つ他、入院患者の主治医や当直も任されていきます。ただし量で勝負というわけではなく、むしろ一つ一つの症例や場面ごとで丁寧に悩みながら自分なりの判断を下していく感覚かもしれません。その過程で指導医と議論したりあるいは自身で学習したりする時間も十分確保できるため、伸び伸びと成長することができる環境だと感じます。

またプログラムの提携病院も多く、他施設で研修する機会が柔軟に用意されていることも特徴です。精神科で言えば措置入院症例や児童症例なども提携先で経験することができるため、本プログラムだけで専門医や指定医などの資格を十分取得することができます。後期研修に求めるものは人それぞれではありますが、私自身としては非常に充実した日々を送っております。是非研修先として検討してみてください。

（レジデント・指導医集合写真）

（研修風景）

豊島病院

〒173-0015
東京都板橋区栄町33番1号
電話　03-5375-1234

病院の概要

豊島病院は東武東上線大山駅（池袋から5分）から徒歩約8分、中板橋駅から徒歩約10分、都営三田線板橋区役所前駅から徒歩約12分の立地にあり、地域支援型病院として23区西北部（板橋区、練馬区、北区、豊島区）の地域医療を担っています。（1）救急医療（二次救急）、（2）がん医療（消化器系・呼吸器系悪性腫瘍を中心に、血液、泌尿器系、婦人科系悪性腫瘍等）、（3）脳血管疾患（脳神経外科および神経内科が協力して脳卒中ケアユニットを構築）を重点医療として取り組み、地域との連携を重視した医療を推進しています。当院では“断らない救急“を目指しており、二次救急指定病院としての救急医療、緩和ケア、精神科救急、感染症、リハビリテーション、障害者歯科にも積極的に取り組んでおります。また病床数470床の中規模病院ですので各科、各部署との連携が取りやすく小回りがきくのが特徴です。

■ 診療科目

内科　神経内科　内分泌・代謝内科　呼吸器内科　消化器内科　循環器内科　腎臓内科　血液内科　精神科　小児科
外科　消化器外科　乳腺外科　整形外科　形成外科　脳神経外科　皮膚科　泌尿器科　産婦人科　眼科　耳鼻咽喉科
リハビリテーション科　放射線科　歯科口腔外科　麻酔科　感染症内科　緩和ケア内科　病理診断科　救急科

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

- 内科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 大久保 / 東京都健康長寿医療センター / 東京医科歯科大学病院 / 日本大学医学部附属板橋病院 / 青梅市立総合病院 / JCHO東京山手メディカルセンター / 新渡戸記念中野総合病院 / 国立病院機構災害医療センター / 武蔵野赤十字病院 / 横須賀共済病院 / 横浜南共済病院 / 横浜市立みなと赤十字病院 / 平塚共済病院 / 土浦協同病院 / JAとりで総合医療センター / 柏市立柏病院 / 草加市立病院 / 秀和総合病院 / さいたま赤十字病院 / 島しょ等）
- 精神科　（小児総合 / 松沢 / 恩田第二病院 / 東京都健康長寿医療センター / 国立精神・神経医療研究センター / 成増厚生病院 / 陽和病院 / 東京足立病院 / がん研有明病院 / 東京都立精神保健福祉センター / 東京医科歯科大学病院 / 小山富士見台病院 / 平川病院 / 大宮厚生病院 / 青梅成木台病院）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合 / 東部 / 大久保 / 多摩北 / 荏原 / 順天堂大学医学部附属順天堂医院 / 東京女子医科大学病院 / 日本大学医学部附属板橋病院 / 越谷市立病院）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- 内科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 大久保）
- 外科　（墨東）
- 小児科　（小児総合）
- 精神科　（松沢）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 東部 / 荏原）
- 泌尿器科　（駒込）
- 病理科　（駒込）

（内科カンファレンス）

臨床研修委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修委員会委員長からのひとこと

検査科部長
鄭　子文

新専門医制度により豊島病院は内科、麻酔科、精神科の基幹病院となりましたが、その他の診療科も連携病院として今までの研修レベルが変わることはなく、各科専門領域の認定医、専門医の取得を目標としてカリキュラムが作られています。当院における研修の特徴は、なんといっても技術習得の機会が多いことにあります。レジデントの経験する手術症例数、検査手技数が他の施設と比べて非常に多くなっています。日常の臨床では、専攻医（シニアレジデント）の活躍の場が多く、一般臨床だけでなく二次救急を支えるプライマリケア医としても活躍してもらいます。初期研修医への教育も担ってもらいます。診療環境として、看護師、検査技師等のコメディカル、各科、各部署の連携が取りやすく医療が円滑に行われることは君たち専攻医が活躍してゆくのに極めて有効です。これらが豊島病院の特質です。 勉強もしてください。院内研修会、CPC、学会発表など機会は多く、参加費の援助も出ます。豊島病院の研修には自分の未来が見える確実な研修システムと人間関係があります。希望する科のカリキュラムをご覧ください。もっと知りたいときはメールで連絡していただいて直接見学に来てください。今まで書かせていただいたことを実感していただけるはずです。

シニアレジデントからのひとこと

内分泌代謝内科
4年次
石本　飛鳥

豊島病院専門臨床研修医の石本飛鳥と申します。

当院及び当プログラムで内科専門医取得に必要な様々な症例を経験することができます。研修に関して比較的柔軟に対応でき、私は当院で血液内科、呼吸器内科、腎臓内科をローテートしました。また、東京医師アカデミーの各病院と連携しており、大塚病院でリウマチ膠原病科、消化器内科、糖尿病内科、広尾病院では救命センターで多くの症例を経験しました。現在は内分泌代謝内科に所属し、週２回の専門外来診療及び糖尿病教育入院や内分泌負荷試験を含めた入院診療、内科救急患者の対応等を行っています。自身の科はもちろん他科の医師にも相談がしやすく、また看護師、薬剤師やその他スタッフの雰囲気もよく働きやすく感じています。加えて、当院は感染症指定病院であり新型コロナウイルス感染症の診療を積極的に行ってきました。新規の疾病に対して行政、医療機関、世界がどのように対応していくかを自身も診療に関わる中で感じることが出来ました。

興味を持たれた方は、ぜひ見学にいらして下さい。

（修了式）

（外科手術）

東京医師アカデミー　クリニカル・フェロー

高度専門医療の修得を目指す方を対象にした研修コースです。
高度医療や臨床研究にも携わり、各病院の中核を担うトップレベルの専門医を育成します。
研修プログラムは、①各病院で特徴としている高度専門医療を通じて研鑽を図ること②各病院では経験できない先端医療技術を、一定期間の国内外派遣により修得すること③臨床だけでなく、臨床研究や論文・学会発表等を行う中で医師として必要とされる技量をさらに磨いていくこと等を主眼に設計しています。
※クリニカル・フェローは既に専門医を取得あるいは受験資格を有する方が対象となります。

令和５年度生フェロー選考日程（予定）

処遇等

身分：東京都立病院機構　任期付法人職員
給与：医師免許取得後 6 年目の場合 / 年収 8,773,000 円程度
休暇等：年 20 日（4 月 1 日採用の場合、初年度は 15 日）
その他：国内外医療機関派遣制度、学位取得支援制度あり

※詳細は東京医師アカデミーホームページをご覧ください。
※研修終了後は必要に応じて、他の病院へ異動していただくことがあります。

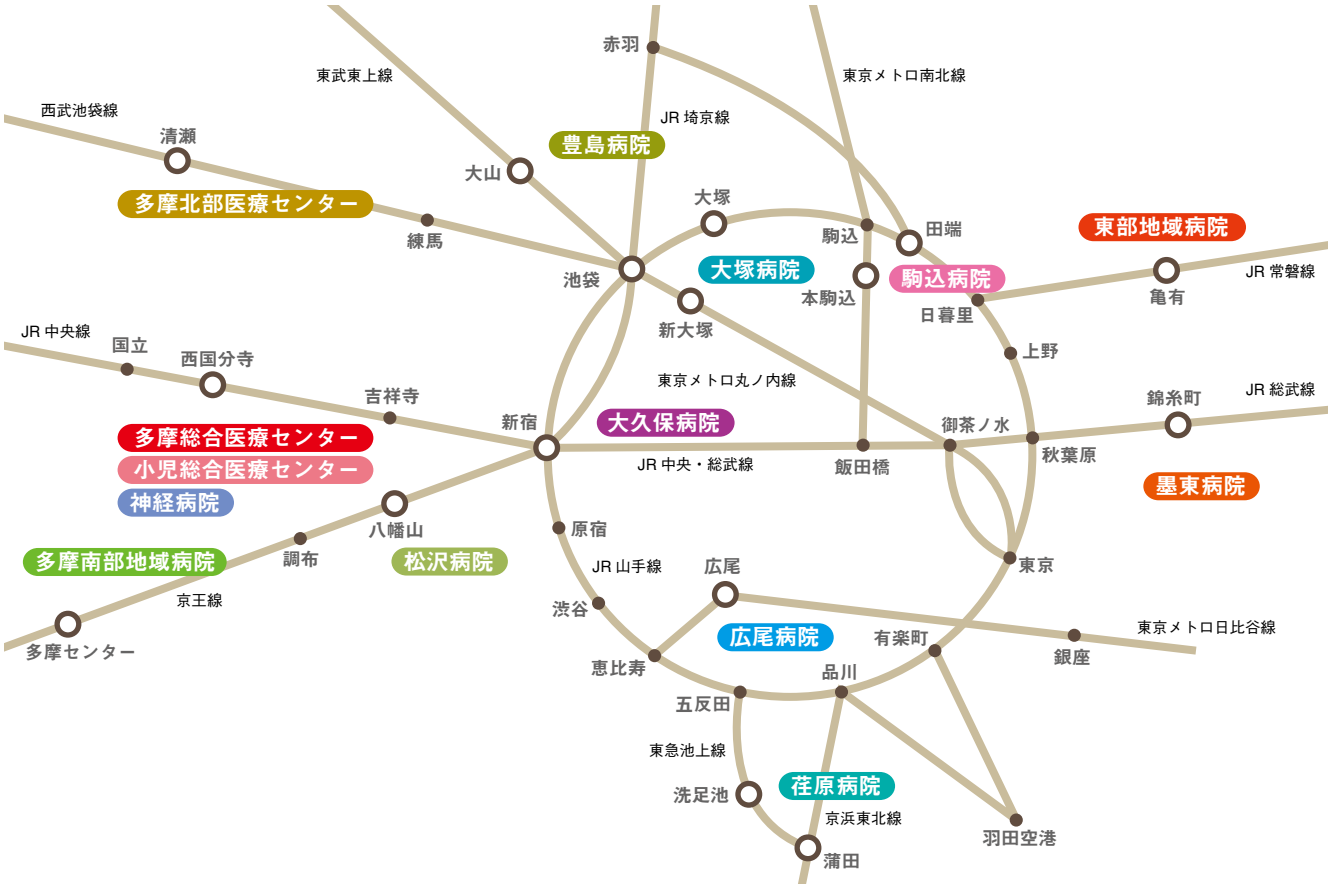
Memo

Memo

Memo

Memo

病院一覧



P.62	広尾病院	☎ 03-3444-1181
P.64	大塚病院	☎ 03-3941-3211
P.66	駒込病院	☎ 03-3823-2101
P.68	墨東病院	☎ 03-3633-6151
P.70	多摩総合医療センター	☎ 042-323-5111
P.72	神経病院	☎ 042-323-5110
P.74	小児総合医療センター	☎ 042-300-5111
P.76	松沢病院	☎ 03-3303-7211
P.78	東部地域病院	☎ 03-5682-5111
P.80	多摩南部地域病院	☎ 042-338-5111
P.82	大久保病院	☎ 03-5273-7711
P.84	多摩北部医療センター	☎ 042-396-3811
P.86	荏原病院	☎ 03-5734-8000
P.88	豊島病院	☎ 03-5375-1234

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

目指せ！ジェネラリストからスペシャリストまで！

東京の医療が君を待っている。

広尾病院	☎ 03-3444-1181
大塚病院	☎ 03-3941-3211
駒込病院	☎ 03-3823-2101
墨東病院	☎ 03-3633-6151
多摩総合医療センター	☎ 042-323-5111
神経病院	☎ 042-323-5110
小児総合医療センター	☎ 042-300-5111
松沢病院	☎ 03-3303-7211
東部地域病院	☎ 03-5682-5111
多摩南部地域病院	☎ 042-338-5111
大久保病院	☎ 03-5273-7711
多摩北部医療センター	☎ 042-396-3811
荏原病院	☎ 03-5734-8000
豊島病院	☎ 03-5375-1234

東京都病院経営本部 経営企画部職員課
TEL. 03-5320-5861
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都庁 第一本庁舎24階

登録番号（4）2
令和４年6月発行